

<b>科目名</b>	宗教学的人間学		
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎		
<b>開講期</b>	後期		
<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修		
<b>授業概要</b>	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報も取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。		
<b>達成目標</b>	「到達目標」 ・宗教学的”ものの見方”を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。		
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、合とする。
<b>教科書</b>	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。		
<b>参考書</b>	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。		
<b>学生への要望</b>	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。		
<b>自学自習</b>	・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。 ・事後学習：与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのもがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点を置いてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神論的宗教と無神論的宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間主義的宗教	人間に視点を置いてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神論的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリヤデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。

平成29年度

<b>科目名</b>	宗教学的人間学		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単 位 必修
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。			
<b>達成目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教学的"ものの見方"を理解する。</li> <li>・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。</li> <li>・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、合とする。	
<b>教科書</b>	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
<b>参考書</b>	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的に参加すること。</li> <li>・ノートをこまめにとること。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			
<b>自学自習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習:当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。</li> <li>・事後学習:与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。</li> </ul>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神論的宗教と無神論的宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがああり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神論的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリヤデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。

<b>科目名</b>	哲学的人間学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単 位 必修
<b>担当教員</b>	小阪 康治			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	この講義は、前期で哲学を講義したので、それを基礎にさらに思想的な訓練を深めていくことを目的とします。 前期は聞くのが主の講義でした。後期では、考えて表現することを練習しようと思っています。そのためには読むことと書くことを中心に講義を進めていくつもりです。テーマや内容は、受講者と相談しながら変えることもあります。 [履修カルテの評価項目] ① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度体験できたか。			
<b>達成目標</b>	この講義は、前期で哲学を講義したので、それを基礎にさらに思想的な訓練を深めていくことを目的とします。 前期は聞くのが主の講義でした。後期では、考えて表現することを練習しようと思っています。そのためには読むことと書くことを中心に講義を進めていくつもりです。テーマや内容は、受講者と相談しながら変えることもあります。 [履修カルテの評価項目] ① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度体験できたか。			
<b>受講資格</b>	特になし		<b>成績評価 方法</b>	書くことを通じて、考えを養うので、最終成績は、毎回のレポートの総合でつけます。それだけではなく、講義時間内での発言などの積極性、加算して、最終成績にします。出席回数は規定通りに適用します。 読んで理解する。30% 論理的に書く。50% 講義中の積極的な発言。20%
<b>教科書</b>	受講生と相談して決める。			
<b>参考書</b>	必要に応じて指示する			
<b>学生への要望</b>	この講義は、何よりも書くことを練習するので、そのつもりで積極的に各課題に取り組んでほしい。前期の講義の内容を主に、学生諸君の興味、関心、また社会状況においてテーマを設定するつもりです。			
<b>オフィスタイム</b>	火、水曜日昼休み。研究室			
<b>自学自習</b>	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくこと試験時に良い結果が出ると思う。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義の内容、目的、方法の説明	物事を考え、分析し、自分の考えをまとめて、それを表現するとはどういうことかを、まず皆で考えてみます。それから講義の進め方、やり方などを説明します。必要な用紙等の配布、参考書を使用するかどうか、皆で相談します。
2	幸福について考える	幸福について、皆で意見を出し合ってから、このテーマについて書いてみる。
3	どんなふうにして人は物事を知るか	物事を知るというのはどういうことか。正確に知る、だいたいの知識でいい場合。皆で話してみたら、このテーマについて書きます。
4	福祉について	社会福祉がこれから社会の重要な問題になります。専門に学んでいる人だけでなく一般の人でも考えておかねばならない問題でしょう。今回はこのテーマです。
5	嘘について	嘘をつくと他人から信用されなくなりますが、もっと大規模には社会が成り立たなくなります。嘘がどういう結果をもたらすのか、なぜ嘘はどこの社会でも嫌われているのかを、考えます。
6	企業の不祥事について	どの学科を卒業しても、ほとんどの学生は会社に勤めます。しかし企業では不祥事がたくさん起こっています。そういうときに自分はどういう態度を取るのか、あらかじめ考えておかねばなりません。
7	大学の特色について	本学の特色は、初代学長の家庭の守護性を基本として、いろいろな学問を教えるところにあります。今回はこの理念についてです。
8	自己決定について	他人に迷惑を掛けなければ何をしてもいい、というのは一応の原則です。ところが安楽死とか、臓器提供とか、自分の判断がひじょうに難しい状況が、最近では起こっています。自己決定は単純な問題ではありません。今回はこういう課題について、書いてみます。
9	書くということについて	今回はこれまで7回書いてきた経験を振り返ってもらいます。
10	大学生活について	一年の後期になり大学生活にも慣れたので、このあたりで自分の大学生活を考えてみたい。
11	少子化について	少子化は現代社会のいろいろなところに影響を及ぼしています。年金問題、社会の活力の低下なども、皆さん自身に降りかかってくる。皆さんはこれから結婚して子どもをつくる時期に入っていきます。今回はそういう観点からこの問題を考えてみます。
12	愛とは何か	愛というの、今の時期のみなさんにとっては、関心があるし、けっして副次的などうでもいい問題ではありません。今回は愛について各自の考えを深め、明確にてもらいます。
13	家庭とは何か	本学の教育理念は、ドイツの哲学者であり教育学者であるオットー・フリードリッヒ・ボルノー先生の思想の影響を強く受け、先生の思想を受け継いでいます。いろいろな講義の中で、本学の家庭についての考えを教えられたと思いますが、今回は家庭について各自に考えてもらいます。
14	環境問題	原発事故にみるまでもなく、環境問題はもともと現代社会の根本を揺るがす問題だったのです。福島県民はとくにこの問題を避けては通れません。
15	考えるということについて	最後に、このテーマで書いて、今学期のまとめにします。

<b>科目名</b>	哲学的人間学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	小阪 康治			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	<p>この講義は、前期で哲学を講義したので、それを基礎にさらに思想的な訓練を深めていくことを目的とします。前期は聞くのが主の講義でした。後期では、考えて表現することを練習しようと思っています。そのためには読むことと書くことを中心に講義を進めていくつもりです。テーマや内容は、受講者と相談しながら変えることもあります。</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度体験できたか。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>この講義は、前期で哲学を講義したので、それを基礎にさらに思想的な訓練を深めていくことを目的とします。前期は聞くのが主の講義でした。後期では、考えて表現することを練習しようと思っています。そのためには読むことと書くことを中心に講義を進めていくつもりです。テーマや内容は、受講者と相談しながら変えることもあります。</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度体験できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	特になし		<b>成績評価 方法</b>	書くことを通じて、考えを養うので、最終成績は、毎回のレポートの総合でつけます。それだけではなく、講義時間内での発言などの積極性、加算して、最終成績にします。出席回数は規定通りに適用します。 読んで理解する。30% 論理的に書く。50% 講義中の積極的な発言。20%
<b>教科書</b>	受講生と相談して決める。			
<b>参考書</b>	必要に応じて指示する			
<b>学生への要望</b>	この講義は、何よりも書くことを練習するので、そのつもりで積極的に各課題に取り組んでほしい。前期の講義の内容を主に、学生諸君の興味、関心、また社会状況においてテーマを設定するつもりです。			
<b>オフィスタイム</b>	火、水曜日昼休み。研究室			
<b>自学自習</b>	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくことと試験時に良い結果が出ると思う。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義の内容、目的、方法の説明	物事を考え、分析し、自分の考えをまとめて、それを表現するとはどういうことかを、まず皆で考えてみます。それから講義の進め方、やり方などを説明します。必要な用紙等の配布、参考書を使用するかどうか、皆で相談します。
2	幸福について考える	幸福について、皆で意見を出し合ってから、このテーマについて書いてみる。
3	どんなふうにして人は物事を知るか	物事を知るというのはどういうことか。正確に知る、だいたいの知識でいい場合。皆で話してみたら、このテーマについて書きます。
4	福祉について	社会福祉がこれから社会の重要な問題になります。専門に学んでいる人だけでなく一般の人でも考えておかねばならない問題でしょう。今回はこのテーマです。
5	嘘について	嘘をつくと他人から信用されなくなりますが、もっと大規模には社会が成り立たなくなります。嘘がどういう結果をもたらすのか、なぜ嘘はどこの社会でも嫌われているのかを、考えます。
6	企業の不祥事について	どの学科を卒業しても、ほとんどの学生は会社に勤めます。しかし企業では不祥事がたくさん起こっています。そういうときに自分はどういう態度を取るのか、あらかじめ考えておかねばなりません。
7	大学の特色について	本学の特色は、初代学長の家庭の守護性を基本として、いろいろな学問を教えるところにあります。今回はこの理念についてです。
8	自己決定について	他人に迷惑を掛けなければ何をしてもいい、というのは一応の原則です。ところが安楽死とか、臓器提供とか、自分の判断がひじょうに難しい状況が、最近では起こっています。自己決定は単純な問題ではありません。今回はこういう課題について、書いてみます。
9	書くということについて	今回はこれまで7回書いてきた経験を振り返ってもらいます。
10	大学生活について	一年の後期になり大学生活にも慣れたので、このあたりで自分の大学生活を考えてみたい。
11	少子化について	少子化は現代社会のいろいろなところに影響を及ぼしています。年金問題、社会の活力の低下なども、皆さん自身に降りかかってくる。皆さんはこれから結婚して子どもをつくる時期に入っていきます。今回はそういう観点からこの問題を考えてみます。
12	愛とは何か	愛というの、今の時期のみなさんにとっては、関心があるし、けっして副次的などうでもいい問題ではありません。今回は愛について各自の考えを深め、明確にてもらいます。
13	家庭とは何か	本学の教育理念は、ドイツの哲学者であり教育学者であるオットー・フリードリッヒ・ボルノー先生の思想の影響を強く受け、先生の思想を受け継いでいます。いろいろな講義の中で、本学の家庭についての考えを教えられたと思いますが、今回は家庭について各自に考えてもらいます。
14	環境問題	原発事故にみるまでもなく、環境問題はもともと現代社会の根本を揺るがす問題だったのです。福島県民はとくにこの問題を避けては通れません。
15	考えるということについて	最後に、このテーマで書いて、今学期のまとめにします。

平成29年度

<b>科目名</b>	人間発達学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	堀 琴美			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	人は生涯にわたって発達を続けます。大人になっても、年をとっても、人間として生きる意味を探求し、円熟し、次の世代を育て、いのちと社会のバトンをつないでいきます。また、子どものこころの発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。			
<b>達成目標</b>	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科2年生 (生活総合コースは必修)	<b>成績評価 方法</b>	期末試験または期末レポート（75%）、 授業態度・発言内容・レポート（25%）、 欠席が多い場合の減点あり。	
<b>教科書</b>	授業でレジュメや資料を配布する。			
<b>参考書</b>	テーマ別に授業で紹介する。			
<b>学生への要望</b>	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れていきたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			
<b>自学自習</b>	事前学習：キーワードを調べてノートにメモをする。あるいは、参考文献の関連箇所を読んで理解しておく。 事後学習：授業の中で出てきた重要な概念や用語については、ノートを確認して、必ず覚えておくこと。また、不明な用語は調べてノートに記録しておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。
4	子どもの発達 I 乳児期 (0～1歳)	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。噛む力と離乳食など。
5	子どもの発達 II 幼児期 (2～3歳)の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。
6	子どもの発達 III 幼児期 (4～5歳)の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。
7	子どもの発達 IV 児童期の 発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて
8	子どもの発達 IV 子どもの 道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデュラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。
9	青年期・成人期・高齢期の 発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。
10	愛着理論 I 愛着と基本的 信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。
11	愛着理論 II 愛着と共感す る力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。
14	発達のつまずき	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。

平成29年度

<b>科目名</b>	生理学的人間学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	西山 慶治		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学習する。それによりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現された自然の法則を学ぶ。		
<b>達成目標</b>	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学習することによりヒトを客観的に概説できる。		
<b>受講資格</b>	本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲があること。	<b>成績評価 方法</b>	理解度確認小テスト40%、期末試験60% 合計100%(100点)
<b>教科書</b>	講義プリントを配布して使用		
<b>参考書</b>	シンプル解剖生理学（河田光博、樋口隆：南江堂）、入門人体解剖学（藤田恒夫：南江堂）		
<b>学生への要望</b>	人体の構造と働きを学び、ヒトの存在について考える。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日あるいは木曜日の放課後（5校時以降）に家政学館2階解剖学研究室において。不在の時にはメモを残すこと。		
<b>自学自習</b>	学習の要点集を配布する。各回の実習の要点を予習するのに1時間、さらに実習後の復習に1時間、合計2時間を予習・復習に当て		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	人体の構造と機能、総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造と機能から学ぶ。
2	人類の進化と比較解剖・生理学	人類の進化と動物の比較から、機能の発達を学ぶ。
3	組織・細胞学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織並びに細胞について学ぶ。
4	運動器系	骨格と筋肉の形状と働きを学び、組織構造と機能、発生、経年変化からヒトの特徴を理解する。
5	消化器系	消化器の構造と働きを学び、栄養の摂取と代謝について理解する。
6	呼吸器系	呼吸器の構造と働きを学び、酸素の吸収と代謝について理解する。
7	循環器系	循環器の構造並びに働きを学び、体液の循環とその意義を理解する。
8	泌尿・生殖器系	泌尿器と生殖器の構造、働き並びに性差について学ぶ。
9	内分泌系と自律神経系	自律機能の調節にあずかる内分泌と自律神経の2つの系統の構造と機能、並びにそれらの協働機構を学ぶ。
10	神経系	人体の機能を統括して調節を司る神経系の概略を理解して、ヒトの高次機能を学ぶ。
11	感覚器系	人体の内外の情報を収集する器官を学び、その特徴を理解する。
12	ヒトの発生	ヒト発生の過程を概説し、「個体発生は系統発生を繰り返す」(E. Haeckel)はどこまで正しいかを確認しよう。
13	生と死、老化と寿命	発生の瞬間から死に向けての過程が始まる。老化と寿命、細胞死、再生、修復、尊厳死について学ぶ。
14	大脳生理学、概日リズム	脳を中心とした日内リズム(概日リズム)を学び、人間生活のリズムを見つめてみよう。
15	授業の質疑応答、まとめ	進化の頂点にいと考えられるヒトの特長、ヒトが未だ進化過程と考えられる点、それらの複合体としての人体を客観的にみる。その中に自然の法則を見出す。

平成29年度

<b>科目名</b>	人間関係学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	堀 琴美		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	本講では“生活に役立つ臨床心理学”を基礎のスタンスとして、健康的な対人関係のあり方、アサーティブでスマートなコミュニケーション技術、問題解決の方法、支配と依存の問題、電子メディアとメンタルヘルスなどについて学習します。		
<b>達成目標</b>	【達成目標】 ①アサーションの基本理念や、相手に分かりやすい表現方法を習得する。 ②自分の性格特徴や、他者を理解するための広い視野の大切さを理解する。 ③対人関係における心の働きや、対等な関係における意思と選択の重要性を理解する。 ④暴力や支配、依存などの問題について理解し、問題発生予防と対策を理解する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科生活総合コース3年生	<b>成績評価 方法</b>	期末試験または期末レポート（75%） 受講態度・発表内容、レポート（25%） 欠席が多い場合の減点あり。
<b>教科書</b>	授業でレジュメや資料を配布。		
<b>参考書</b>	「アサーティブ・コミュニケーション」（PHP、1200円）、「よくわかるコミュニティ心理学」（ミネルヴァ書房、2520円）		
<b>学生への要望</b>	理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきたいと考えています。学生には、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使し、積極的に参加、発言してもらいたいと思います。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限 臨床心理学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：キーワードを調べてノートにメモをする。参考文献の関連箇所を読んで理解しておく。 事後学習：授業の中で出てきた重要な概念や用語については、ノートを確認して必ず覚えておくこと。また、不明な用語は調べてノートすること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	本講の目標、授業内容、授業のポリシー、学生自己紹介などを行います。
2	アサーティブな自己表現Ⅰ	アサーション（さわやかな自己表現）の基本的考え方を学びます。アサーティブな問題解決の姿勢とは。ポジティブな表現やニュートラルな表現方法、相手に責任を転嫁しないアイ・メッセージ、敢えて「言わない選択」をすることなど。
3	アサーティブな自己表現Ⅱ	問題解決のプロセスを考え、アサーティブな表現を習得します。さらに、自分の置かれた状況を相手に適切に伝えるテクニックを訓練してみましょう。主張を受けた側の気持ちや反応、気づきなどについてディスカッションします。
4	アサーション・ステップアップ 意志決定を支える自己肯定感	大切だった人との別れや、厳しい状況での決断など、長い人生には逆境や孤立に耐えなければならないときもあるでしょう。そんな時に自分で自分を支える「自己肯定感」について考えます。
5	アサーション・ステップアップ 問題解決のプロセス	構成事例を使って、具体的な問題が起きたときの解決プロセスと、アサーティブな表現を使った伝達方法、相手に依存しない意思決定などについて考えます。
6	自己理解	円滑な人間関係形成のためには、自分をよく理解していること、そして相手を一生懸命に理解しようとする姿勢が大切です。まずは、自己理解のために心理テスト（性格検査）をやってみましょう。
7	他者理解Ⅰ	同じものを見て、聞いて、味わっていても、感じ方は人それぞれ。表現のしかたや伝え方も十人十色でみな違います。ここでは認知と表現の多様性を学び、他者理解について考えます。
8	他者理解Ⅰ	人は皆、違った考えを持っていると知っているはずなのに…つい自分と同じと考えて、誤解や齟齬が生まれます。物事の見方が変わると解釈が変わる。言動や感情には理由がある。相手の気持ちはきいてみないと分からない。ステレオタイプや偏見、差別の心理について学び、対人関係における「思い込み」の問題を考えます。
9	心の構造と適応する力	こころの構造、こころの要素、人間の持つ適応機制（防衛機制）について学びます。
10	DV・デートDV・虐待	人はなぜ愛する人に暴力を振るうのか、サイクル・オブ・バイオレンス理論、支配の力学、依存的関係などを考えます。
11	支配と依存と自己決定	「支配」とは何か。人はなぜ支配と愛情を取り違えてしまうのか。対等な人間関係を形成するために何が重要なのかについて考えます。また、依存的関係に陥らないための「境界線」、精神的な自立と成長の基盤となる「選択」と「自己決定」の大切さを取り上げます。
12	メディアとメンタルヘルス	電子メディアと子どもの生活について。スマホ依存、ゲーム依存、SNS疲れ、メディアによる症状群などについて。
13	メディアとメンタルヘルス	テレビゲーム、特に暴力的なゲームによる子どもの身体・精神・発達への影響について取り上げます。
14	メディアとメンタルヘルス	子どもの発達段階とメディアの影響、テレビ・スマホの子守り、言葉の獲得などについて。
15	まとめ	まとめと補足。もう少し深めたいテーマ、最新の情報や課題についての質疑、討論、いくつかのキーワードと授業の感想など。

平成29年度

<b>科目名</b>	家政学原論Ⅰ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	安田 純子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>家政学原論 (Principles Home Economics) は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門の各論の土台となる科目です。</p> <p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。</p> <p>本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。</p> <p>履修カルテの評価項目：評価項目は、以下の3点です。</p> <p>①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。</p> <p>②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。</p> <p>③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	<b>成績評価 方法</b>	15回の授業において、小レポートと最終回に筆記試験を課す。 100点満点で、筆記試験は60%、レポートは20%の配点、さらに、授業態度が真摯で熱心で積極的である方には合計点に加算し、満点は100点となる。	
<b>教科書</b>	教科書は定めない。 尚、必要な文献は、毎回の授業中に教示する。			
<b>参考書</b>	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
<b>学生への要望</b>	<p>学問的要望</p> <p>授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。</p> <p>日常的要望（守るべきこと）</p> <p>授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日と木曜日の午前 場所は、創学館N.O. 1 研究室			
<b>自学自習</b>	新聞に目を通すなど常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深める。 授業後、復習としてノート整理などをしてまとめておく。（合わせて2時間程度）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 家政学への接近	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の構成と進め方</li> <li>・その他の説明、受講生の確認</li> <li>・授業への導入</li> </ul> 家政学とはどういう学問か

平成29年度

<b>科目名</b>	家政学原論Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 彌			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。			
<b>達成目標</b>	【履修カルテの評価項目】 ①家政学の定義が理解できたか。 ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。 ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科2年生 食物栄養学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	受講態度（10%）、レポートあるいはテスト（90%）	
<b>教科書</b>	関口富左編『家政哲学』家政教育社			
<b>参考書</b>	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。			
<b>学生への要望</b>	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。			
<b>オフィスタイム</b>	(影山) 金曜日を除く昼休み(12:00~12:50) 創学館4階No.2研究室 (深谷) 火曜日(12:00~12:40)教務部			
<b>自学自習</b>	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと(1時間) 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	家政から家政学へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。 家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活学原論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 彌		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	政治、経済、社会のそれぞれにおける活動は、本来の目的である、豊かな生活を必ずしも達成してきたとはいいがたい。こうした中で、ようやく昨今、生活や生活者の優先ということが言われるようになった。そこで、本講義では、生活に対する多面的な検討をとおして、真に豊かな生活の実現に向けて探究することにする。		
<b>達成目標</b>	個人生活、家庭生活、地域生活、国民生活、国際生活など、多様な生活場面を理解するとともに、家庭および地域の生活がより重要であることを認識できること。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科（生活総合コース・建築デザインコース）	<b>成績評価 方法</b>	受講態度（20%）、レポートあるいはテスト（80%）
<b>教科書</b>	特になし。 授業内容に関する資料を配布する。		
<b>参考書</b>	川添登『生活学の誕生』ドメス出版		
<b>学生への要望</b>	授業目標を毎回確認すること。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No.2研究室		
<b>自学自習</b>	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生活学における原論の意味	原論が、その学問の学問としての要件を明らかにするものであること、そしてその点から、生活学の学問としての要件、すなわち、生活学の目的、対象、方法、意義、などについて講義する。
2	生活という概念	生活学の対象である生活について、その概念を、様々な見解から考えるとともに、(住むこと)、(生きること)、(くらすこと)という、3つのポイントからとらえる。
3	生活の領域	生活が、個人、家庭、地域、国、世界とかかわりながら展開されることを捉える。
4	個人生活	個人生活が優勢になりつつある現状を捉え、その長所と短所について考える。
5	生活の外部化(1)	工業化の進展とともに、家庭生活が外部化されている現状を、子どもの育児、老親の介護その他を通して捉えるとともに、その功罪について考える。
6	生活の外部化(2)	男女平等をめざすスウェーデンにおける生活の外部化の現状とその問題点について考える。
7	生活の内部化	オランダにおける家庭の生活機能を護る取り組み、特に「ワッセナーの合意」のもつ意義について理解する。
8	生活概念における(住むこと)の意味①	生活の概念における(住むこと)の重要性について、G. バシュラールの考えを理解する。
9	生活概念における(住むこと)の意味②	生活の概念における(住むこと)の重要性について、O.F. ボルノーの考えを理解する。
10	生活の自立(1)	政治及び企業による生活保障機能が弱体化してきた今日、行政サービスや商品に過度に依存できないという現状の中で、生活の自立・自存が国民的課題になってきたことを考える。
11	生活の自立(2)	これまでのように、行政サービスや商品に過度に依存した生活が、逆生産性、シャドウワーク、行政管理、公害といった諸問題につながることを考える。
12	生活の自立(3)	生活の自立・自存を象徴するI. イリイチのいう「ヴァナキュラーな生活様式」について理解する。
13	生活とコミュニティ	地域におけるヒューマンな人間関係を形成し、豊かな関わりをもつ地域生活を意味するコミュニティについて理解する。
14	生活とシビル・ミニマム	豊かな地域生活を支える経済的、物理的条件であるシビル・ミニマム—社会保障、社会資本、社会保健—について理解する。
15	全体のまとめ	全体の総まとめを行う。

平成29年度

科目名	生活経済学		対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業では、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学習を深める。現代社会において、我々の生活は貨幣を媒介とした経済活動なしには維持していくことはできない。それ故に、経済に関する知識を高め、経済への理解を深めることは、今後社会人として生活をしていく上で必須のものとなると思われる。</p> <p>本授業では、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について採り上げる。</p>			
達成目標	<p>一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について理解を深めることを目標とする。</p>			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 家政学部 食物栄養学科 3年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②レポート70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	大藪千穂「生活経済学」放送大学教育振興会			
学生への要望	本授業の内容は、いずれも社会人として経済活動にかかわっていく上で必須のものとなると思われるのでしっかりと取り組んでもらいたい。			
オフィスタイム	月曜8:30~14:20、金曜14:30~17:05 食品衛生学・経営管理学研究室			
自学自習	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する（1時間）。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・生活経済の歴史	授業の進め方、評価方法について説明する。 古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学習する。
2	戦後の経済変化と生活	1945年以降現在までの経済と生活の変化について学習する。
3	家計研究史（世界と日本）	世界における家計研究・調査に関する歴史について学習する。
4	家計研究史（世界と日本）	日本における家計研究・調査に関する歴史について学習する。
5	家計収支と家計簿記帳	家計の収入・支出の種類と家計簿の記帳法について学習する。
6	家計をめぐる法則	エンゲル法則と必需品とぜいたく品の違い、消費者物価指数について学習する。
7	ライフサイクルと貯金・負債①	ライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学習する。
8	ライフサイクルと貯金・負債②	各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学習する。 小テスト（1回目）
9	単身世帯と二人以上世帯の家計①	単身世帯の家計の特徴について学習する。
10	単身世帯と二人以上世帯の家計②	二人以上の世帯の家計の特徴について学習する。
11	子を持つ世帯の家計	子供にかかる費用とその特徴について学習する。
12	離婚後と一人親世帯の家計	離婚後における生活上、経済上の変化について学習する。
13	離婚後と一人親世帯の家計	一人親世帯の家計の特徴と変化について学習する。
14	高齢者世帯の家計	高齢者世帯の家計とその特徴について学習する。
15	持続可能な社会のための生活	環境問題とアーミッシュと呼ばれる人々について学習する。 小テスト（2回目）

平成29年度

<b>科目名</b>	家族関係学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	知野 愛		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
<b>達成目標</b>	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科4年生、食物栄養学科4年生、専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート50点 ②授業中のリアクションペーパー10点 ②最終レポート40点
<b>教科書</b>	なし。プリントを配布します。		
<b>参考書</b>	その都度紹介します。		
<b>学生への要望</b>	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラバスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜I限または水曜I限、家政学館4階被服学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：課題レポートの作成、課題レポートがない回には読んでくるべき資料を事前配布する(1時間) 事後学習：次回の課題レポートの作成、課題レポートがない回には授業で学んだ資料からポイントをノートに箇条書きし要点を復習する(1時間) 最終課題レポートは、図書館へ行き関連図書を探し、独自性のあるレポートを作成すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。

<b>科目名</b>	生活経営学Ⅰ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	深谷 笑子, 大泉 由美			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。 「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調ある望ましい生活経営の在り方を考える。			
<b>達成目標</b>	①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。 ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。 ③家庭経済の仕組みが理解できる。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科 2年生以上	<b>成績評価 方法</b>	テスト60%、授業中の課題20%、 受講態度（発表含む）20%	
<b>教科書</b>	必要に応じて資料を配付する。			
<b>参考書</b>	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 『組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fボルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 その他適宜授業中に紹介する。			
<b>学生への要望</b>	・新聞や雑誌に目を通し、社会の状況に関心をくけてください。 ・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。			
<b>オフィスタイム</b>	深谷 月曜日12時30分～12時45分（教務部） 大泉 火曜日2限 木曜日1限 （創学館4階No.2研究室）			
<b>自学自習</b>	・予習：事前に出される課題について、書籍や新聞、インターネット等を利用して調べておく。（1時間） ・復習：授業内容をノートにまとめ、テスト等に備える。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・授業の概要と進め方の説明
2	人間の生活する空間	・本日のニュースの発表。 ・人間が生活するためには家庭（内部空間）と社会（外部空間）は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを基本テーマに理解する。
3	組織体①	・本日のニュースの発表。 ・組織体とは何かということを経過を踏まえ理解する。 ※組織とは何かについて予め調べておくこと。
4	組織体②	・本日のニュースの発表。 ・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。具体的に、企業の目標を達成するために組織各部署の役割を理解し、家庭の目的とどのように異なっているかを理解する。 ※学生は、一般企業、学校等の組織を調べ、組織図を書いてみる。
5	組織体③	・本日のニュースの発表。 ・前回に引き続き、組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。 ※ここ迄の学習の理解度を確認するためのレポートの提出を課す。
6	計画	・本日のニュースの発表。 ・計画とは何かを具体的に知ることは、家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠な課題である。 ・計画の基本的な内容（意義）について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを解説する。 ・計画と予定の意味を理解する。
7	計画の限界	・本日のニュースの発表。 ・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについて理解する。特に、今日の社会においては、自然災害等により、絶対がなくなり、何を信じてよいか分からない現状である。このような状況の中では、計画をしても限界があるので、そのような時に情報を多く持っていることが大切であることを理解する。
8	統制	・本日のニュースの発表。 ・人間は常に何らかの自己統制（管理）を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的（規則・規程）に統制（管理）を行わなければならない。内部空間にあっても合理的な自己規制をはじめとして約束事（規則・規程）がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を図ることになる。統制について基礎的な知識を理解し活用できる。
9	経営の要因	・本日のニュースの発表。 ・これまで学習した基礎的な内容を更に深めるため、経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。 ※ここ迄の学習の理解度を確認するためのレポートの提出を課す。
10	指導・リーダーシップ	・本日のニュースの発表。 ・人間が生まれ育つ過程では常に何らかの指導が行われている。家庭教育や学校教育・社会教育が例示されるが、外部空間の組織体にあっても組織体の目的を達成するため指導（教育）は重要な課題である。そこで私達の生活に必要な指導とは、どのような事なのかを基礎的に、リーダーシップは外部空間の組織体ばかりでなくあらゆる生活において大切な事柄である。ここでは、リーダーシップとは何かと云うことを学ぶ。もっとも身近な家庭のリーダーシップ、地域社会のリーダーシップについて考える。また、リーダーの成立、リーダーの資質、リーダーの影響力等多様な価値観が増幅される現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。 ※内容について簡単な理解度テストをおこなう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	人間と時間、生活と時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日のニュースの発表。</li> <li>・私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。</li> </ul>
12	家庭経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日のニュースの発表。</li> <li>・家庭経済の仕組みとして家計、家庭経済及び国民経済について学ぶ。家計を企業や政府とのかかわりでその重要性を理解する。</li> </ul>
13	家計の構成・家計簿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日のニュースの発表。</li> <li>・総務省の『家計調査』のデータを利用し家計について考える。</li> <li>・家計簿のつけ方(PC使用)を実践しながら具体的なお金の管理ができる。</li> <li>・家族のライフステージに合わせて、家計の課題も変わっていくことを理解する。</li> </ul>
14	消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日のニュースの発表。</li> <li>・現代の消費生活や消費問題に理解を深める。</li> <li>・経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。</li> </ul>
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日のニュースの発表。</li> <li>・講義内容の総括</li> </ul>

平成29年度

<b>科目名</b>	生活経営学Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	大泉 由美			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	この授業は生活経営学Ⅰと連動して、「人間守護」（人間を守る）の理念に基づき、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究を駆使し、健全な生活を築くために多面的な考えを学ぶ。自分自身の問題として「考える」ことを通して、よりよい生活を構築することができる。			
<b>達成目標</b>	・社会のしくみと生活経営の関係について考えることができた。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科・食物栄養学科2年生以上(選択)	<b>成績評価 方法</b>	テスト60% 授業中の課題20% 受講態度(発表含む)20%	
<b>教科書</b>	必要に応じて資料を配付する。			
<b>参考書</b>	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 石川実編『高校家庭科における家族・保育・家政・福祉・経済』家政教育社			
<b>学生への要望</b>	・日常生活の問題について認識を持つために、毎日、新聞やニュースに目を通しておくこと。 ・多くの生活体験をすることにより、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	深谷・・月曜日12:20~12:40(教務部) 大泉・・月曜日1限、火曜日2限(創学館4階No.2研究室)			
<b>自学自習</b>	・予習:事前に出される課題について、書籍や新聞、インターネット等を利用して調べておく。(1時間) ・復習:授業内容をノートにまとめ、テスト等に備える。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・授業の進め方や評価方法などを理解する。 ・授業では毎回、新聞やニュース等の話題に触れるので、必ず目を通してくること。
2	人間と時間、生活と時間	・私たちにとって時間とは何物にも替えがたいほどの関わりがありますが、それにもかかわらず重要視されていないのはなぜか。人間と時間、生活と時間について理解する。
3	人間ともの、生活ともの	・ものは、人間が主体となり、人間に付随した「もの」であること。また、ものを人間が使用するので、使用の仕方がたいへん重要であることを理解する。
4	人間と財貨、生活と財貨	・生活の中で重要な役割を果たす財貨。人間、生活のそれぞれの関わりについて理解する。
5	生活の総合体①	・2回~4回の講義を通し、生活とは総合体であることが見えてくる。そこで、生活が総合体であることの理解を一層深めるために、生活(家庭)経営の諸要素(衣・食・住)について解説する。
6	生活の総合体②	・前回に続き、生活が総合体であることの理解を深めるために、生活(家庭)経営の諸要素(教育・保育・情報)について解説する。
7	生活に関する不易流行	・前回まで学修した諸要素はそれぞれに深い関わりあいがある。どのような関わりあいを持たれているかについて、具体的な例示によって説明し、さらに生活に関する不易流行について考える。
8	現代の多様な価値観	・現代は多様な価値観が多様な分野ごとに見受けられ、さらに個人の自由性が大幅に受け入れられているような状況も一部には見られる。そのためか内部空間(家庭)の生活そのものが幅広く多様な価値観によって経営(運営)されるようになってきている。世間と価値観の相違(それは何故なのかを考えなければならない)も同様である。ここでは生活の普遍的な課題を中心に様々な問題を掘り下げ、生活の重要性を認識する。今回は現代の多様な価値観について考える。
9	普遍的な目的	・前回の授業内容を理解し、本授業では普遍的な目的について考える。
10	内部空間の変動(変化)要因	・経営体としての家庭(内部空間)は家庭内部の問題並びに外部空間からの諸影響により様々なに変化する。内部空間の変動(変化)要因について解説する。
11	外部空間の変動(変化)要因	・前回に引き続き、ここでは自然等の要因を含めた外部空間からの影響による変動要因について解説する。
12	理解度確認	・8回から11回迄の授業内容について確認テストを行う。事前にノートを適切に整理しておくこと。
13	基本的変動要因と時間	・変動(変化)と時間とは表裏一体のものであるから、基本的変動要因と時間の関係について内部空間と外部空間について理解する。
14	変動要因の反転操作について	・内部空間の主体的特質としての変動要因の反転操作について考え、生活経営のあり方を考える。 ※学生は意見を述べられるように準備しておくこと。
15	守護機能(まとめ)	・私たちのあらゆる生活には守護機能が作用している。生活経営学の「まとめ」として守護機能について多面的に理解する。

平成29年度

<b>科目名</b>	消費生活論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活 学科生活総合コース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。 また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。		
<b>達成目標</b>	1. 消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 2. 日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 3. 政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。		
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科 3年生以上	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
<b>教科書</b>	プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
<b>学生への要望</b>	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜8：30～14：20、金曜14：30～17：05 食品衛生学・経営管理学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する（1時間）。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学習する。
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。
3	消費者行政の変遷	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学習する。
4	消費者の権利と責任	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学習する。
5	自立した消費者を目指して ①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学習する。
6	自立した消費者を目指して ②経済	消費者契約法・特定商取引法について学習する。
7	自立した消費者を目指して ③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学習する。
8	自立した消費者を目指して ④生活用品	消費生活用製品安全法について学習する。 小テスト（1回目）
9	消費生活と環境～循環型社会のための法制度	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学習する。
10	企業による消費者問題への対応	お客様相談室の役割について、いくつかの実例をもとに学習する。
11	行政による消費者問題への対応	消費生活センターと消費者トラブルの現状と課題について学習する。
12	消費者教育・啓発活動①	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学習する。
13	消費者教育・啓発活動②	学校・地域においてどのような消費者教育が行われているか学習する。
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学習する。
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、問題にチャレンジする。 小テスト（2回目）

科目名	消費者保護関連法		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	後期			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 自ら考え行動する自立した消費者を目指し、衣・食・住生活に関する消費者問題を関連法律とその具体的事例を通して学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業は、3領域から構成され、2名の教員がそれぞれの領域の消費者問題について担当する。 ○衣生活領域・・・難波めぐみ 担当：1から4（4回） ○食生活領域・・・難波めぐみ 担当：12から15（4回） ○住生活領域・・・長田城治 担当：5から11（7回）</p>			
達成目標	<p>[達成目標] ①身の回りにある消費者問題を理解する。 ②自立した消費者として消費者問題に関する関連法を理解する。</p>			
受講資格	特になし	成績評価 方法	各領域ごとにレポート、プレゼンテーションを行う。（3領域×30点=90点） ノート点（10点）	
教科書	授業の領域ごとに、担当教員から配布する。			
参考書	授業の領域ごとに、担当教員から紹介する。			
学生への要望	新聞やニュースをよく読み、消費生活の動向を知り、探究心を持って授業に臨んで欲しい。また、授業で出された課題に積極的に取り組むこと。			
オフィスタイム	長田：月（Iコマ）、水（IVコマ）場所：創学館4F No.3研究室 難波：月（IIIコマ）、木（II、IIIコマ）場所：家政学館4F被服学研究室			
自学自習	予習：授業の内容をテキストなどで確認し、疑問点をまとめておくこと（60分） 復習：授業を踏まえて、ノート整理を行い、授業で出された課題に取り組むこと（60分）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス ～消費生活と法律～ [担当：難波 (9/11)]	本授業の目標、概要、3領域の内容について、説明する。 また、消費生活と法律の関わりについて解説する。
2	【衣領域】衣生活の中の消費者問題 [担当：難波 (9/25)]	①衣生活の中の消費者問題 ②暮らしの中の表示（a.安全を保証する表示 b.衣生活関連の表示 c.品質を保証する表示 d.環境への配慮表示） 身近な衣生活に関する表示の存在と意味を知り消費者問題を考える。
3	【衣領域】衣生活の中の取組み（1） [担当：難波 (10/2)]	1) 家庭用品品質表示法と繊維製品品質表示 2) 様々な繊維製品と皮膚障害（a.化学物質による皮膚障害 b.抗菌防臭加工製品 c.紫外線防止処理製品 d.生地と紫外線透過率） 消費者として商品購入の際に必要な情報を正確に知ることにより、様々なトラブルから身を守ることに繋がることを考えていく。
4	【衣領域】衣生活の中の取組み（2） [担当：難波 (10/16)]	1) 洗濯とクリーニング 正しい繊維の知識を学習しながら、洗濯用洗剤の使用及びクリーニングのトラブルをさける方法を考えていく。 2) 衣生活と資源・環境に配慮した消費生活の工夫と実践 a.循環型社会（5R） b.衣生活関連消費者保護法のまとめ 環境に配慮した消費生活を考えるとともに、衣生活に関連した消費者保護に関する法の学修したことをまとめて発表する。
5	【住領域】住生活に関する消費者の視点と保護 [担当：長田 (10/23)]	安全・安心な建物を建築し利用するには、建築を実際に設計・施工する生産者だけでなく、消費者側が知っておくべき知識も必要になっている。ここでは、住生活に関わる法律や建物を建築・購入する上で重要な事項について、消費者側の目線から学ぶ。まず住生活に関する消費者保護に関する現状とその問題点について概観する。
6	【住領域】安全・安心な住空間と建築1 [担当：長田 (10/30)]	住宅の建設、リフォームにおいて必要な工程や手続きを学び、それらに必要な法律を学修する。また、快適で安全な住空間を造る上で重要な材料や施工方法、土地などについて学習し、自身の理想の住宅を想起する。
7	【住領域】安全・安心な住空間と建築2 [担当：長田 (11/6)]	マンションなどの購入・売却に関する法律や手続きを学び、建物に付帯する設備（耐震や環境）に関する知識を身に付け、自分なりの建築の評価基準を身に付ける。
8	【住領域】住生活に関する消費者保護の取組み1 [担当：長田 (11/13)]	住生活に関する各種の紛争事例を紹介し、その問題点と解決策の実例から消費者が採るべき方策について事例を通して学習する。
9	【住領域】住生活に関する消費者保護の取組み2 [担当：長田 (11/20)]	住生活に関する各種の紛争事例を紹介し、その問題点と解決策の実例から消費者が採るべき方策について事例を通して学習する。
10	【住生活】理想の住生活 [担当：長田 (11/27)]	講義で得た知識を参考に住生活に関するライフプランを作成して発表する。
11	【住生活】理想の住生活のプレゼンテーション [担当：長田 (12/4)]	各自の考えをパワーポイントを用いてプレゼンテーションする。
12	【食領域】安心・安全な食生活と健康1 [担当：難波 (12/11)]	1) 食品安全基本法 2) 食品表示法 食品表示の見方を身近な具体例をもとに学修し、自身の日々の食品選択に活かし、食生活の向上に役立てる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	【食領域】安心・安全な食生活と健康 2 [担当：難波(12/18)]	1) 健康食品 健康食品による健康被害の実態とその対処法について学修する。
14	【食領域】資源・環境に配慮した食生活の工夫と実践 [担当：難波(12/25)]	1) 循環型社会形成推進基本法 2) 食育基本法 食品ロスを減らすための食生活の工夫について具体的事例を交えて学修する。
15	【食領域】環境に配慮した食生活の工夫についてのプレゼンテーション [担当：難波(1/22)]	1) 消費者教育推進法 各自の考えをパワーポイントを用いてプレゼンテーションする。

平成29年度

<b>科目名</b>	地域生活論		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 彌, 大泉 由美			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	今日、地域社会（コミュニティ）は、原子化された都市的人間に見られる疎外状況への社会的対応として、すなわち、「生活の場における人間性の回復」とか「トータルな人間復権の拠りどころ」として考えられている。また、O・F・ボルノーは、地域を「拡張された家屋」と言っている。本講義では、地域社会がもつこのような生活に関する深い意味を捉えるとともに、生活の場としての地域社会を構成する、「施設・環境体系」と「行動・意識体系」について、郡山市内をフィールドとして見学・研修し、郡山市内における地域社会について、その現状と課題について学修する。			
<b>達成目標</b>	個人および家庭の生活を支える、地域の多様な生活機能・手段を理解するとともに、地域生活を支える地方行政の役割を理解できる			
<b>受講資格</b>	人間生活学科 生活総合コース	<b>成績評価 方法</b>	受講態度（20%）レポート結果（80%）	
<b>教科書</b>	関口富左編著『家政哲学』家政教育社 1977年			
<b>参考書</b>	関口富左編著『人間守護の家政学—福祉社会の実現をめざして—』家政教育社 1999年			
<b>学生への要望</b>	授業目標を毎回確認すること			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日を除く昼休み（12：00～12：50） 創学館 4階No. 2 研究室			
<b>自学自習</b>	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ってノートまとめをすること（1時間）			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	地域社会の意味	家庭生活とともに、重要な生活の場である地域社会について、その本質的、現代的意味を理解し、授業全体の構成を理解する。
2	市営住宅	市営住宅の自治会をたずねて、市営住宅の現場を見学させていただき、市営住宅の管理・運営、生活の様子などについて学修する。
3	生活道路	郡山市の道路建設課をたずねて、地域住民の生活道路、コミュニケーション機能である市道について、その整備・管理などについて学修する。
4	2～3回の学修の報告・ディスカッション	2～3回において学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに、課題を発見し、解決策を考える。
5	上水道	郡山市の浄水場をたずねて見学し、市民生活に欠かせぬ飲料水としての水道水について、その取水から飲料水にいたる過程及び給水普及率などについて学修する。
6	下水道	郡山市の下水処理場をたずねて見学し、雨水や家庭廃水などを浄化して河川に放流する過程及び下水道普及率などについて学修する。
7	5～6回の学修の報告・ディスカッション	5～6回で学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに課題を発見し、解決策を考える。
8	公園・緑地	郡山市の公園緑地課をたずねて、市民に「憩い」を与え都市に自然を保ち人間を復活させる契機となる、公園・緑地について、その設置場所、市民1人当たり面積、管理などについて学修する。
9	美術館・音楽堂・博物館など	郡山市の担当部署をたずねて、文化施設として人間の創造性に役立つ美術館・音楽堂・博物館などの設置状況などについて学修する。
10	個室ユニット型特養ホーム	今日の超高齢社会において特養ホームへの入所待機高齢者が大勢いる。こうした中で、高齢者にとって最適といわれる個室ユニット型特養ホームをたずねて、その状況と課題について学修する。
11	8～10回の学修の報告・ディスカッション	8～10回で学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに課題を発見し、解決策を考える。
12	郡山市中央卸売市場見学・研修（魚介類・野菜・果実）	市民生活の食品を扱う郡山市中央卸売市場をたずねて、魚介類と野菜・果物の競売の様子を見学し、担当者より魚介類と野菜・果物の流過程程について話しをしていただく。
13	郡山市保健所での研修	郡山市保健所をたずねて、郡山市における伝染病や食中毒や公害に関する現状と課題について学修する。
14	自治会訪問・研修	自治会をたずねて、役員の方より、地域住民の地域活動、一体感、定住意志、などについて話しをうかがう。
15	12～14回の学修の報告・ディスカッション、総まとめ	12～14回で学修したことについて、各自報告し、ディスカッションを行う。さらに課題を発見し、解決策を考える。最後に、授業全体について総まとめを行う。

<b>科目名</b>	日米比較生活論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合 コース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	J・ティルマント		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>現代的な生活様式や考え方はもちろんのこと、今日の西洋文明は長い歴史の発展における成果である。学生には、西洋の特にアメリカの社会や考え方を理解させるために、その文明や思想を生み出した歴史的な事柄についての一般的な知識を解説する。</p> <p>この授業では、今日の日米におけるさまざまな生活様式や文化の違いについて学び、また、社会と文化の意味と定義し、異なった社会における生活様式の違いなどを考察することにより、それらの相違の理由を理解する。各国に共通である人種・民族の多様性・老人・犯罪・経済の不平等といった社会を識別し比較する。</p> <p>また、アメリカの宗教・政治・教育・家庭・社会生活などのトピックを設け、それらについてわかりやすく解説する。</p> <p>Points of class evaluations:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding key differences between American and Japanese political and social development.</li> <li>2. Knowledge and understanding of key points of American culture and social traits.</li> <li>3. Understanding of the back ground to many of the social issues in America today.</li> <li>4. A realistic idea of modern American lifestyles of various social, age and other groups and how they compare to those in Japan.</li> </ol>		
<b>達成目標</b>	<p>現代的な生活様式や考え方はもちろんのこと、今日の西洋文明は長い歴史の発展における成果である。学生には、西洋の特にアメリカの社会や考え方を理解させるために、その文明や思想を生み出した歴史的な事柄についての一般的な知識を解説する。</p> <p>この授業では、今日の日米におけるさまざまな生活様式や文化の違いについて学び、また、社会と文化の意味と定義し、異なった社会における生活様式の違いなどを考察することにより、それらの相違の理由を理解する。各国に共通である人種・民族の多様性・老人・犯罪・経済の不平等といった社会を識別し比較する。</p> <p>また、アメリカの宗教・政治・教育・家庭・社会生活などのトピックを設け、それらについてわかりやすく解説する。</p> <p>Points of class evaluations:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding key differences between American and Japanese political and social development.</li> <li>2. Knowledge and understanding of key points of American culture and social traits.</li> <li>3. Understanding of the back ground to many of the social issues in America today.</li> <li>4. A realistic idea of modern American lifestyles of various social, age and other groups and how they compare to those in Japan.</li> </ol>		
<b>受講資格</b>		<b>成績評価 方法</b>	授業内容の理解度を確認しながら、テストまたはレポート (80%)・出席状況・学習態度・提出物 (20%)で評価
<b>教科書</b>	授業内で参考文献を指示する		
<b>学生への要望</b>	Most Japanese students today have a general understanding of many of the characteristics of modern American society. The purpose of this class is to help students understand better how those characteristics came to be, and how they affect various issues that face American society today. Therefore, class content will mix certain historical events with current topics or themes of interest to help us understand the thought process of current-day American culture and society.		
<b>オフィスタイム</b>	1. 火 4:10-5:30 2. 水 5:40-6:00 3. By appointment or any time I am there.		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	General Introduction□	授業内容、評価方法についての説明
2	Which America□	Which America, which Americans: discussion on diversity of America and American culture, geography, country size, etc. (chpt. 1, 2, pp.1-5)
3	What is an American□	Video documentary on the history of immigration and social and racial sub-groups in American society.
4	Quest for freedom□	Historical background of European migration to America. Early American ideas on democracy, and tyranny of the majority, role of the state, etc. (chpt. 4, 5, pp.7-10)
5	No Easy Task□	Discussion on the political system in America / differences between Federal and State powers / Discussion on ideas of rights and freedoms / multi-cultural society / tyranny of the majority. (chpt. 3, pp.5-7)
6	Individualism and State-and-Church□	Movie: The Scarlet Letter.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	Cultural Revolution□	Women' s movement: women in modern society: working mothers, women in the work force, political and economic situation, marriage and divorce, etc. / Black movement: separate but equal, examples of discrimination in America, repeal of "separate but equal." (chpt.6, pp.10-12)
8	Tyranny of the Minority	Tyranny of the majority / tyranny of the minority in modern American society / is American too big and diverse / politically correct. (chpt. 17-19, pp.32-38)
9	Black Movement□	Documentary: The Black Movement in America
10	Youth and Society□	A Brighter Tomorrow: Discussion of lifestyles, education, social environment and other issues concerning Japanese and American youth. (chpt. 14, pp.26-28)
11		Movie: The Breakfast Club
12	Current Issues - 1□	Discussion based on current social issues taken from the mass media and other sources. Content will vary depending on student interests, major current national or international issues, and so forth.
13	Current Issues - 2□	Discussion based on current social issues taken from the mass media and other sources. Content will vary depending on student interests, major current national or international issues, and so forth.
14	Small-town USA□	Video: Texas town of Marshal
15	まとめ□	授業内試験及び解説

平成29年度

<b>科目名</b>	社会調査法		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。			
<b>達成目標</b>	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点 (15点×2回) ②課題 (レポート) 70点	
<b>教科書</b>	プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
<b>学生への要望</b>	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日 8:30~12:00 食品衛生学・経営管理学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：次回の授業の内容をプリント等から確認すること (1時間)。 事後学習：ノート・プリントを見直して、授業の内容を復習すること (1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学習する。
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学習する。
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学習する。
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学習する。
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学習する。
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学習する。
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学習する。
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学習する。 小テスト (1回目)
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学習する。
10	サンプリング	調査対象の選び方について学習する。
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学習する。
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学習する。
13	データの集計方法	情報の集約、代表値 (平均) から相関係数について学習する。
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学習する。
15	まとめ	これまでの学習内容について確認と復習を行う。 小テスト (2回目)

科目名	保育学		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。</p> <p>②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。</p> <p>③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。</p> <p>②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。</p> <p>③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。	成績評価方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。			
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名			
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
オフィスタイム	木曜日 I、II (9:30～11:30) 家政学館4F被服学研究室（難波）。不在の場合もありますので授業終了後確認してください。 火～金 (12:00～12:50) 8 3 3 研究室（山上）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(4/7・難波)	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。
2	保育を考える(4/14・山上)	1) 未熟な状態で生まれるヒト ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。
3	保育を考える(4/21・山上)	1) 文化の中の人間 ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。
4	子どもの発達①(4/28・難波)	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。 3) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。
5	子どもの発達②(5/12・難波)	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。 3) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。
6	子どもの発達③(5/19・難波)	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。 2) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、栄養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。
7	子どもの発達④(5/26・藤田)	1) 子どもの発達課題の理解 ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。
8	子どもの心とからだについて①(6/2・藤田)	1) 子どもの病気と対処法 ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。
9	子どもの心とからだについて②(6/9・難波)	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。 2) 保育体験学習の事前指導 ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	保育体験学習(6/11・難波)	1)「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。 ※附属幼稚園 特別保育参観日を見学(学園第一体育館)
11	日本の幼稚園の始まり(6/19・山上)	東京女子師範学校附属幼稚園について知る。
12	日本の保育の始まり(6/23・山上)	倉橋惣三の保育論を学ぶ。
13	保育所の始まり(6/30・山上)	子守学校について知る。
14	子どもとのかかわり(7/14・難波)	1)子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1)子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1)保育実習 ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ(7/21・難波)	1)児童福祉について 2)子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。 3)これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。

平成29年度

<b>科目名</b>	社会福祉原論		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	熊田 伸子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	現代社会における福祉制度と福祉政策の展開やその概念と意義について学ぶ。 また、現代社会の生活問題に注目しつつ福祉政策の現状と課題について考察する。			
<b>達成目標</b>	現代社会における福祉課題が理解できている。 社会的困難を抱えている人々とそのニーズについて理解できている。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科 福祉コース 生活総合コース	<b>成績評価 方法</b>	期末試験 80% 小テスト 20% 出席状況により減点あり	
<b>教科書</b>	毎週、プリントを配布します			
<b>参考書</b>	現代社会と福祉 中央法規			
<b>学生への要望</b>	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日の5時限目・金曜日の3限目（創学館4階 No.6研究室）			
<b>自学自習</b>	予習：シラバスを参考とし、関連するキーワードについて調べる。（1時間） 復習：配布資料のポイントをノートにまとめる。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業に関するガイダンスを行う。 現代社会問題について考える。
2	福祉制度の概念と理念	現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する
3	社会の変化と福祉Ⅰ	日本の伝統的な社会から近代社会への変化に伴う福祉ニーズの発生と、福祉国家が成立するまでの市民権の確立の経過について学ぶ
4	社会の変化と福祉Ⅱ	福祉国家がどのような経過を経て変容していったか、現代社会の変化と比較しながら社会福祉の変化を理解する。 また福祉政策の現代的課題について知る。
5	福祉と福祉政策Ⅰ	価値規範としての福祉がどのようなものかを知る。社会福祉が従来のような高齢者・障害者・児童・困窮者を対象とするものから普遍化し拡大していること、反面福祉政策から漏れる場合があるという限定的な部分も理解する。
6	福祉と福祉政策Ⅱ	複雑多様化している日本の社会福祉問題に対して、政策の担い手である社会福祉士にどのような役割と機能があるのかを理解する。
7	福祉の原理をめぐる哲学と倫理	社会福祉の原理をめぐる展開されたわが国の戦後の社会福祉理論および社会福祉思想を学ぶ。 人々の望ましい生活のありようを、社会が積極的に支える思想とはどのようなものかを考える。
8	社会政策と福祉政策	社会政策の中の福祉政策という捉え方をし、そのあとから、社会政策体系の中の福祉政策体系がどのようなものになっているかを知り、マクロからミクロに捉えていく。
9	福祉政策の発展過程Ⅰ	社会福祉の歴史的発展を概観する。福祉政策がいかに近代化してきたかを知る。
10	福祉政策の発展過程Ⅱ	戦後改革と高度経済成長期の福祉政策について学ぶ。
11	少子高齢化時代の福祉政策Ⅰ	現代社会の大きな課題である少子高齢社会について概観する。その中での福祉政策の調整と進展についてどのように進められてきたかを知る。
12	少子高齢化時代の福祉政策Ⅱ	1990年代から2000年代以降の社会福祉政策について、どのように調整と進展がなされ、調整から改革へ方策が変化しているかを知る。
13	福祉政策における必要と資源Ⅰ	社会福祉制度を必要とする人々のニーズとは何か。常に日本の社会において必要が有り、みとめられてきたからこそ、福祉政策として発展してきた。その考え方について学ぶ。
14	福祉政策における必要と資源Ⅱ	人々の持つ福祉ニーズとは何か、そしてそれをどのように判断し、サービスを決定していくのか。その基準とは何か、判定について学び、福祉政策の資源についても知る。
15	まとめ	講義を振り返り、まとめを行う。

平成29年度

<b>科目名</b>	社会保障論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	添田 祐司			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティーネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。			
<b>達成目標</b>	①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。 ②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。 ③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について関心が深まったか。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、コメントシート30%。 出席状況により減点あり。	
<b>教科書</b>	「わかる・みえる社会保障論 一事例でつかむ社会保障入門」今井 伸 編、株みらい			
<b>参考書</b>	「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規			
<b>学生への要望</b>	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No.2 研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。 私たちの生活と社会保障について考える。
2	社会保障って何？	少子高齢化社会と社会保障制度について理解する。
3	医療保険制度	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。
4	雇用保険制度	雇用保険制度の概要と各種給付について理解する。
5	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度（労災保険）の概要について理解する。
6	年金保険制度	年金保険制度の役割と機能、仕組みについて理解する。
7	介護保険制度	・介護保険制度の創設と概要等について理解する。
8	生活保護制度	生活保護制度の目的と基本原理、生活保護の動向等について理解する。
9	社会手当制度	社会手当の概要と各種手当について理解する。
10	社会福祉制度	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、母子・父子・寡婦福祉について理解する。
11	民間保険	民間保険の概要について理解する。
12	社会保障の財源と費用	社会保障費用統計と国の財政、国民負担率について理解する。
13	社会保障の歴史	欧米と日本における社会保障の歴史を学ぶ。
14	諸外国における社会保障制	ヨーロッパ、アメリカ、アジアの社会保障制度について理解する。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

<b>科目名</b>	高齢者福祉論		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	熊田 伸子			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及びニーズの高まりを捉えるとともに、高齢者を支えるサービス等について理解する			
<b>達成目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の高齢化の特徴と諸問題について理解できている。</li> <li>・高齢者特徴について理解できている。</li> <li>・高齢者の生活を支えるサービスについて理解できている。</li> </ul> <b>【履修カルテ評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。</li> <li>②高齢者の精神的・身体的・社会的特徴についてどの程度理解できたか。</li> <li>③高齢者を支えるサービスについてどの程度理解できたか。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験70%、課題30% 欠席・授業態度で減点あり	
<b>教科書</b>	毎時間プリントを配布			
<b>参考書</b>	随時紹介する			
<b>学生への要望</b>	高齢者について関心を持って、関連する新聞記事なども目を通してください。 (1時間)			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日13時から16時 創学館No.6 研究室			
<b>自学自習</b>	予習：当日のシラバスの内容を確認し、資料等に目を通しておくようにして下さい。 課題を出す場合もあります。 (1時間) 復習：授業の内容をふまえて、ノートにまとめて下さい。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間授業内容の説明</li> <li>・高齢者観について</li> </ul>
2	現代社会と高齢者問題 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会の到来と意義</li> <li>・人口の高齢化といくつかの側面</li> </ul>
3	現代社会と高齢者問題 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者をとりまく状況と諸問題 高齢期の生活不安、高齢者の健康についての意識、要介護高齢者の状況、家族構造と機能の変化、家族介護者の現状と課題、高齢者の経済状況</li> <li>・高齢者の雇用 就労の動向と就労支援制度の概要</li> </ul>
4	高齢者福祉理念の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉の理念が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ 第2次世界大戦までの高齢者福祉、高齢者福祉の基盤整備期—老人福祉法の制定—、高齢者福祉の発展期—施設福祉から在宅福祉へ—、福祉見直し論と社会福祉改革、ゴールドプランと介護保険制度の創設 今後の高齢者福祉—福祉サービスの質の向上と利用者の権利擁護—</li> </ul>
5	高齢者のからだの動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢による機能低下</li> <li>・骨のはたらき</li> <li>・筋肉の動き</li> <li>・神経の動き</li> <li>・高齢者の身体機能の低下を助ける福祉機器の紹介</li> </ul>
6	高齢者福祉に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人福祉法</li> <li>・介護保険法 高齢者福祉制度の概要とサービス 介護保険による高齢者生活援助サービスの体系—居宅サービス、住宅改修サービス、地域密着型サービス等</li> </ul>
7	認知症高齢者の理解と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者の現状</li> <li>・認知症高齢者への対応の仕方</li> <li>・地域で支える取組み</li> <li>・ビデオでの理解『認知症高齢者介護のエキスパート』</li> </ul>
8	高齢者の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者がどのような意識を持って生活をしているのかについて、「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」「高齢者の住宅と生活環境に冠する意識調査」などを参考とし、理解する。</li> <li>・ビデオ『ひとりの老後も安心の住まい』</li> </ul>
9	高齢者福祉制度の概要とサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉制度の体系と理念 保健福祉施策の姿容 老人福祉制度の体系—老人福祉制度とは、高齢者の多様なニーズを総合的に充足する施策である。その分野としては、 所得保障、医療保障、就労保障、社会福祉サービス、保健サービス、住宅保障、社会参加促進、 まちづくり、などである。</li> </ul>
10	高齢者の社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会活動状況および学習活動への参加状況について理解する</li> <li>・ビデオ『あなたの居場所はどこにある』</li> </ul>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	高齢者福祉サービスの体系と内容（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者福祉サービスの体系</li> <li>  高齢者福祉サービスの基本的性格を理解する</li> <li>  個別性—高齢者の多様なニーズに個別かつ具体的に対応する給付である</li> <li>  予防性—将来起こるかもしれない困難な状態を予防するサービスとしての役割</li> <li>  接近性—高齢者のニーズに接近する確実なサービス</li> <li>  多様性—高齢者の生活を支える多様な内容を備えている</li> </ul>
12	高齢者福祉サービスの体系と内容（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅福祉サービスの内容（在宅福祉サービスの意義、在宅サービスの種類と実施目的）</li> </ul>
13	高齢者福祉サービスの体系と内容（3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設サービスの内容（高齢者福祉施設の意義及び運営、サービス）</li> <li>・ 地域密着型サービスの内容</li> </ul>
14	高齢者福祉サービスの体系と内容（4）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の展望</li> <li>・ 高齢者の人権と成年後見制度</li> </ul>
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のまとめと補足説明</li> </ul>

平成29年度

<b>科目名</b>	高齢者福祉論	<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 福祉コース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	熊田 伸子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	高齢者の特性や生活実態についてのイメージを、その置かれている社会・経済的状況及び歴史的背景を学ぶことで理解を深める。 また、わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及び福祉ニーズの高まりを捉えるとともに、高齢者福祉とその関連施策について、介護保険制度に焦点をおいて、法制度及び実践の現状を理解する。		
<b>達成目標</b>	高齢者の特性や生活実態について理解する。 高齢者の福祉ニーズについて理解する。 介護保険制度を中心とした法制度及び福祉サービスについて理解する。 【履修カルテ評価項目】 ①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。 ②要介護高齢者を支える介護サービスについてどの程度理解できたか。 ③高齢者福祉施設の種類の役割についてどの程度理解できたか。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、課題30% 欠席・授業態度で減点あり
<b>教科書</b>	社会福祉士養成講座 13 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、		
<b>参考書</b>	授業の中で随時紹介します		
<b>学生への要望</b>	日頃から、高齢者に連する新聞記事等に関心を持ってください。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日の5時限目 金曜日の13時から16時 創学館4階 No.6研究室		
<b>自学自習</b>	予習：教科書を読み、当日の内容の理解に努める。(1時間) 復習：当日の内容を整理し、ノートにまとめる。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・高齢者の特性 ・高齢者の社会的理解 ・高齢者の身体的理解 ・高齢者の精神的理解
2	少子高齢社会と高齢者	・少子高齢社会と社会的問題 ・少子高齢社会と社会的問題 ・高齢者を取り巻く状況と諸問題 ・健康、介護、経済等
3	高齢者の雇用	・就労の動向と就労支援制度の概要 ・高齢者等の雇用の安定等に関する法律
4	高齢者保健福祉の発展 (1)	・高齢者保健福祉が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ 第2次世界大戦までの高齢者福祉 高齢者福祉の基盤整備期—老人福祉法の制定— 高齢者福祉の発展期—施設福祉から在宅福祉へ— 福祉見直し論と社会福祉改革、
5	高齢者保健福祉の発展 (2)	・高齢者福祉の理念が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ ゴールドプランと介護保険制度の創設 今後の高齢者福祉—福祉サービスの質の向上と利用者の権利擁護—
6	高齢者支援の関係法規	・老人福祉法 ・高齢者の医療の確保に関する法律 ・高齢者虐待防止法 ・その他の関係法規 バリアフリー新法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度
7	介護保険制度の基本的枠組み	・介護保険制度の全体像 ・介護保険制度の目的と理念 ・保険財政 ・保険者と被保険者
8	介護保険制度の仕組み	・要介護認定の仕組みとプロセス ・保険給付 ・介護報酬 ・地域支援事業 ・介護保険事業計画 ・サービスの質の確保
9	介護保険サービスの体系	・介護保険サービスにおける専門職の役割と実際 ・居宅サービス ・施設サービス ・介護予防サービス ・地域密着型サービス
10	高齢者を支援する組織と役割	・行政機関地域包括支援センター ・社会福祉協議会 ・ボランティア団体、NPO

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	高齢者支援の方法と実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者支援の方法</li> <li style="padding-left: 20px;">個人・家族・グループ・地域・ケアマネジメント</li> <li>・ 介護保険法における連携と実際</li> </ul>
12	高齢者を支援する専門職の役割と実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職の役割と実際</li> <li>・ 多職種連携</li> <li>・ 専門職の倫理</li> </ul>
13	認知症施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の認知症施策について概観する。</li> <li>・ 地域で行われている取り組みについて調べ、発表する。</li> </ul>
14	高齢者福祉の課題と福祉専門職の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の展望についてグループワークを行い、福祉専門職の関わり方について各自の考えを発表する。</li> </ul>
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のまとめと補足説明を行う</li> </ul>

平成29年度

<b>科目名</b>	児童福祉論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	添田 祐司		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的ニーズについて理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学び、実践に役立てることを目標とする。		
<b>達成目標</b>	①近年の日本における子どもと家庭の諸問題等について、どの程度理解できたか。 ②子ども家庭福祉に関する法律や制度等について、どの程度理解できたか。 ③国内外の子ども家庭福祉の歴史について、どの程度理解できたか。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、コメントシート30%。出席状況により減点あり。
<b>教科書</b>	新・社会福祉士養成講座15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規		
<b>参考書</b>	適宜指示する。		
<b>学生への要望</b>	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。
2	現代社会と子ども家庭	近年の社会状況と、子ども・家庭の諸問題やニーズについて理解する。
3	子ども家庭福祉とは何か1	子ども家庭福祉の定義や内容について理解する。
4	子ども家庭福祉とは何か2	子どもと家庭の権利保障と歴史について学ぶ。
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度1	子ども家庭福祉の計画的進展と支援制度について学ぶ。
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度2	子ども家庭福祉の法体系と実施体制について理解する。
7	子ども家庭福祉にかかわる法制度3	子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健1	子どもの貧困防止、母子保健、障害のある子どもとその家庭への支援について理解する。
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健2	児童の健全育成や保育制度について理解する。
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健3	近年の子育て支援施策の動向やひとり親世帯への支援について理解する。
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健4	社会的養護や非行児童・情緒障害児への支援について理解する。
12	子ども家庭にかかわる福祉・保健5	児童虐待への対応や女性の福祉について理解する。
13	子ども家庭への援助活動1	相談援助活動の必要性やその方法について学ぶ。
14	子ども家庭への援助活動2	施設ケアや地域援助活動、ネットワークについて学ぶ。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成29年度

<b>科目名</b>	児童福祉論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	添田 祐司			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的ニーズについて理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学び、実践に役立てることを目標とする。			
<b>達成目標</b>	①近年の日本における子どもと家庭の諸問題等について、どの程度理解できたか。 ②子ども家庭福祉に関する法律や制度等について、どの程度理解できたか。 ③国内外の子ども家庭福祉の歴史について、どの程度理解できたか。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、コメントシート30%。出席状況により減点あり。	
<b>教科書</b>	新・社会福祉士養成講座15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規			
<b>参考書</b>	適宜指示する。			
<b>学生への要望</b>	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。
2	現代社会と子ども家庭	近年の社会状況と、子ども・家庭の諸問題やニーズについて理解する。
3	子ども家庭福祉とは何か1	子ども家庭福祉の定義や内容について理解する。
4	子ども家庭福祉とは何か2	子どもと家庭の権利保障と歴史について学ぶ。
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度1	子ども家庭福祉の計画的進展と支援制度について学ぶ。
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度2	子ども家庭福祉の法体系と実施体制について理解する。
7	子ども家庭福祉にかかわる法制度3	子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健1	子どもの貧困防止、母子保健、障害のある子どもとその家庭への支援について理解する。
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健2	児童の健全育成や保育制度について理解する。
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健3	近年の子育て支援施策の動向やひとり親世帯への支援について理解する。
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健4	社会的養護や非行児童・情緒障害児への支援について理解する。
12	子ども家庭にかかわる福祉・保健5	児童虐待への対応や女性の福祉について理解する。
13	子ども家庭への援助活動1	相談援助活動の必要性やその方法について学ぶ。
14	子ども家庭への援助活動2	施設ケアや地域援助活動、ネットワークについて学ぶ。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成29年度

<b>科目名</b>	障害者福祉論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	村田 清			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕                  障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕                  資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕                  障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕                  障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕                  資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕                  障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。</p>			
<b>受講資格</b>	人間生活学科福祉コース3年生	<b>成績評価 方法</b>	出席状況・学習態度（50）、定期試験等（50）総合的に評価する	
<b>教科書</b>	特に指定しない			
<b>参考書</b>	障害者福祉論（ミネルヴァ書房）			
<b>学生への要望</b>	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること			
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・障害とは	法律にみる障害の定義、ICFによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことが考えられる。
2	障害者福祉の基本的視点	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。
3	障害者福祉のあゆみ	戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学習する。
4	障害者福祉に関する制度や法律	障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。
5	障害者の生活実態とニーズ	障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。
6	障害者総合支援法の概要	総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。
7	障害福祉サービスの利用プロセス	福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。
8	相談支援	総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。
9	就労支援	就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。
10	成年後見制度と 権利擁護	障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。
11	障害者プランにおける専門職の役割	市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。
12	障害者の文化スポーツ	障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。
13	障害者支援のニーズと対応	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。
14	事例研究	個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。
15	まとめ	障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。

平成29年度

<b>科目名</b>	障害者福祉論		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	添田 祐司			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	障害者を取り巻く社会情勢や生活実態、福祉・介護需要（ニーズ）について理解し、障害者に関する福祉制度とその発展過程を学ぶとともに、相談援助活動に必要な障害者自立支援法や福祉・介護に係わる法制度、組織、団体及び専門職について理解する。また、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野との連携について理解することなどを通じて、障害者理解を深める。			
<b>達成目標</b>	①障害者を取り巻く課題やその原因と改善策について理解できたか。 ②障害者にかかわる法整備について、歴史的な変化を踏まえて理解できたか。 ③共生社会のあり方について、自分なりの見解がもてたか。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、コメントシート30%。 出席状況により減点あり。	
<b>教科書</b>	新・社会福祉士養成講座14 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規			
<b>参考書</b>	適宜指示する。			
<b>学生への要望</b>	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。
2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 1	日本における障害者福祉の発展と歴史的背景について学ぶ。
3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 2	障害者の生活実態や「障害」の多様な見方について理解する。
4	障害者にかかわる法体系 1	障害者基本法や身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法について理解する。
5	障害者にかかわる法体系 2	発達障害者支援法や障害者虐待防止法、医療観察法やバリアフリー新法、障害者雇用促進法について理解する。
6	障害者にかかわる法体系 3	障害者にかかわるその他の法体系について理解する。
7	障害者自立支援制度①	障害者総合支援法の理念や考え方、給付内容や支給決定までのプロセス、自立支援のための医療費や補装具費について理解する。
8	障害者自立支援制度②	地域生活支援事業や障害福祉計画、苦情解決制度や障害児に対する支援について理解する。
9	組織・機関の役割 1	障害者福祉に対する行政機関の役割について理解する。
10	組織・機関の役割 2	障害者福祉に対する労働機関や教育機関の役割について理解する。
11	専門職の役割と実態 1	障害者総合支援法に基づく専門職について理解する。
12	専門職の役割と実態 2	相談支援専門員やサービス管理責任者、生活支援員、居宅介護等従業者の役割と実際について理解する。
13	多職種連携・ネットワーク 1	多職種で連携する意味について、その必要性やシステムを通して学ぶ。
14	多職種連携・ネットワーク 2	医療・教育・労働関係機関との連携と、多職種連携の方法やその実際について学ぶ。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成29年度

<b>科目名</b>	海外生活実習	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単 位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	諸外国を訪問して様々な文化に触れるとともに、衣・食・住・福祉・経営・情報などの生活に関わる施設や研修先を訪れ、見聞を広げ		
<b>達成目標</b>	諸外国を訪問し、訪問国の文化の理解を深めることを目的とする。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 3年生	<b>成績評価 方法</b>	①訪問前調査20% ②訪問時の観察・交流・行動50% ③レポート30%
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	関係資料の配布		
<b>学生への要望</b>	訪問国や訪問先について調べ、疑問点を明らかにしておくこと。 また、訪問国の生活や文化について調べておくこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜Ⅳ時限（14：30～16：00） 水曜Ⅳ時限（14：30～16：00）		
<b>自学自習</b>	諸外国の生活や文化について事前に調査し、理解を深める（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	海外生活実習の目的および訪問時期の説明を行う。 またこれまでの海外生活実習の訪問国を提示する。
2	オリエンテーション	海外生活実習の訪問国や訪問地域の候補を提示する。 また視察先の例を示し、これまでの実習先での様子を学ぶ。
3	手続き方法	旅行会社による積立や手続き方法の説明会を実施する。 また海外生活実習を行うための予備調査として参加希望調査・訪問希望地域調査を行う。
4	訪問国の選定	訪問希望調査結果を提示する。 初回の調査で訪問希望地域が多岐にわたっている場合には、 初回の希望調査結果の上位2 か国ないしは3 か国に限定した希望調査を行う。
5	事前学習	旅行会社による説明会を実施する。 訪問予定国の気候・文化・政治などを学び、訪問予定国に関する理解を深める。
6	渡航の意義	渡航に向けての手続きに関する説明会を行い、訪問日程などを確認する。 ビザやパスポートの役割などを理解し、その意味と重要性を認識することとする。 また電圧などが国ごとに違うことを理解し、国ごとに違いがあることを理解する。
7	訪問国の理解 1	渡航直前の説明会を行う。 国際的にどのような問題が発生しているか国際状況を理解する。 また訪問地域と日本の文化・気候等の違いを再度確認する。 これらの確認により、日本が世界の中でどのように位置づけられているか理解を図る。
8	訪問国の理解 2	渡航に際し、これまでの説明会や訪問国・訪問先について調べたことから生じ疑問をまとめる。 また出国時と入国時における手続きの違いや為替などについて学ぶ。
9	海外生活実習 1	車窓から町並み等を観察することで、建築物や道路などの施設の違いを確認する。 とくに日本の建造物と訪問国の建造物の差に注意を払い確認をする。
10	海外実習 2	宿泊ホテル周辺を散策しスーパーマーケットなどで買い物をしてみることで、 販売されているもの、購入方法、通貨の違いを理解する。 訪問国の生活について実体験を通して学ぶこととする。
11	海外実習 3	食文化の違いを理解するため、訪問国のマーケットを訪れ特産品や販売方法を確認する。 日本の食文化と比較することで、国ごとに特色があることを学ぶ。 また販売されている衣料品を観察し、日本との販売方法の違いや商品の違いが何か学ぶ。
12	海外実習 4	福祉施設を訪問し、施設の状況や施設周囲の環境がどのようなものか学ぶ。 また施設の職員から制度や問題点について説明を受けて日本との制度の違いを学び、 日本での改善を行うための一助とする。
13	海外実習 5	宗教と関わる施設（寺院など）を訪れ、建築物としての機能性を確認する。 またこれらの建造物を通して、宗教が文化や習慣及ぼす影響を確認する。
14	海外実習まとめ 1	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。 また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。
15	海外実習まとめ 2	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。 また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。

平成29年度

科目名	健康生活論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	藤原 建樹		
開講期	前期		
授業概要	個人あるいは集団レベルでの健康維持、疾病予防に有用な医学情報を概説する。		
達成目標	健康維持、疾病予防についての基礎的知識が習得されているか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年	成績評価 方法	授業への参加状況 (50%) レポート (50%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規		
参考書	なし		
学生への要望	教官が提示したテーマについて簡潔なレポートをまとめ、それを発表してもらいます。 発表のスキルを身に付けるのも授業の目標のひとつ。 学生の理解度あるいは関領域によりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 火曜日 8:30~12:00 水曜日 13:00~16:00 木曜日 8:30~10:20		
自学自習	教科書ならびに配布資料の読み返し。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	健康寿命とライフスタイル	日本人の寿命 健康寿命とは 人口統計から見た主な死因 非感染性疾患(NCD)の諸問題
2	生活習慣病とその予防 その1	糖尿病とは 糖尿病はいまや社会問題 糖尿病の病型
3	生活習慣病とその予防 その2	糖尿病慢性合併症 妊娠糖尿病 糖尿病の治療 糖尿病の予防
4	感染症とがん その1	ピロリ菌感染とは ピロリ菌感染と胃炎、胃潰瘍 ピロリ菌感染と胃癌
5	感染症とがん その2	ウイルス性肝炎 肝炎と肝がん 肝炎の予防
6	感染症とがん その3	子宮頸がんとは 子宮頸がんの成因 子宮頸がんの予防
7	感染症 その1	主な再興感染症 主な新興感染症 狂牛病の諸問題
8	感染症 その2	後天性免疫不全症(AIDS)の現況 主な性感染症の特徴 主な性感染症の現況
9	感染症 その3	小児の主な感染症 ワクチンで防げる病気
10	青年期と心の病気 その1	精神病とは 統合失調症
11	青年期と心の病気 その2	躁うつ病 うつ病の諸問題
12	青年期と心の病気 その3	神経症の諸問題
13	青年期と心の病気 その4	過食症と拒食症 骨粗しょう症の諸問題
14	青年期と心の病気 その5	アルコールと健康 薬物依存症□
15	まとめ	総合討論

平成29年度

<b>科目名</b>	衣生活概論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。		
<b>達成目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。</li> <li>2. 繊維の種類と特徴を理解できた。</li> <li>3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。</li> </ol>		
<b>受講資格</b>		<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
<b>教科書</b>	配布資料		
<b>参考書</b>	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
<b>学生への要望</b>	自分および家族の衣生活上の問題点を抽出しながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日(2コマ)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		
<b>自学自習</b>	講義の最初に前回の講義内容や最近のトピックスについての調査結果や感想を発表する時間を設定します。その準備をすること。 事前学習1時間、事後学習1時間踏する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること、そうすることで、講義内容の理解が深まることを解説する。

科目名	テキスタイル材料学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子			
開講期	前期			
授業概要	生活の基本である衣生活を安全かつ快適に営むために、衣生活の基本要件のテキスタイル材料（繊維・素材）を対象として、自然・社会・文化の総合科学的視点から幅広く学ぶ。講義では、より理解を深めるために映像や実物を活用する。			
達成目標	1. 各種繊維の種類とその特徴・特性を理解する。 2. 繊維・糸・布に対する染色方法の種類を理解できる。 3. 被服着用目的の3つの目的とテキスタイル材料との関連性が理解できる。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点	
教科書	プリント配布			
参考書	「衣服材料の科学」 島崎恒蔵編著、 園野哲也、 林正之、 森俊夫共著 (株)建帛社、NO2被服学研究室(武井)保管			
学生への要望	自分が毎日着用する被服に関心を持ち、素材の種類や染色方法などに対して理解を深めること。 欠席をしないこと。			
オフィスタイム	火曜日(2コマ)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室			
自学自習	毎講義の開始後、前回の講義内容や最近のトピックスに関する調査結果や感想を発表して議論を深める時間を設定します。 そのための事前学習(1時間)と事後学習を実施すること(1時間)。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって講義の概要、到達目標、進め方や評価方法などを説明する。被服学領域におけるテキスタイル材料学の位置付け、衣生活におけるテキスタイル材料の役割について概説する。 からむし織り、フェアリーフェザーに関する映像を鑑賞し地域の繊維産業の現状と今後を考える。
2	被服着用の目的と被服の消費性能とテキスタイル	人はなぜ被服を着用するのか、被服に求められる性能とは何か、テキスタイル材料と関連付けて解説する。 映像により、繊維の種類や特徴を再確認する。
3	繊維について	テキスタイル材料としての繊維とは何か、被服用繊維の分類、繊維を構成している高分子化合物の構造上の特徴等について繊維の性質と関連付けて学習する。 繊維の代表として、絹(蚕)と動物繊維であるビキューナの映像を鑑賞して理解を深める。
4	糸について	紡績糸、フィラメント糸、複合糸等の糸の種類と分類、糸の製造工程や糸の構造と、糸の太さの表示法について学習する。 繊維の鑑別実験で用いられる燃焼実験を通じて、繊維別の特徴を把握する。
5	布の種類と構造(1)	布として最も多く用いられている織物の製造原理と構造、分類、表示法、更に各種織物の名称と特徴等について実物サンプルを用いて解説する。 繊維鑑別法の映像を見て理解を深める。
6	布の種類と構造(2)	織物の構造を理解するために、代表的な三原組織(平織、綾織、朱子織)について実際に紙(毛糸)を用いて布を作製しながら構造について学習する。
7	布の種類と構造(3)	(前回の継続)織物の構造を理解するために、代表的な三原組織(平織、綾織、朱子織)について実際に紙(毛糸)を用いて布を作製しながら構造について学習する。 糸の段階を経ずに直接繊維から布を構成している不織布の種類と製造法、構造と性質および接着布、レース、皮革等、織物や編物以外の被服材料について学習する。
8	その他の被服材料(留め具)	被服を構成するテキスタイル副素材の種類の説明後、留め具(ボタン、ファスナー)についてその種類や歴史について学ぶ。 代表的な留め具の布へのつけ方を練習する。
9	テキスタイル材料の染色(1)	被服の色彩の役割について学び、色彩を表現するための染色についてその方法とメカニズムについて学ぶ。 染色に関して理解を深めるために映像を見る。
10	テキスタイル材料の染色(2)	(前回の継続)染色に関して理解を深めるために映像を見る。
11	テキスタイル材料の染色(3)	染色実験を経験し、布(被服)の染色原理を理解する。 染色は、絹のハンカチを用いた代表的な天然染料のコチニール、くちなしで絞り染めを行う。
12	テキスタイル材料の加工(1)	布が被服に裁断・縫製、製造され販売されるまでに染色に加えて様々な方法で加工されている。その種類と特性について学ぶ。
13	テキスタイル材料の加工(2)	郡山市内のファッション関連店舗にて市場調査を行う。目的は、様々な被服にどのような加工処理が施され、その内容がどのように商品に表示されているか実態調査を行い、理解を深める。
14	テキスタイル材料の今後の課題	会津木綿や富岡製糸などに関する映像を視聴し、生活者からみた繊維・糸・被服に対する今後の課題を考える。
15	まとめ	テキスタイル材料である繊維・糸・布について、消費性能と関連付けてまとめる。

平成29年度

<b>科目名</b>	被服管理学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。			
<b>達成目標</b>	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。			
<b>受講資格</b>	特になし		<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
<b>教科書</b>	配布プリント			
<b>参考書</b>	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の授業書			
<b>学生への要望</b>	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日(2コマ):N02被服学研究室 水曜日(全日):N02被服学研究室			
<b>自学自習</b>	毎講義開始後に前回の授業内容や最近のトピックスについて関心をもった内容や項目について調査し、その結果と感想を発表し、討議する。そのための準備をすること(事前学習と事後学習を合計して2時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。

<b>科目名</b>	衣生活文化論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合 コース 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	田辺 真弓			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	本科目は、人間生活学科の教育目標に沿って設けられている人間生活学科専門科目・生活学系の選択科目である。また、短期大学部専攻科文化学専攻の専門関連科目である。 衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付けて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかわっているかを考える。衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に注目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。			
<b>達成目標</b>	衣生活を文化的面から見る姿勢を養うとともに、服飾研究について関心を持つこと。課題3回に意欲的に取り組み、期末レポートについては、研究課題を自ら設定して資料を収集し、論述を進めて完成させること。			
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科生活総合コース4年生 短期大学部専攻科文化学専攻1・2年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題3回 30点 ②期末レポート 70点 60点以上で合格点とするが、授業理解度は8割以上を求める。	
<b>教科書</b>	教科書は用いず、資料を配布する。			
<b>参考書</b>	増田美子 編 『日本衣服史』 吉川弘文館、小池三枝 著 『服飾文化論』 光生館、小池三枝 著 『服飾の表情』 勁草書房、徳井淑子 著 『服飾の中世』 勁草書房、徳井淑子 著 『ヨーロッパ服飾史』 河出書房新社、その他、授業で紹介する。			
<b>学生への要望</b>	衣生活文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。			
<b>オフィスタイム</b>	家政学館4階 福祉情報専攻研究室 火曜日Ⅳ・Ⅴ時限			
<b>自学自習</b>	事前学習:「シラバス」の授業内容とスケジュール表に基づき、授業で取り上げる内容について、参考図書、服飾事典等で調べる。(1時間) 事後学習:授業で学んだ内容についてノートにまとめ、疑問点等について調べるとともに、次回の授業において質問できるように、質問項目をまとめる。併せて、学期半ば以降は、期末レポートの課題設定について考え、課題を決定次第、資料収集を進め、レポート作成に取り組む。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業計画の提示 日本風俗美術館服飾解説	授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。 図書館1階の日本風俗美術館に展示されている風俗人形の服飾、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。
2	衣服の機能 表現と感情移入	衣服が持つ機能には、「身体保護」、「羞恥心の覆い」、「呪術性」、「表示」、「美的要求」、「変身願望」、「携帯機能」などがある。これらの機能について知り、なぜ衣服を着るのかについて考える。衣服の持つ自己表現には「目立ちたい」と「目立ちたくない」という相反する意識がある。また、衣服はそれを着る人物を表す「記号」の役割と、着る人の内面を語る「ことば」の役割をする。衣服は着る人のこころに働きかけて新たな「表現」を生じさせるものである。
3	着心地	着心地には物理的な着心地と、心理的な着心地とがある。ここでは衣服を着るとき心の状態を通して、個人・集団・文化のレベルで着心地について知り、衣服が着る人の心にとどのように働きかけているかを考える。
4	衣服と流行	流行は少数者に始まって多数者に及ぶ好尚の現象であり、おそらく人間の文化とともに古くから現れた現象だと思われる。流行の成立と交替、個性の無視と誇張、流行の起点などについて、西洋や日本の服飾の流行を通して考え、流行の構造とその意義を明らかにする。
5	衣服の美感	日本の近世の美感である「だて」と「いき」とはどのようなことを表し、服飾の上にとどのように現れているのかを絵画資料、図版資料、文献等を通して知る。また、あわせて西洋の美感である「ダンディズム」について、それが服飾上にとどのように現れ、その後の紳士服に及ぼした影響を知るとともに、その精神主義について理解する。
6	制度と慣習	服飾に関わる制度や禁令にはどのようなものがあったかを知り、服飾の制度と慣習について学ぶ。また、その一例として近代日本の衣生活における更衣(ころもがえ)について学び、日本の伝統的衣生活が限られた衣料を使い切る衣生活であったことを理解する。
7	色彩	ビデオ『ファッションブライム』色彩編を視聴し、色の見え方、色彩に対する感情、天然染料と合成染料、染の技法についての知識を得て、色彩についての理解を深める。
8	日本の色	日本の律令制における服制と色彩について知り、また、平安時代の国風文化の隆盛にともなって用いられるようになった日本独特の服飾である東帯や唐衣裳装束における襲色目と季節感について知ることによって、日本の文化と色彩感覚を学ぶ。
9	西洋の色	西洋における色彩感覚は日本における色彩感覚と大きく異なっている。西洋では季節感を表す色彩はごく限られているが、その一例として五月祭の緑の服を紹介し、緑の服がなにを象徴しているのかを明らかにする。あわせて、黄色やカラフルな色使いについても紹介し、西洋と日本の色彩感覚の違いについての理解を助ける。
10	「延喜式」織部司	大蔵省の管轄下に設けられていた織部司は天皇・皇后の御衣の材料となる織物を生産していたことで知られている。当時の織物技術と生産、さらに七夕の行事である乞巧奠について文献を手がかりに学ぶ。
11	「むしのたれぎぬ」と苧麻(からむし)	平安時代から中世において寺社詣の際の旅装として用いられた「むしのたれぎぬ」とはどのような衣服であったか、またその材料である苧麻と江戸時代に盛んに生産された越後上布・越後縮について学ぶ。
12	「近世小袖」と町人服飾	近世小袖文様の流行と町人文化が花開いた元禄期の町人服飾について、雛形本、絵画資料、文学作品等を基に学び、服飾と当時の人々の生活との関わりを知る。
13	近代の衣生活(1) 洋風化のはじまりと服飾の変化	明治維新後の文明開化期は服飾にも大きな変化をもたらした。日本において洋服がどのように用いられるようになっていったかを絵画や写真資料ならびに文献等を基に年代を追って見ていき、当時の人々が衣服についてどのような思いをもち、どのような衣生活をしていったのかを知る。
14	近代日本の衣生活(2) 洋風の外套	近世まで日本の衣生活の中に外套は存在しなかったが、西洋から洋服とともに羊毛織物がもたらされると、男性の「二重纏し」、女性の「東コート」が誕生し、また、はおりものとして「肩掛」や「赤毛布」が流行した。これらが和服に組み合わせられて日本の衣生活に急速に浸透していった過程を知る。
15	近代日本の衣生活(3) 洋装の浸透と働く女性 婚礼服と喪服	男性の洋装化に比べて、女性の洋装化が大幅に遅れた理由を明らかにし、また、働く女性が洋装の普及に果たした役割について学ぶ。さらに、近代日本における結婚式の変化と婚礼服について知り、近世まで日本では用いられていなかった黒の喪服の浸透について学ぶ。

<b>科目名</b>	服飾デザイン論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 今日の服装は多様化し個性化が求められ、広く生活とのかかわりの中で考えられている。デザインには様々な分野があり捉え方が一様ではないが、人間と空間のかかわりの問題すなわち生活空間としてとらえられる。この意味でのデザインは、第一に物と人をつなぐプロダクト・デザイン、第二に社会と人間をつなぐグラフィック・デザイン、第三は社会と物とを総合し、人間生活のために調和させようとする環境デザインである。被服デザインは第二の要素をも含みながら、第一の分野に属している。そうした基礎となるものを系統的に習得し、更に、形態・色彩・柄・材質などの理解を深め、描き、創るという実習も通して、総合的に服飾デザインを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] デザインとは何か。デザインの世界。色の理解。服装における美など、衣生活におけるデザインについてコラージュ実習や表現の変化を通し理解を深め総合的に学ぶ。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>[到達目標] ①デザインの世界を知り、デザインとは何かを理解する。 ②生活空間特に衣生活のなかでのデザインとは何かを理解する。</p>		
<b>受講資格</b>	特になし。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業態度）20点 ②途中課題提出（ファッションコラージュ、布の表現変化）30点 ③レポートやテストなど50点 ①～③の総合評価60点以上で合格となる。
<b>教科書</b>	プリントを配布。		
<b>参考書</b>	文化出版局『服装デザイン論』飯塚弘子、万江八重子、香川幸子共著、文化出版局『ファッションコーディネートの世界』林泉著、平凡社『ファッションの歴史』千村典生著文化女子大学服装史研究室『ファッション史 改訂版－西洋服装史概説－』		
<b>学生への要望</b>	1. 遅刻・欠席をせずに熱心に取り組むこと。2. 作品作りは基礎を踏まえた上で丁寧に心をかけ真剣に創り、提出期日を守ること。		
<b>オフィスタイム</b>	月（Ⅲ）、木（Ⅱ、Ⅲ）家政学館 4 F 被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認してください。		
<b>自学自習</b>	予習：生活空間でのデザインに関する新聞記事などを探し、問題点や疑問点をまとめておくこと（1時間） 復習：授業終了後に示す課題を、授業内容のまとめとともにノートに整理する。（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(9/15)	1) 半期間を通し被服デザインで何を学ぶのかを説明、準備するものなど説明をする 2) 好きな色と似合う色 色に対する興味を持てるよう、自分のアンダートーン及び、パーソナルシーズンのカラーを調査 自分の好きな色が自分に似合う色なのか考えていく
2	被服の意味 (9/22)	1) 被服デザインの意義 デザインとは何か デザインの語源及び、日本においてデザインの言葉が使われるようになったのはいつかなどを学ぶ 2) デザインの世界 広義の意味の工業デザイン、建築デザインとは また、被服デザインとは何かを学ぶ 3) デザインの基本条件 機能、材料、技術とは何か 4) 被服。類語を考える 5) 日本人デザイナー川久保玲について
3	衣服の成り立ち (9/29)	1) 西洋服装史を学ぶ 服装の起源と機能、着装の基本型などを学ぶ
4	衣服の成り立ち(10/13)	1) 日本服装史を学ぶ 日本人の服装の起源から現在のファッションを考える
5	色彩の基礎(10/20)	1) 色の基礎 色が見える仕組みを学び、光の色、物体の色などを学ぶ 2) 色彩の世界を学ぶ ニュートン、レーマー、ゲーテ、マンセル、オストワルト、CIE, PCCSなど 3) 色の3属性とは 色相、明度、彩度とは何か 4) 配色調和の基本を学ぶ 5) トーンの理解
6	被服の美(10/27)	1) 美について 2) 被服における美 衣服の美、人体の美、着装の美、内容美を学ぶ 3) ファッションイメージの分類について クラシック、モダン、マニッシュ、スポーティブ、アバンギャルド、エスニック、フェミニン、エレガントなど 4) ファッションコーディネーターとの基本原理 5) ファールルール ①正礼装（男・女） ②準礼装（男・女）
7	美的形式原理 コーディネート実習(11/10)	1) コーディネートの基本原理 2) コーディネートの要素 3) 基本的コーディネート実習の方法を学ぶ a. ハーモニーカラーコーディネート（調和配色） b. アクセントカラーコーディネート（強調配色）
8	美的形式原理コーディネート実習(11/17)	1) 基本的コーディネーション技術と種類 c. グラデーションカラーコーディネート（階調配色） d. マルチカラーコーディネート（多色配色）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	美的形式原理コーディネート実習(11/24)	1) 基本的コーディネート技術と種類 e. コントラストカラーコーディネート(対照配色) f. セパレートカラーコーディネート(分離配色) 3週間かけて6つコーディネート学ぶ
10	美的形式原理(12/1)	上衣と下衣との関係、コーディネートした全体との関係を見ていく中で、美的形式といわれるものはどのようなものか考察していく 1) 統一(unity)、調和(harmony)、リズム(rhythm)、バランス(balance) 2) プロポーション モデュールによる美的プロポーションのための黄金比とは、黄金比、ルート矩形などを通して考えていく
11	造形要素・シルエットとディテール(12/8)	1) 基本デザインにおける点と線 点と線との錯視について 2) 被服デザインにおける点と線 服飾と線と錯視について 3) シルエット 服型とシルエット 体型の理解と採寸方法を学ぶ
12	素材の効果性(12/15)	1) 材質効果 2) 柄づけの技法 3) 柄の種類 4) 材質とデザイン 5) 同一素材による表現の変化実習
13	ファッション画実習(12/22)	1) デザインと表現 2) プロポーションとポーズ 3) 材料と表現 4) ファッション画実習
14	ファッション画実習(1/19)	1) 彩色実習 様々な、着色・描画方法を学ぶ
15	ファッション画実習及び評価(1/26)	○作品鑑賞会 ※これまでの作品鑑賞・討論会を通して様々なものの捉え方や考え方を学ぶ。

科目名	被服学実験	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択
担当教員	武井 玲子, 大泉 由美		
開講期	前期		
授業概要	衣生活概論、被服管理学、テキスタイル材料学他衣生活関連教科で学び修得した衣生活に係わる知識・現象を実験・実習にて確認することにより、科学的に関連知識の理解を深めることができ、安全・安心・快適な衣生活を営むことができる。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被服の着用による汚れのメカニズムを理解する。</li> <li>2. 洗濯時の実際上の配慮ポイント（洗剤の計量、乾燥方法等）を理解する。</li> <li>3. 洗濯の失敗事例（毛糸のフェルト化）や染み抜きの方法を理解する。</li> <li>4. 漂白剤の種類と特徴を実験的に理解する。</li> <li>5. 染色実験を経験することにより、染色の消費性能を理解する。</li> </ol>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①実技 : 30点 ②レポート : 50点 ③受講態度 : 20点
教科書	プリント配布		
参考書	衣生活概論（小林茂男他、弘学出版）、衣服管理の科学（片山倫子編、建帛社）他：N02被服学研究室（武井）保管		
学生への要望	レポート提出は、次回授業前までに提出のこと。		
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		
自学自習	事前学習：次回のテーマに関連した内容の調査（1時間） 事後学習：レポート作成（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	①授業の進め方や評価方法などを理解する。 ②被服学実験授業で使用するガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類と使い方、注意点を理解する。
2	ガイダンス	①授業の進め方や評価方法などを理解する。 ②被服学実験授業で使用するガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類と使い方、注意点を理解する。
3	基礎実験 1	①ガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類、洗浄・管理方法、使い方など実験の基礎を理解する。 ②洗濯に及ぼす水質項目として、洗濯用水の硬度、pH、残留塩素、CODをバックテストで確認する。検査対象の洗濯用水として、家庭の水道水、井戸水に加え、市販の飲料水を比較対照しながら理解を深める。
4	基礎実験 1	①ガラス器具など実験器具・用具、実験装置などの種類、洗浄・管理方法、使い方など実験の基礎を理解する。 ②洗濯に及ぼす水質項目として、洗濯用水の硬度、pH、残留塩素、CODをバックテストで確認する。検査対象の洗濯用水として、家庭の水道水、井戸水に加え、市販の飲料水を比較対照しながら理解を深める。
5	基礎実験 2	①試料の計量方法（重量と容積）、溶液の調製方法を②のシャボン玉液を調製しながら理解する。 ②割れにくいシャボン玉が作れる溶液の調製：水、界面活性剤（台所用洗剤）、洗濯のり、グリセリンなどを混合して、軍手でシャボン玉のお手玉ができるような膜の丈夫なシャボン玉液を調製、確認実験をする。 ③素手で割れないシャボン玉液を調製する。
6	基礎実験 2	①試料の計量方法（重量と容積）、溶液の調製方法を②のシャボン玉液を調製しながら理解する。 ②割れにくいシャボン玉が作れる溶液の調製：水、界面活性剤（台所用洗剤）、洗濯のり、グリセリンなどを混合して、軍手でシャボン玉のお手玉ができるような膜の丈夫なシャボン玉液を調製、確認実験をする。 ③素手で割れないシャボン玉液を調製する。
7	生理用ナプキンの構造と吸収メカニズムの検討	市販の生理用ナプキンと現在自分が使用しているナプキンを対象として、その構造と吸収メカニズムを実験的に確認し、生理時におけるナプキンの効果的な選択とその使用方法について理解を深める。
8	生理用ナプキンの構造と吸収メカニズムの検討	市販の生理用ナプキンと現在自分が使用しているナプキンを対象として、その構造と吸収メカニズムを実験的に確認し、生理時におけるナプキンの効果的な選択とその使用方法について理解を深める。
9	洗浄力試験	水溶性汚れ、油性汚れ、無機物汚れ、等の汚れモデルを用いて、家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の違いを確認する。また、界面活性剤のローリングアップ、表面張力低下作用、ブラターの法則実験を行い、界面活性剤の性質や汚れ除去メカニズムの理解を深める。
10	洗浄力試験	水溶性汚れ、油性汚れ、無機物汚れ、等の汚れモデルを用いて、家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の違いを確認する。また、界面活性剤のローリングアップ、表面張力低下作用、ブラターの法則実験を行い、界面活性剤の性質や汚れ除去メカニズムの理解を深める。
11	羊毛繊維のフェルト化	羊毛繊維の縮絨性を利用してフェルト制作を行い、羊毛製品の洗濯失敗事例としてのフェルト化現象を理解する。
12	羊毛繊維のフェルト化	羊毛繊維の縮絨性を利用してフェルト制作を行い、羊毛製品の洗濯失敗事例としてのフェルト化現象を理解する。
13	漂白剤の性質確認実験	羊毛、絹、綿等の布および白、色柄布に市販の各種漂白剤を作用させて、その変化を観察し、漂白剤の種類と特徴、漂白メカニズム、使い方を理解する。
14	漂白剤の性質確認実験	羊毛、絹、綿等の布および白、色柄布に市販の各種漂白剤を作用させて、その変化を観察し、漂白剤の種類と特徴、漂白メカニズム、使い方を理解する。
15	しみ抜き実験	日常的につけやすいしみを実験的に布に付着させ、各種しみ抜き剤（市販漂白剤）や水、洗剤、溶剤（ドライクリーニング）によるしみ抜きを実験的に実施、効果的なしみ抜き方法を実践的に学ぶ。
16	しみ抜き実験	日常的につけやすいしみを実験的に布に付着させ、各種しみ抜き剤（市販漂白剤）や水、洗剤、溶剤（ドライクリーニング）によるしみ抜きを実験的に実施、効果的なしみ抜き方法を実践的に学ぶ。
17	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。
18	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。
19	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。
20	天然染料による染色実験	絹と木綿のハンカチを試験布として、多種多様な染色方法のうち、天然染料による縫い絞り染を行い、染料、染色方法、染色堅牢度など染色に関する知識や技術を体験的に理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	環境を考えた衣生活	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。
22	環境を考えた衣生活	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。
23	環境を考えた衣生活 (継続)	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。
24	環境を考えた衣生活 (継続)	衣生活分野においても環境負荷低減を考える5R (Reuse, Recycle, Reduction, Repair, Remake) の実践が必要である。そこで、使用後の衣料から布地を調製し、①貝殻のストラップ、②お手玉を制作し、環境意識の醸成を図る。
25	防虫剤の種類と使用方法	市場調査にて各種防虫剤の成分、表示内容を確認し、その使い方を科学的に理解する。また、生活者視点から防虫剤の表示内容や表示方法(文字の大きさ、見やすさ、など)を評価し、生活者の立場で商品の表示提案を考える。
26	防虫剤の種類と使用方法	市場調査にて各種防虫剤の成分、表示内容を確認し、その使い方を科学的に理解する。また、生活者視点から防虫剤の表示内容や表示方法(文字の大きさ、見やすさ、など)を評価し、生活者の立場で商品の表示提案を考える。
27	汗汚れの検出	肌シャツを1~2日間着用し、体内から排泄される汚れのうちタンパク質汚れを検出するニンヒドリンを噴霧し、汚れの付着状態を確認する。
28	汗汚れの検出	肌シャツを1~2日間着用し、体内から排泄される汚れのうちタンパク質汚れを検出するニンヒドリンを噴霧し、汚れの付着状態を確認する。
29	レポートのフィードバック	提出されたレポートの作成方法や実験内容の解釈に関するポイントを指導しながら、全体の総まとめを行う。
30	レポートのフィードバック	提出されたレポートの作成方法や実験内容の解釈に関するポイントを指導しながら、全体の総まとめを行う。

<b>科目名</b>	衣造形学演習		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめていく。また、実習制作を通しより良い衣生活の創成をするために必要なものとは何か考えていく。特に、本時では平面構成（和裁）とは何かという基本理念にふれながら、実習を通してその衣服の機能や形態を考察し、現在ほとんど着用されなくなった和服の存在について理解を深める。更に、これからの衣生活を構築する人材の育成を計るため、確実な技術の修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 和服の基本理念にふれながら、和裁技法を取り入れた基礎縫い制作及び大裁女物単衣長着（浴衣）の制作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な技術の修得を目指す。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①生活の中の衣生活が果たす大きな役割を理解することができたか。 ②平面構成（和服）とは何かを理解することができたか。 ③和服の機能や形態を理解して制作し、その技術を修得することができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	教職（家庭科）履修学生及び上記対象学生。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業に取り組む姿勢）20点 ②途中課題（基礎縫い、袖）20点 ③完成作品（基礎縫い、浴衣）30点 ④課題（レポート、テスト）30点 ①から④の総合評価60点以上で合格となる。	
<b>教科書</b>	被服構成実習（平面構成）担当者作成資料の配布。			
<b>参考書</b>	授業内で随時紹介。			
<b>学生への要望</b>	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え完成できるように心掛けること。			
<b>オフィスタイム</b>	火（Ⅱ、Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）家政学館 4F 被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。			
<b>自学自習</b>	<p>予習：次の実習内容を予習（シラバスの確認）し、専門用語の意味を理解しておくこと（1時間）  復習：新たに習得した技法がどこで使用されているのか調査し、ノートにまとめておくこと（1時間）  ※授業終了時に、次週までの予習、復習について随時提示する。</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演習内容と留意事項(4/7)	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ
2	演習内容と留意事項	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ
3	見本帳製作（技法を学ぶ）(4/14)	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。
4	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。
5	見本帳製作（技法を学ぶ）(4/21)	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。
6	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。
7	大裁女物単衣長着製作(4/28)	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深め伝えていける人材の育成を目指す。
8	大裁女物単衣長着製作	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深め伝えていける人材の育成を目指す。
9	大裁女物単衣長着裁断(5/12)	1) 裁ち方（柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。） a、糸じるし、キズや染むらの確認。b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。
10	大裁女物単衣長着裁断	1) 裁ち方（柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。） a、糸じるし、キズや染むらの確認。b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。
11	製作（背縫い、袖）(5/19)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄合わせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。
12	製作（背縫い、袖）	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄合わせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。
13	製作（袖完成及び提出）(5/26)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。
14	製作（袖完成及び提出）	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）(6/2)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。(内揚げとくりこしとは。) 2) 身頃の印付け 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 3) 肩当て、居敷当たり 折り伏せ縫い方法を学ぶ。
16	製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。(内揚げとくりこしとは。) 2) 身頃の印付け 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 3) 肩当て、居敷当たり 折り伏せ縫い方法を学ぶ。
17	製作（衽印付け及びつけ）(6/9)	1) 肩当て、居敷当て付け 肩当て、居敷当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衽作り 衽の柄合わせをし、上前、下前を決め縫いをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衽の柄合わせ方法をしっかりと身につける。
18	製作（衽印付け及びつけ）	1) 肩当て、居敷当て付け 肩当て、居敷当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衽作り 衽の柄合わせをし、上前、下前を決め縫いをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衽の柄合わせ方法をしっかりと身につける。
19	製作（衽始末・襟付け準備）(6/16)	1) 衽つけ、衽の始末をし、衽製作を学ぶ。 2) 衽つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。
20	製作（衽始末・襟付け準備）	1) 衽つけ、衽の始末をし、衽製作を学ぶ。 2) 衽つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。
21	製作（襟の印付け及びつけ）(6/23)	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）
22	製作（襟の印付け及びつけ）	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）
23	製作（襟の整え、脇縫い）(6/30)	1) 襟先の整え（襟先留めを学ぶ） a、左右の襟先を整える。 b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。
24	製作（襟の整え、脇縫い）	1) 襟先の整え（襟先留めを学ぶ） a、左右の襟先を整える。 b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。
25	製作（脇始末）(7/7)	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。
26	製作（脇始末）	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。
27	製作（裾作り、袖付け）(7/14)	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。
28	製作（裾作り、袖付け）	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。
29	着実習及び評価(7/21)	1) 着実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。
30	着実習及び評価	1) 着実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。

科目名	衣造形学実習 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	後期			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、平面裁断と立体裁断における裁断方法の違いを学び、作品完成の違いについての理解を深める。また、文化式原型、新文化式原型の製図方法を習得することにより、体型変化を理解し、機能にあった快適な着心地の良い作品作り、及び生活空間における衣の重要性を学ぶ。更に、教員養成対策として、立体構成の基本知識を深め、応用能力、多くの技術修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 立体構成と平面構成の違いを理解する。人体の理解を深め、製図方法を学ぶ。ブラウス・女兒服の製作を通し技術の修得及び、快適な衣生活を創造提案できるようにする。</p>			
達成目標	<p>①立体構成（洋裁）とは何かを理解できたか。 ②体の機能や形態を理解できたか。 ③立体構成（洋裁）技術の習得から、衣生活の新たな提案が可能となったか。</p>			
受講資格	特になし。上記対象学生。	成績評価方法	①平常点（授業への取り組みなど）20点 ②途中課題（袖、衿）20点 ③完成作品（ブラウス、女兒服、刺繍）30点 ④課題（レポートやまめテストなど）30点①～④の総合評価60点以上で合格となる。	
教科書	『立体構成（洋裁）』など随時プリント配布。			
参考書	『文化ファッション大系2』文化服装学院、他授業内で随時提示。			
学生への要望	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。			
オフィスタイム	火（Ⅱ、Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。			
自学自習	<p>予習：次の実習内容を予習（シラバスの確認）し、専門用語の意味を理解しておくこと（1時間） 復習：新たに習得した技法がどこで使用されているのか調査し、ノートにまとめること（1時間） ※授業終了時に、次週までの予習、復習について随時提示する。</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習内容と留意事項について(9/15)	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。
3	原型製図—文化式、新文化式—(9/22)	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）
4	原型製図—文化式、新文化式—	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）
5	新文化式原型(9/29)	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ
6	新文化式原型	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ
7	ブラウスパターン作図(10/13)	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ
8	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ
9	ブラウス製作①—基本を学ぶ—(10/20)	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ
10	ブラウス製作①—基本を学ぶ—	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ
11	ブラウス製作②—仮縫い—(10/27)	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟系について b. ぐし縫いについて ※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。
12	ブラウス製作②—仮縫い—	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟系について b. ぐし縫いについて ※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。
13	ブラウス製作③—本縫い—(11/10)	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a. 仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。b. ロックミシン c. 端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）
14	ブラウス製作③—本縫い—	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a. 仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。b. ロックミシン c. 端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー(11/17)	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ
16	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ
17	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー(11/24)	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。
18	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。
19	ブラウス製作⑥ー相互評価ー(12/1)	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出
20	ブラウス製作⑥ー相互評価ー	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出
21	子供服ー子どもの体型を考えるー(12/8)	1) 子ども服について学ぶ 2) 子どもの体型、採寸方法を学ぶ(子どもの体型を理解する) 3) 製図。パターンを決め製図 4) 裁断。縫い代などに注意しながら裁断する 5) 縫製
22	子供服ー子どもの体型を考えるー	1) 子ども服について学ぶ 2) 子どもの体型、採寸方法を学ぶ(子どもの体型を理解する) 3) 製図。パターンを決め製図 4) 裁断。縫い代などに注意しながら裁断する 5) 縫製
23	子供服製作①ーファスナー付けを学ぶー(12/15)	1) 様々なタイプのファスナーの付け方を学び、応用出来るようにする
24	子供服製作①ーファスナー付けを学ぶー	1) 様々なタイプのファスナーの付け方を学び、応用出来るようにする
25	子供服製作②ーポケット付けを学ぶー(12/22)	1) ポケット製作方法を学ぶ。パッチポケット、脇ポケット方法等、数種類の製作方法を修得する。
26	子供服製作②ーポケット付けを学ぶー	1) ポケット製作方法を学ぶ。パッチポケット、脇ポケット方法等、数種類の製作方法を修得する。
27	子供服製作③ー刺繍を学ぶー(1/19)	1) 子供服に刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍糸の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりイメージが変化することを学ぶ。
28	子供服製作③ー刺繍を学ぶー	1) 子供服に刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍糸の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりイメージが変化することを学ぶ。
29	総合評価(1/26)	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。
30	総合評価	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。

<b>科目名</b>	食生活概論		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 専攻科化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合 コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	緻野 信子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。			
<b>達成目標</b>	<p>「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】</p> <p>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。          ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。          ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年	<b>成績評価 方法</b>	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%	
<b>教科書</b>	①指定の資料を各自コピーして持参する。 ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。 ③「はじめてのカラーハンドブック カラー&ライフ」財団法人日本色彩研究所監修 日本色研事業株式会社			
<b>参考書</b>	①授業内で案内する			
<b>学生への要望</b>	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。 3. ノートをしっかりとって下さい。 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日4時限および木曜日5時限目のNo.2食品学研究室			
<b>自学自習</b>	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。
2	消費者庁と食品表示の目的	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して把握していることを理解する。
3	JAS法に基づく食品表示関係の制度	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。
4	食品衛生法による食品表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。
5	健康増進法による食品表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいのは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。
10	日本人の食事摂取基準（2015）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2015年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2015）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイレージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートの関係について、理解する。
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。

科目名	食生活文化論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択
担当教員	緻野 信子			
開講期	前期			
授業概要	日本の伝統的な食文化である「和食」は、縄文人の食べる知恵を原点に、歴史や風土に根ざした「地産地消」や「身土不二」の精神が蓄積されて、現代まで受け継がれてきたものである。この授業では、食の欧米化、ファストフードの進化や、ライフスタイルの変化による食の乱れが拡がる一方で、長寿国の日本人は、何をどのように食べてきたのか、併せて外国の飲酒文化についても学ぶ。			
達成目標	日本の伝統的な食文化および外国の飲酒文化について、社会的背景との関わり方を理解することを目標とすることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年	成績評価 方法	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%	
教科書	「食べもの文化史」永山久夫監修			
参考書	必要に応じて、授業内で適宜紹介する。			
学生への要望	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 教科書は、日本語/ENGLISHの対応です。日本の食文化を外国人にも伝えられるように、積極的に活用してください。 3. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 4. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。			
オフィスタイム	月曜日4時限および木曜日5時限目のNo.2食品学研究室			
自学自習	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目標および導入	本授業の目標と授業の進め方を解説する。さらに、導入として、2012年、日本政府が「日本食文化」をユネスコ無形文化遺産に登録申請した経緯を解説し、日本の食文化を守り未来へ伝承することの必要性を理解する。
2	縄文時代：豊富な素材	この時代は、豊かな山の幸・海の幸に彩られており、野生の動植物を狩猟採集していた。春夏秋冬による1年に1度の「旬」の味を記憶し、五感に頼ることで食材の安全性を判断していたことを理解する。
3	弥生・古墳・飛鳥時代：長寿食	この時代は、水田稲作が本格的に始まったが、稲作度合いによって貧富の差が生じるようになった。「魏志倭人伝」、「後漢書倭伝」、「日本書紀」に記されている古代の長寿食とは何かを理解する。
4	奈良時代：日本食の基礎	この時代は、仏教思想に基づく肉食禁止令により、米と豆、野菜および魚介類中心の日本食の基礎ができた。また、保存食が市場で販売されたり、地方の産物や食料品が平城京のマーケットで販売されていたことを理解する。
5	平安時代：多種多様な味わい	この時代は、飯の周りに4種の調味料を置き、自分の好みの味付けをしたり、一回の食事の中に、“走り、旬、名残り”を盛り込み、食材の美味しさを五感で味わっていた。紫式部や小野小町の食事や、「枕草子」に見る平安の食文化を理解する。
6	鎌倉時代：武士膳	この時代、武士の食事は玄米・梅干・一汁一菜であった。これらが戦場でのパワーの源となった意味を理解するとともに菜西が「喫茶養生記」に記した茶葉の自然治癒力の効果についても理解する。
7	室町・安土桃山時代：兵糧食	この時代、寺家が創り上げた精進料理や武家の本膳料理が、日本料理の原型を確立した。また、戦国時代では、湯漬飯、焼きみそ、陣屋みそなどが、兵糧食として用いられた。戦いに向かう出陣式では、「三献の儀式」の料理で栄養補給を行っていたことを理解する。
8	江戸時代：バラエティーに富んだ食文化	町人の食生活は階層によって差が激しく、“分限に応じた”食を楽しむ文化が成立した。食を楽しむ文化には、荷売屋、屋台、居酒屋、棒手振りなどの飲食店が始まり、「料理物語」や「豆腐百珍」などの料理本も出現したことを理解する。
9	明治・大正時代：牛肉と西洋料理	文明開化とともに、明治新政府は積極的に肉食を推進し、牛鍋屋や洋食屋が登場し外食が進んできた。西洋料理は洋食とよばれ家庭に普及し、さらに「和洋折衷料理」も登場した。また、富国強兵の軍隊食として「集団給食」の食事様式が出現したことも理解する。
10	昭和時代から現代へ：原点回帰・一汁三菜	高度成長に伴い、家庭には電化製品が普及するとともに、家事における調理の簡便化が求められ、インスタント食品の開発も盛んになった。それに伴い、現代人の食文化や健康に、ひずみをもたらしていることから、古来の食事が見直されるようになってきていることを理解する。
11	福島県の甘酒文化	福島県の中通地方のいくつかの地区には、甘酒と密接な関わりを持った生活習慣が見られた。担当者の研究により、甘酒が人々の生活に果たしてきた役割および食生活上の位置づけについて解説し、理解する。
12	ワインと人間生活との関わり	日本以外の国々において、ワインが果たしてきた役割としては、嗜好飲料的役割とは比較にならないほど、宗教的・政治的色合いが濃く、また、健康への効果・効能への役割も見られた。担当者の研究により、ワインが人々の生活に果たしてきた役割および食生活上の位置づけについて解説し、ワインの文化を理解する。
13	ベルギーの文化とベルギービール	ベルギーといえば、日本人にとってはチョコレートやワッフルくらいしか馴染みがないようであるが、ベルギーには古くからの伝統的な手法をかたくなに守って製造されているベルギービールがある。そこで、ベルギービールについて、歴史的・文化的背景を踏まえながら解説し、ベルギーの文化を理解する。
14	メキシコの文化とテキーラ	メキシコといえばサボテンというイメージがあるためか、メキシコを代表とする酒のテキーラはサボテンから造られると誤解されがちである。しかし、テキーラの原料は竜舌蘭であり、先住民の伝統とヨーロッパ技術の融合により誕生した。そこで、テキーラについて、歴史的・文化的背景を踏まえながら解説し、メキシコの文化を理解する。
15	授業の総括	授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、外国の食文化を尊重しながら、日本の食文化を守り未来へ伝承することの必要性を再確認し、理解する。

平成29年度

<b>科目名</b>	食品栄養学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単 位 選択
<b>担当教員</b>	坂野 史明			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	この講義では、健康な生活を送るために重要な栄養学の基礎を学ぶ。 ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とする栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）が、どのような役割を果たしているかを理解するため、各栄養素の消化・吸収、代謝（体内での分解や合成）とその調節機構について学ぶ。			
<b>達成目標</b>	各栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）の消化・吸収とその調節機構を理解する。 各栄養素や水分、電解質の代謝を理解し、それぞれどのような役割を担っているかを理解する。			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 選択	<b>成績評価 方法</b>	確認テスト（50%）および課題（50%）の総合評価	
<b>教科書</b>	なし			
<b>参考書</b>	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一 編、羊土社）・Nブックス 三訂 基礎栄養学（林淳三 監修、建帛社）・栄養科学 イラストレイテッド 生化学（園田勝 編、羊土社）			
<b>学生への要望</b>	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日のI限およびII限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 事後学習：ノートのまとめと復習（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	栄養の概念	栄養の定義、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史、遺伝形質と栄養
2	食物の摂取	空腹感・満腹感、食欲、摂食量の調節、概日リズムと食事のタイミング
3	消化・吸収と栄養素の体内 動態（1）	消化と吸収、管腔内消化、管腔内消化の調節
4	消化・吸収と栄養素の体内 動態（2）	腸消化、吸収、栄養素別の消化・吸収
5	消化・吸収と栄養素の体内 動態（3）	栄養素の吸収経路、食物繊維・難消化性糖質の作用、消化吸収率
6	たんぱく質の栄養（1）	たんぱく質とアミノ酸、食後・食間のたんぱく質・アミノ酸の代謝、アミノ酸の代謝
7	たんぱく質の栄養（2）	体たんぱく質の代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差、たんぱく質栄養状態の評価指標、たんぱく質の栄養価
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路、エネルギー源としての役割、糖質の体内代謝、他の栄養素との関係
9	脂質の栄養（1）	脂質の種類、脂肪酸の種類、脂肪酸の代謝経路
10	脂質の栄養（2）	エネルギー源としての役割、多価不飽和脂肪酸の代謝、脂質の体内輸送、脂肪細胞の役割
11	ビタミンの栄養（1）	ビタミンの種類、脂溶性ビタミン
12	ビタミンの栄養（2）	水溶性ビタミン
13	ミネラルの栄養	ミネラルの種類、骨・歯とミネラル、鉄の機能と貯蔵、酵素とミネラル、生体機能調節とミネラル
14	水・電解質の栄養的意義	生体内の水、水の出納、水分量の調節、脱水と浮腫、電解質と酸塩基平衡
15	エネルギー代謝	食物のエネルギー、エネルギー消費量、臓器別エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定法

平成29年度

科目名	食品衛生学	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修 家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	影山 志保		
開講期	前期		
授業概要	食品衛生が目的とする食生活の安全確保は人の健康の保持・増進のために重要な要件である。食品の原料となる食物は旬の時期があり、穀類などでは次の旬まで保存しながら利用する場合がある。また、食品として加工保存する場合もある。長期保存や輸送過程において、酸化分解や微生物腐敗による毒成分の発生なども知られている。一方、食品加工過程で用いられる食品添加物に関する諸問題もある。また、BSEや環境ホルモン、食品の残留農薬や食品の放射能汚染などの問題についても触れていく。		
達成目標	食品衛生学ではこれらの問題点を明らかにし、食品が原因となる病気が発生しないようにする考え方や技術を学ぶことを達成目標としている。		
受講資格	なし	成績評価 方法	期末試験100点
教科書	①食安全の科学-食生活を脅かす化学物質の生体作用- (三共出版) ②食べ物と健康 食品衛生学 (光生館) ③印刷資料		
参考書	特になし		
学生への要望	食品衛生学の核となる概念はHACCPである。食品の危害分析と食品加工における重要管理点監視方式を理解できるようになる。		
オフィスタイム	金曜 I コマ目からIVコマ目 食品衛生学研究室		
自学自習	授業の前にシラバスに示されている学習内容の予習をしノートを作成すること、授業後は学習内容についてノートまとめを行うことを自学自習とします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	食品衛生学の概要	食品＝栄養素＋毒素（環境汚染物質、食品腐敗微生物生産毒素、残留農薬、食品添加物、天然毒素、食品成分分解物） 健康生活のための栄養素と毒素の接種の仕方が良好な健康生活に与えることから、毒素と栄養素の関係について学ぶ。栄養素は運動エネルギーとして異化作用をうけて、同時に体を維持するために同化作用にも必要である。栄養素を適量を摂取した場合に、その摂取物中に含まれる毒素が中毒量に達することがあれば、体が障害をこうむることになる。また毒素を解毒・排泄するためにエネルギーと栄養素を消耗する。
2	食品衛生学の歴史	日本における食品衛生学の歴史は戦後の食糧事情の改善を目的として法が制定された経緯がある。食品衛生法が制定された戦後から現在にかけての食品衛生上の事件事故について説明し、現在の食品衛生学の意義について考察する。
3	HACCP1	食品の危害分析と食品加工時の重要管理点方式に関する考え方を学ぶ。特にHACCPは対象となるヒトの評価と食品の安全性の組み合わせによって構成されている面を知る。
4	HACCP2	実際のHACCP管理方式のケーススタディから、家庭で実践できる食中毒予防についてHACCP的アプローチから考える。
5	細菌性食中毒1	黄色ブドウ球菌、サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、ボツリヌス菌、ウエルシュ菌、セレウス菌、エルニシヤ、エンテロコリチカ、カンピロバクター、ナグビブリオについて説明する。
6	細菌性食中毒2	食品管理における細菌性食中毒対策について考える。
7	天然有害物質と化学的食中毒	食中毒事件は少ないが死者が多い天然毒（ふぐ毒、貝毒、きのこ毒等）について資料を基に考える。本来、植物性の食物には毒性物質が多く存在し、ヒトが主食として改良した植物には苦みや渋みがない。例えば、野生の山菜やキノコ、豆やフグなどには毒性成分が多く存在する。また、植物の病原菌に対する防御機構の中で、感染した後新たに植物体内で生合成される殺菌物質ファイトアレキシンを含有する場合がある。
8	カビ毒1	カビが生産する人畜毒性物質であるマイコトキシンの特徴と問題点について考える。マイコトキシンによる食中毒は食品の微生物汚染が原因となる食中毒ではあるが、細菌性食中毒とは異なる。カビ毒は私たちの主食となる穀類汚染で多く、60℃から100℃程度の加熱では菌は死滅しても毒素は分解変性しないばかりか、変異原性や発がん性を及ぼす。
9	カビ毒2	カビが生産する人畜毒性物質であるマイコトキシンの特徴と問題点について考える。マイコトキシンによる食中毒は食品の微生物汚染が原因となる食中毒ではあるが、細菌性食中毒とは異なる。カビ毒は私たちの主食となる穀類汚染で多く、60℃から100℃程度の加熱では菌は死滅しても毒素は分解変性しないばかりか、変異原性や発がん性を及ぼす。
10	食品残留性農薬1	食品残留性農薬、農薬の食品への移行・濃縮、ポストハーベスト農薬、無登録農薬、ポジティブ検査などについても学び、一日許容摂取量（ADI）についても知る。
11	食品残留性農薬2	食品残留性農薬、農薬の食品への移行・濃縮、ポストハーベスト農薬、無登録農薬、ポジティブ検査などについても学び、一日許容摂取量（ADI）についても知る。
12	食品添加物1	食品添加物の概要、食品保存に関する添加物（保存料・殺菌料・殺虫剤）と食品保存に重要な食品添加物について学ぶ。ADIやマーケットバスケット方式による食品添加物摂取量について考える。
13	食品添加物2	食品加工に関する添加物（着色料・発色剤・漂白剤・甘味料）、食品の栄養価値を強化する添加物について学ぶ。これらの添加物は食品の劣化防止とは異なった観点から用いられている添加物ではあるが、毒物・発がん性の疑いがある物質が含まれている。
14	牛海綿状脳症	疾病罹患畜肉として食生活に不安をもたらす牛海綿状脳症について、背景、原理、現状を説明し、これらの食品の安全性について考察する。
15	遺伝子組み換え食品	細菌による殺虫タンパク質のDNAを作物の遺伝子組み込んだ遺伝子操作作物について、これらの原理と人体毒性に関する問題点と対策法、遺伝子操作作物使用の表示義務について説明する。

平成29年度

<b>科目名</b>	加工食品学	<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	郡司 尚子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的、ねらい〕 現代の食生活は加工食品の占める割合が高く、加工食品抜きには成り立たないといっても過言ではない。豊かな食生活を送るためには、個人の価値観に合った加工食品を利用することが大切となる。そのため、加工食品学では、食品の加工・利用方法・特徴などについて学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 食品の保存方法について学び、植物性、動物性などの食品の種類、加工品について学ぶ。さらに、食品の表示や特別用途食品、保健機能食品について学ぶ。</p>		
<b>達成目標</b>	食品の加工に関わる「食品と微生物」「食品の保存法」「各食品の加工品」「機能性食品」などを理解することで、食品や食材を購入する際に、用途に合わせた食品を用いることができる技術を養えることを達成目標とする。		
<b>受講資格</b>	特になし。	<b>成績評価 方法</b>	定期試験(85%)・平常点(15%)で評価する。
<b>教科書</b>	食品加工と栄養(三共出版)・必要に応じてプリントを配布する。		
<b>参考書</b>	特になし。		
<b>学生への要望</b>	食品に興味を持ってもらい、買い物時にも表示内容などをよく見ておくことが望ましい。わからないことは積極的に質問すること。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日の4～5コマ(No.3 食品学研究室)		
<b>自学自習</b>	<p>予習：事前に次回の授業範囲の教科書をよく読み、疑問点やわからない点などをノートに書きだしておく。(1時間) 復習：授業を受講し、予習でノートに記しておいた疑問点などの答えをノートに記載しておく。(1時間)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、受講上の注意点、教科書、評価方法などについて理解する。また加工食品学で取り上げる授業内容について説明する。さらに加工食品とはどのようなものがあるか紹介する。
2	食品加工の目的	食生活において、食品を加工する目的・役割について学び、加工食品の特性を理解する。
3	食品の保存方法Ⅰ	食品の保存に大きく影響する微生物とのかかわりについて学び、食品の保存が環境により影響を受けることを理解する。
4	食品の保存方法Ⅱ	水分活性について学び、水分活性のコントロールと微生物の繁殖への影響を理解する。
5	植物性食品の加工Ⅰ	穀類、いも類の特徴並びに加工特性について学ぶ。また、これらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
6	植物性食品の加工Ⅱ	豆類、種実類、野菜類の特徴並びに加工特性について学ぶ。また、これらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
7	植物性食品の加工Ⅲ	野菜類、果実類、きのこ類、藻類の特徴並びに加工特性について学ぶ。また、これらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
8	動物性食品の加工Ⅰ	食肉の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
9	動物性食品の加工Ⅱ	乳製品の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
10	動物性食品の加工Ⅲ	卵類の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
11	畜産食品の加工Ⅳ	魚介類の特徴並びに加工特性について学ぶ。またこれらの代表的な加工食品の特徴について理解する。
12	食品の表示	食品の表示に関する問題、法令、規格基準について理解する。
13	特別用途食品・保健機能食品Ⅰ	特別用途食品と保健機能食品の概念、法令、分類、代表する食品例などについて理解する。
14	特別用途食品・保健機能食品Ⅱ	特別用途食品と保健機能食品の概念、法令、分類、代表する食品例などについて理解する。
15	まとめ	これまでの授業のポイントを確認した後、定期試験の出題範囲を説明する。

<b>科目名</b>	食品・栄養学実験	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	郡司 尚子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的、ねらい〕 ヒトは従属生物であり、食物を摂取することによって成長し、生命活動を維持することができる。そこで、食品に含まれる栄養素の化学的性質について実験を行い、栄養学・食品学の知識を深め、健康な食生活を送るための基礎知識を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 一般成分の性質を知り、さらには成分や食品の分析方法を学ぶ。また、油脂の劣化度を求める方法を知る。</p>		
<b>達成目標</b>	日本食品標準成分表に記載されている成分を求める方法を理解することで、成分表の意味を知ることができる。また、油脂の劣化度の判定方法を学ぶことにより、普段使用している油の扱いなどを理解する。		
<b>受講資格</b>	特になし。	<b>成績評価 方法</b>	①実験記録（レポート） 50点 ②実験結果、考察発表 20点 ③平常点 30点
<b>教科書</b>	資料を配布するので、特定の教科書は使用しない。		
<b>参考書</b>	食品学実験（中川延二 菊崎 泰枝 編：光生館） 日本食品標準成分表2015年版（七訂）		
<b>学生への要望</b>	<p>実験では、劇薬、引火性有機溶剤を使用するので、安全に十分気をつけること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 服装・・・白衣を着用すること。くつは動きやすいもの。</li> <li>2. 遅刻しないこと・・・毎回、実験の初めに実験の内容を説明し、どのような危険が予測されるかを説明するため。</li> <li>3. 実験ノートの記録 実験ノートは、大切な記録であるので、毎回実験終了後ただちにまとめる。</li> </ol>		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日・金曜日 5コマ(No.3食品学研究室)		
<b>自学自習</b>	<p>予習：前の週に次週の実験プリントを配布するので、よく読み、疑問点があればノートに書きだしておくこと。(30分)</p> <p>復習：実際に実験を行った目的・方法・結果・考察についてレポート作成を行う。(1時間半)</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業内容の説明と実験を行う心構え	実験の概要および実験を行うに当たっての心構えについて説明する。とくに、本実験では引火性の高い有機溶剤や、酸塩基をはじめとする劇薬を使用するので、安全に行うための配慮、実験器具の取扱い方法、実験ノートの作成方法等について、詳細に説明する。
2	授業内容の説明と実験を行う心構え	実験の概要および実験を行うに当たっての心構えについて説明する。とくに、本実験では引火性の高い有機溶剤や、酸塩基をはじめとする劇薬を使用するので、安全に行うための配慮、実験器具の取扱い方法、実験ノートの作成方法等について、詳細に説明する。
3	炭水化物の検出①	単糖類・二糖類・多糖類の定性的な検出法（モーリッシュ反応・フェーリング反応・セリワノフ反応・パフォード反応・銀鏡反応など）について学び、糖類全般の化学的性質について理解する。
4	炭水化物の検出①	単糖類・二糖類・多糖類の定性的な検出法（モーリッシュ反応・フェーリング反応・セリワノフ反応・パフォード反応・銀鏡反応など）について学び、糖類全般の化学的性質について理解する。
5	炭水化物の検出②	炭水化物に関する実験：前週に学んだ糖の検出方法を使って、未知糖の検出を行うことで、糖類全般の化学的性質についてまとめを行う。
6	炭水化物の検出②	炭水化物に関する実験：前週に学んだ糖の検出方法を使って、未知糖の検出を行うことで、糖類全般の化学的性質についてまとめを行う。
7	炭水化物の検出③	食品中の主要な糖質であるデンプンの存在をヨウ素反応により確認し、食品中のデンプンの分離と加水分解、デンプン粒子の顕微鏡観察を行い、デンプンの性質を調べる。
8	炭水化物の検出③	食品中の主要な糖質であるデンプンの存在をヨウ素反応により確認し、食品中のデンプンの分離と加水分解、デンプン粒子の顕微鏡観察を行い、デンプンの性質を調べる。
9	たんぱく質の検出①	たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウィッツ反応、硫化鉛反応)などを行う。
10	たんぱく質の検出①	たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウィッツ反応、硫化鉛反応)などを行う。
11	たんぱく質の検出②	たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウィッツ反応、硫化鉛反応)などを行う。
12	たんぱく質の検出②	たんぱく質の基本的性質を知るために、組成元素の検出、呈色反応、凝固沈殿反応(ビウレット反応、ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、アダムキーウィッツ反応、硫化鉛反応)などを行う。
13	食品の成分分析①	【食品の分析方法の説明と予備実験の開始】食品の分析方法について学んだ後、実際に食品成分分析を行う。分析試料には凍豆腐を用い、水分、タンパク質、脂質、灰分の分析を行い、炭水化物は差し引き計算で求める。これらの実験を通じて、秤量概念などを学ぶ。
14	食品の成分分析①	【食品の分析方法の説明と予備実験の開始】食品の分析方法について学んだ後、実際に食品成分分析を行う。分析試料には凍豆腐を用い、水分、タンパク質、脂質、灰分の分析を行い、炭水化物は差し引き計算で求める。これらの実験を通じて、秤量概念などを学ぶ。
15	食品の一般成分の分析②	①水分の定量(105℃の常圧加熱乾燥法を利用し、凍豆腐の水分を定量する) ②脂質の定量(ソックスレーのエーテル抽出法により、凍豆腐の脂質を定量する) ③たんぱく質の定量(セミマイクロケルダール法により、凍豆腐のタンパク質を定量する)
16	食品の一般成分の分析②	①水分の定量(105℃の常圧加熱乾燥法を利用し、凍豆腐の水分を定量する) ②脂質の定量(ソックスレーのエーテル抽出法により、凍豆腐の脂質を定量する) ③たんぱく質の定量(セミマイクロケルダール法により、凍豆腐のタンパク質を定量する)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	食品の成分分析③	④灰分の定量(550℃直接灰化法により、凍豆腐の灰分量を測定する) ⑤炭水化物量を求める(差し引き計算法により凍豆腐の炭水化物量を求める)。 日本食品標準成分表について説明を行い、実際に今回求めた凍豆腐結果を、日本食品標準成分表の値と比較し、なぜ同じ値にならないかなど、成分表の使い方について解説を行う。
18	食品の成分分析③	④灰分の定量(550℃直接灰化法により、凍豆腐の灰分量を測定する) ⑤炭水化物量を求める(差し引き計算法により凍豆腐の炭水化物量を求める)。 日本食品標準成分表について説明を行い、実際に今回求めた凍豆腐結果を、日本食品標準成分表の値と比較し、なぜ同じ値にならないかなど、成分表の使い方について解説を行う。
19	牛乳の成分分析	市販されている牛乳を各班で持ち寄ってもらい、その牛乳の酸度、比重、脂肪含量を調べ、市販牛乳の成分と価格の関連を考察する。最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。
20	牛乳の成分分析	市販されている牛乳を各班で持ち寄ってもらい、その牛乳の酸度、比重、脂肪含量を調べ、市販牛乳の成分と価格の関連を考察する。最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。
21	食塩の定量	市販されているみそ、しょう油または手作りのみそを持参してもらい、原子吸光法により、ナトリウム量から塩分量を調べる。また、各家庭の味噌汁を持参してもらい、簡易塩分測定器にて、食塩濃度を調べる。最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。
22	食塩の定量	市販されているみそ、しょう油または手作りのみそを持参してもらい、原子吸光法により、ナトリウム量から塩分量を調べる。また、各家庭の味噌汁を持参してもらい、簡易塩分測定器にて、食塩濃度を調べる。最後に各班の実験結果をまとめ、比較し考察する。
23	油脂の劣化と実験の説明	油脂の劣化について説明した後、次週より行う油脂の実験方法について説明を行う。
24	油脂の劣化と実験の説明	油脂の劣化について説明した後、次週より行う油脂の実験方法について説明を行う。
25	油脂の実験①	家庭やお店などで使用された揚げ油を各班で持参してもらい、油脂の劣化度を比較検討する。 ①脂肪酸組成の分析(各班で持参した油脂の脂肪酸組成を分析する) ②アニンジン値の分析
26	油脂の実験①	家庭やお店などで使用された揚げ油を各班で持参してもらい、油脂の劣化度を比較検討する。 ①脂肪酸組成の分析(各班で持参した油脂の脂肪酸組成を分析する) ②アニンジン値の分析
27	油脂の実験②	③酸価の分析 ④過酸化価の分析 前週の結果と今週の結果を各班でまとめ、各班で持参した油脂の劣化状況について考察を行う。
28	油脂の実験②	③酸価の分析 ④過酸化価の分析 前週の結果と今週の結果を各班でまとめ、各班で持参した油脂の劣化状況について考察を行う。
29	実験のまとめ	授業で行った実験の総括と解説を行い、食品に含まれる栄養素、さらに栄養学・食品学の知識を深める。
30	実験のまとめ	授業で行った実験の総括と解説を行い、食品に含まれる栄養素、さらに栄養学・食品学の知識を深める。

平成29年度

<b>科目名</b>	調理学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	緻野 信子			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	人が食事をする行為とは、自然の産物を加工・調理して、生命を維持するのに必要な栄養分を補うためのものだけでなく、作法に則って食べ物を口にするという文化的行為を伴わなければならない。調理学は複合領域の学問であるため、調理過程でおこるさまざまな現象を科学的に解明しながら、調理技術を学ぶことも要求されるが、本講義では、食生活の実践に役立つための理論や考え方を、食べる人の要求を満たす心配りや文化的側面から調理学を学ぶ。			
<b>達成目標</b>	食生活の実践に役立つための理論や考え方を、食べる人の要求を満たす心配りや文化的側面から調理学を学ぶことで、人が食事に期待する真の目的を理解することを目標とする。			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2年	<b>成績評価 方法</b>	①ノートまとめ50% ②期末試験50%	
<b>教科書</b>	「食べもの文化史」：永山久夫監修、(株)優しい食卓 (2,500円)			
<b>参考書</b>	授業内で案内する。			
<b>学生への要望</b>	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 3. 調理学を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日2時限および木曜日5時限のNo.2食品学研究室			
<b>自学自習</b>	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目的	授業の目的および進め方を説明する。本講義では、食生活の実践に役立つための「調理学」として、食事の歴史、食卓のコーディネート、食卓のサービスとマナーおよび料理様式から、その理論や考え方について学ぶことを目標とすることを理解する。
2	日本の食事の歴史①	食生活の諸問題を広い視野に立って考え、解決できる力を養うために、日本人の食生活の歴史的な成り立ちを通して、食事とは文化的、社会的に大きな役割を担うものである。ここでは、縄文時代、弥生時代、大和・奈良時代、平安時代の調理技術の変遷について学び、理解する。
3	日本の食事の歴史②	ここでは、第2回の継続として、鎌倉時代、室町時代、安土・桃山時代、江戸時代の調理技術の変遷について学び、理解する。
4	日本の食事の歴史③	ここでは、第3回の継続として、明治・大正時代、昭和から現在までの調理技術の変遷について学び、理解する。
5	外国の食事	外国の食事は、気候条件、政治・経済・宗教的背景、食習慣などにより、長い歴史の中で次第に形成されてきた。ここでは、外国の主食や料理について学び、理解する。
6	日本料理の食卓のコーディネート	食器・食具の形や大きさ、材質などは多種多様であり、各料理様式の特徴に配慮して使い分けることが求められる。また、食器・食具の配置は国によってルールがある。ここでは、日本料理の食器・食具について特徴を捉えるとともに、テーブルセッティングの基本ルールを学び、理解する。
7	中国料理の食卓のコーディネート	ここでは、第6回の継続として、中国料理の食器・食具について特徴を捉えるとともに、テーブルセッティングの基本ルールを学び、理解する。
8	西洋料理の食卓のコーディネート	ここでは、第7回の継続として、西洋料理の食器・食具について特徴を捉えるとともに、テーブルセッティングの基本ルールを学び、理解する。
9	日本料理のサービスとマナー	食事という行為には、提供する側と提供される側がお互いの立場を理解する相互関係により実現する。ここでは、日本料理のサービスとマナーの特徴と技法を理解するために、酒席向き会席料理について学び、理解する。
10	中国料理のサービスとマナー	ここでは、中国料理のサービスとマナーの特徴と技法を理解するために、供応形式の料理について学び、理解する。
11	西洋料理のサービスとマナー	ここでは、西洋料理のサービスとマナーの特徴と技法を理解するために、ディナーとブッフェの形式およびワインについて学び理解する。
12	日本料理様式	日本の料理様式の献立は、貴族社会、武家社会の上流の食事様式が発展したものである。ここでは、本膳料理、懐石料理、会席料理、精進料理、卓袱料理、普茶料理について学び、理解する。
13	中国料理様式	中国の料理様式は、広大な国土において、異なる気候風土・歴史・文化から生まれた。ここでは、中国料理様式の献立の流れ、飲茶メニューについて学び、理解する。
14	西洋料理様式	わが国では、欧米料理を総称して西洋料理と呼んでいる。ここでは、フランス料理様式およびイタリア料理様式の正餐の基本構成、ブッフェの献立形式を学び、理解する。
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「調理学」とは、食べる人の要求を満たすための心配りや文化的側面を考慮して食事を提供することであることを再確認する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。

科目名	調理学演習		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子			
開講期	前期			
授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、高校家庭科教科書で採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した世界各国の代表的な料理をグループワークで演習する。15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識と技術の修得と共に食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解する。また、レポートを作成することにより、演習・実習の観察力と科学的レポート作成の基本を身につける。			
達成目標	中高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。 ①代表的な野菜・果物、魚・肉などの食材に対する調理方法の技術を修得し、指導することができる。 ②代表的な和洋中華料理の基本を修得し、教えることができる。 ③調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点	
教科書	プリント配布			
参考書	No. 2被服学研究所蔵図書			
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団楽を営む基礎となることを理解し、自宅での実践（復習）を実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			
自学自習	事前学習：予定のレシピに使用されている食材や調理内容について市場調査や文献調査をすること（1時間）。 事後学習：レポート作成すること、実習した調理を一度は自宅で実習すること（1時間）。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ、切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。 授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での実践が重要であることを理解する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）を映像を通して学ぶ。
2	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ、切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。 授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での実践が重要であることを理解する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）を映像を通して学ぶ。
3	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方と洗いの基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
4	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方と洗いの基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
5	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
6	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
7	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーという代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイオンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング
8	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーという代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイオンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	日本料理 旬の素材のたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめの味噌汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理法 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干出しの取りかた、味噌の種類と味噌汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤和風菓子の代表であるカステラのつくり方
10	日本料理 旬の素材のたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめの味噌汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理法 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干出しの取りかた、味噌の種類と味噌汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤和風菓子の代表であるカステラのつくり方
11	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆腐、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
12	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆腐、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
13	イタリア料理 日本で食される代表的なイタリア料理	ペネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方
14	イタリア料理 日本で食される代表的なイタリア料理	ペネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方
15	調理理論： 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方の実習と食中毒防止の基本について理解する。 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と防止法
16	調理理論： 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方の実習と食中毒防止の基本について理解する。 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と防止法
17	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルゴギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルパブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
18	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルゴギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルパブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
19	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
20	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
21	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的なデザートのつくり方

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープの作り方 ④中国の代表的なデザート（デザート）の作り方
23	日本料理 いわしの手開きと調理	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒の作り方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と調理方法 ②卵の花の炒り煮の作り方 ③寒天の使い方
24	日本料理 いわしの手開きと調理	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒の作り方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と調理方法 ②卵の花の炒り煮の作り方 ③寒天の使い方
25	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮（ラタトゥユ）、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチの作り方
26	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮（ラタトゥユ）、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチの作り方
27	自由課題（米料理）	米料理をテーマとした夕食献立を実習する。 予算（350円/人）内で献立を作成し、材料の購入から調理までをグループで実施し、実践力を身につける。
28	自由課題（米料理）	米料理をテーマとした夕食献立を実習する。 予算（350円/人）内で献立を作成し、材料の購入から調理までをグループで実施し、実践力を身につける。
29	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せとして野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）の作り方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理の仕方 ②野菜の天ぷら（かきあげ）の作り方 ③和菓子（ずんだ）の作り方
30	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せとして野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）の作り方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理の仕方 ②野菜の天ぷら（かきあげ）の作り方 ③和菓子（ずんだ）の作り方

<b>科目名</b>	調理学実習		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活 学科生活総合コース 3年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	前期に引き続き、スローフード視点から世界各国の代表的な 料理レシピ実習を体験し、調理に関する基本的な知識や技術をより一層 深める。			
<b>達成目標</b>	①食材の栄養価、色・形・味と調理の関係、盛り方を配慮できる。 ②グルーワークによる実習を通じてお互いを理解・尊重でき、協力することの大切さを学ぶ。 ③科学的視点でのレポートを作成できる。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点	
<b>教科書</b>	印刷物配布			
<b>参考書</b>	調理学各種教科書や料理に関する書籍：N02被服学研究所の所蔵図書			
<b>学生への要望</b>	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日のレシピで使う食材、調理方法などを確認し、不明点は調べておく（1時間）。 事後学習：実習内容をレポートにまとめる（1時間）。 また、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深め、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となる ことを理解する。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス／ランチの楽しみ方を学ぶ	1. 前期実習内容の反省、後期の授業内容の説明を実施する。 （授業の取組み姿勢、調理技術、清潔・衛生・安全） 2. ランチを楽しむ。 ①パンケーキ ②ヘルシー蒸し料理
2	ガイダンス／ランチの楽しみ方を学ぶ	1. 前期実習内容の反省、後期の授業内容の説明を実施する。 （授業の取組み姿勢、調理技術、清潔・衛生・安全） 2. ランチを楽しむ。 ①パンケーキ ②ヘルシー蒸し料理
3	日本料理 季節の素材（さんま）を 使った料理	さんまの蒲焼丼、ちぎりこんにやくとししとうの炒め煮、けんちん汁、大学イモ ①さんまのおろし方 ②丼物のつくり方 ③こんにやくの下処理と料理方法 ④さつまいもでスイーツ
4	日本料理 季節の素材（さんま）を 使った料理	さんまの蒲焼丼、ちぎりこんにやくとししとうの炒め煮、けんちん汁、大学イモ ①さんまのおろし方 ②丼物のつくり方 ③こんにやくの下処理と料理方法 ④さつまいもでスイーツ
5	中国料理 中国の地域性と料理の違い を理解する	北京酢豚、ナスの味噌炒め煮、ほうれんそうと肉団子のスープ、中華花パイ、ご飯 ①通常食する酢豚と異なる北京酢豚 ②中国料理の調味料の使い方と料理法 ③手作り肉団子のつくり方と春雨入り代表的な中国のスープ ④中国料理のスイーツ、花パイ
6	中国料理 中国の地域性と料理の違い を理解する	北京酢豚、ナスの味噌炒め煮、ほうれんそうと肉団子のスープ、中華花パイ、ご飯 ①通常食する酢豚と異なる北京酢豚 ②中国料理の調味料の使い方と料理法 ③手作り肉団子のつくり方と春雨入り代表的な中国のスープ ④中国料理のスイーツ、花パイ
7	日本料理 旬の素材を活かす代表的な 料理	くり炊きこわ飯、茶わん蒸し、小松菜・しめじ・菊はなのゆず浸し、豆腐となめこのみそ汁、ふわっとドーナツ ①旬の素材（栗、銀杏、菊花、しめじ）の活用方法 ②こわ飯の炊き方 ③茶わん蒸しの基本
8	日本料理 旬の素材を活かす代表的な 料理	くり炊きこわ飯、茶わん蒸し、小松菜・しめじ・菊はなのゆず浸し、豆腐となめこのみそ汁、ふわっとドーナツ ①旬の素材（栗、銀杏、菊花、しめじ）の活用方法 ②こわ飯の炊き方 ③茶わん蒸しの基本

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	イタリア料理	きのこのフェデリーニ、ミネストローネ、ムサカ、ビスコッティー ①パスタの種類と調理方法 ②イタリアンビスケット、ビスコッティーの作り方 ③オープン料理ムサカの作り方
10	イタリア料理	きのこのフェデリーニ、ミネストローネ、ムサカ、ビスコッティー ①パスタの種類と調理方法 ②イタリアンビスケット、ビスコッティーの作り方 ③オープン料理ムサカの作り方
11	ロシア料理 代表的な料理	ビーフストラガノフ、シチューのつぼ焼き、ロシア風野菜サラダ、アップルケーキ、ロシアンティー ①ロシア料理を経験する。 ②肉の代表的なロシア料理であるビーフストラガノフの作り方 ③旬の野菜を使ったロシア風サラダの作り方
12	ロシア料理 代表的な料理	ビーフストラガノフ、シチューのつぼ焼き、ロシア風野菜サラダ、アップルケーキ、ロシアンティー ①ロシア料理を経験する。 ②肉の代表的なロシア料理であるビーフストラガノフの作り方 ③旬の野菜を使ったロシア風サラダの作り方
13	日本料理 季節の素材（鯖）料理	さばの味噌煮、白和え、豚汁、蒸しまんじゅう、ご飯 ①鯖のおろし方と代表的な煮物 ②代表的な日本料理（白和え、蒸しまんじゅう）の作り方 ③通常の豚汁とは異なる豚汁
14	日本料理 季節の素材（鯖）料理	さばの味噌煮、白和え、豚汁、蒸しまんじゅう、ご飯 ①鯖のおろし方と代表的な煮物 ②代表的な日本料理（白和え、蒸しまんじゅう）の作り方 ③通常の豚汁とは異なる豚汁
15	パーティ料理	ミートローフ、キャロットグラッセ、ホワイトシチュー、大根サラダ、スノーボールクッキー ①ホワイトソースの作り方 ②野菜の切り方（シャトー型、せん切り） ③スノーボールクッキーの作り方 ④盛り合わせの工夫
16	パーティ料理	ミートローフ、キャロットグラッセ、ホワイトシチュー、大根サラダ、スノーボールクッキー ①ホワイトソースの作り方 ②野菜の切り方（シャトー型、せん切り） ③スノーボールクッキーの作り方 ④盛り合わせの工夫
17	韓国料理 代表的な韓国料理	ビビンバ、ジャガイモのみそ汁、チヂミ、花餅 ①ヤンニョムの種類と使い方 ②代表的な韓国料理の作り方（ビビンバ、チヂミ） ③代表的なスイーツ花餅の作り方
18	韓国料理 代表的な韓国料理	ビビンバ、ジャガイモのみそ汁、チヂミ、花餅 ①ヤンニョムの種類と使い方 ②代表的な韓国料理の作り方（ビビンバ、チヂミ） ③代表的なスイーツ花餅の作り方
19	自由課題 （テーマ：家族の記念日）	「家族の祈念日」をテーマとした献立を考える。 予算（350円/人）内で献立を作成、材料の購入から調理までをグループで実施、実践力を身につける。
20	自由課題 （テーマ：家族の記念日）	「家族の祈念日」をテーマとした献立を考える。 予算（350円/人）内で献立を作成、材料の購入から調理までをグループで実施、実践力を身につける。
21	クリスマス料理	ローストチキン、じゃがいもとベーコンのグラタン、カナッペ、クリスマスフルーツケーキ、パン ①家庭でできる簡単なローストチキンの作り方 ②簡単でおいしいグラタンの作り方 ③カナッペの種類と作り方 ④フルーツケーキの作り方
22	クリスマス料理	ローストチキン、じゃがいもとベーコンのグラタン、カナッペ、クリスマスフルーツケーキ、パン ①家庭でできる簡単なローストチキンの作り方 ②簡単でおいしいグラタンの作り方 ③カナッペの種類と作り方 ④フルーツケーキの作り方
23	日本料理 伝統料理「おせち料理」	おせち料理 一の重（祝い肴：田作り、数の子、黒豆） 二の重（栗きんとん、松風のしどり、ゆず釜） 三の重（煮物：いりどり）、スイーツとしてリンゴ寒 ①おせち料理の起源や料理の意味、正月のしきたり等も理解を深める ②代表的なおせち料理の作り方 ③盛り付け方

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
24	日本料理 伝統料理「おせち料理」	おせち料理 一の重（祝い肴：田作り、数の子、黒豆） 二の重（栗きんとん、松風ののしどり、ゆず釜） 三の重（煮物：いりどり）、スイーツとしてリンゴ寒 ①おせち料理の起源や料理の意味、正月のしきたり等も理解を深める ②代表的なおせち料理の作り方 ③盛り付け方
25	日本料理 伝統料理「おせち料理」	おせち料理 一の重（祝い肴：田作り、数の子、黒豆） 二の重（栗きんとん、松風ののしどり、ゆず釜） 三の重（煮物：いりどり）、スイーツとしてリンゴ寒 ①おせち料理の起源や料理の意味、正月のしきたり等も理解を深める ②代表的なおせち料理の作り方 ③盛り付け方
26	日本料理 伝統料理「おせち料理」	おせち料理 一の重（祝い肴：田作り、数の子、黒豆） 二の重（栗きんとん、松風ののしどり、ゆず釜） 三の重（煮物：いりどり）、スイーツとしてリンゴ寒 ①おせち料理の起源や料理の意味、正月のしきたり等も理解を深める ②代表的なおせち料理の作り方 ③盛り付け方
27	代表的なチョコレートスイーツの作り方	チョコレートケーキ、生チョコレート ①チョコレートの起源と種類を知る。 ②代表的なチョコレートを用いたスイーツの作り方
28	代表的なチョコレートスイーツの作り方	チョコレートケーキ、生チョコレート ①チョコレートの起源と種類を知る。 ②代表的なチョコレートを用いたスイーツの作り方
29	卒業研究発表会出席	3年生後期であり、次年度の卒研発表の参考とする。
30	卒業研究発表会出席	3年生後期であり、次年度の卒研発表の参考とする。

平成29年度

<b>科目名</b>	住生活概論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。			
<b>達成目標</b>	①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科	<b>成績評価 方法</b>	①定期試験70% ②提出図面30%	
<b>教科書</b>	私たちの住居学—サステナブル社会の住まいと暮らし			
<b>参考書</b>	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ガ・インク・キッチンはどうして誕生した」技報堂出版			
<b>学生への要望</b>	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)			
<b>自学自習</b>	予習：住まいにおける問題について常に興味関心を持ち、問題点を把握する(1時間)。 復習：問題解決に向けての方策を考える(1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明します。次に、身近な福島の住宅デザインの変遷について学び、建築デザインが決定する要素を考える。

平成29年度

<b>科目名</b>	福祉住環境	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	医療や福祉、建築について体系的で幅広い知識と専門能力を身に付け、高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案する能力を養		
<b>達成目標</b>	クライアントに適切な住宅改修プランを提示することができる能力と福祉用具や諸施策情報などについても助言できるような知識身に		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①期末試験80% ②確認テスト20%
<b>教科書</b>	福祉住環境コーディネーター新版公式テキスト		
<b>参考書</b>	その都度、提示する。		
<b>学生への要望</b>	予習・復習をして授業に臨むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限（14：30～16：00） 水曜IV時限（14：30～16：00）		
<b>自学自習</b>	予習：日頃から住環境に目を向け、問題点を把握する（1時間）。 復習：住環境の問題について解決策を導き出し、住みやすい住環境を考える（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容の説明。 福祉住環境コーディネーターの役割について。 住環境整備の留意点。
2	高齢者・障害者を取り巻く環境 1	総人口や世帯数、高齢化率の推移等を把握する。また、改正介護保険制度に関する内容を改正点も踏まえつつ具体的なサービスの種類などについて学ぶ。さらに住宅施策の変遷や具体的な住宅施策についても世代別に名称や内容を理解する。
3	高齢者・障害者を取り巻く環境 2	障害別の障害者数や在宅・施設の割合、身体障害者のバリアフリー化の状況について把握する。また、障害者自立支援法にもとづくサービスの概要について理解し、障害者向け住宅施策の変遷の概要と建設行政と福祉行政のおおまかな流れについて学ぶ。
4	障害の定義・捉え方と自立支援 1	障害の捉え方・リハビリテーションと自立支援について学ぶ。特に、リハビリテーションのあり方をはじめ、地域ケア、地域リハビリテーションの必要性について理解する。
5	障害の定義・捉え方と自立支援 2	高齢者や障害者の身体的、精神的特性、心理的特性について理解する。
6	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備 1	運動機能や記憶力、知能などが加齢とともにどのように変化するのかを理解する。
7	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備 2	高齢者の疾患について学ぶ。 また、要介護状態の要因といわれる脳血管障害や廃用症候群、認知症などについて、よく理解する。
8	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備 3	肢体不自由の脊椎損傷、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害について学び、各障害別の不便・不自由を理解することで、住環境整備の留意点を理解する。
9	在宅での福祉用具の活用	福祉用具の定義をはじめ、福祉用具の選択や適応における基本姿勢について学ぶ。また、各用具の目的、構造、種類を学び、住宅改修と福祉用具を併用することでより快適な住環境を実現できることを理解する。
10	相談援助と福祉住環境整備	相談援助の基本的な考え方を踏まえ、より実践的な福祉住環境整備相談の進め方について学ぶ。
11	福祉住環境整備の技術と実践 1	福祉用具を活用しながら体験学習を行い、住環境整備を実現するための知識を養う。
12	福祉住環境整備の技術と実践 2	段差解消の手法や建具や把手の種類、スペースの配慮など、住環境整備の基本技術を理解する。
13	福祉住環境整備の技術と実践 3	外出から就寝までに関わる住環境整備について学ぶ。動作別にどのような配慮が必要となるのか、住環境整備の視点から考察する。
14	福祉住環境整備の技術と実践 4	排泄や入浴動作などに関連する水回りの住環境整備について学ぶ。
15	現代社会に望まれる住環境とは	これまでに学んだことを通して、住環境整備とその必要性についてディスカッションを行う。

平成29年度

<b>科目名</b>	インテリアデザイン	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	インテリアデザインに必要な専門知識及びその関連知識として、「インテリアデザイン史・論」「インテリア計画・インテリアデザイン基礎」「インテリア材料・構造生産」「インテリア装備・装飾」の4領域について学び、インテリアに関わる専門知識と技術を養うことを目標とする。		
<b>達成目標</b>	①日本及び西洋のデザイン史について理解し、主要な家具・調度品、様式の特徴を把握する。 ②インテリアエレメントの種類や特徴を理解する。 ③インテリアの材料及び構造について理解し、それらの特徴を把握する。 ④人体の寸法、物の大きさ等、スケール感を身に付ける。 ⑤インテリアの表現技法を習得する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 生活総合コース 建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①提出作品30% ②レポート・小テスト20% ③期末試験50%
<b>教科書</b>	日本インテリア設計士協会テキスト インテリア産業協会テキスト		
<b>参考書</b>	インテリア関連書籍をその都度提示する。		
<b>学生への要望</b>	授業目標を理解し、授業に臨むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)		
<b>自学自習</b>	予習：授業目標や内容について把握しておくこと (1時間)。 復習：各章毎の確認テストにしっかり復習をして臨むこと (1時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	これからの授業の進め方やインテリアデザインに必要な専門知識や技術について説明する。

平成29年度

<b>科目名</b>	家庭電気・機械	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	石原 正道		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができる。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。		
<b>達成目標</b>	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。		
<b>受講資格</b>	なし。	<b>成績評価 方法</b>	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点から、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
<b>教科書</b>	適宜プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996)</li> <li>小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002)</li> <li>横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993)</li> </ul>		
<b>学生への要望</b>	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 火曜日 12:50-14:20, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
<b>自学自習</b>	事前学習: 学習する内容に現れる未知の単語等について調べる (20分) 事後学習: 返却された確認ペーパーのコメントを確認すること。また、内容の確認・整理を行うこと (60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。

平成29年度

<b>科目名</b>	人間環境学		
<b>担当教員</b>	影山 志保		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて考えていく。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。		
<b>達成目標</b>	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としている。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価方法</b>	期末試験100点
<b>教科書</b>	印刷資料を配布する		
<b>参考書</b>	薬理学関係の書物		
<b>学生への要望</b>	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日ⅠからⅣコマ目食品衛生学研究室		
<b>自学自習</b>	授業の前にシラバスに示されている学習内容の予習をしノートを作成すること、授業後は学習内容についてノートまとめを行うことを自学自習とします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	金属元素	食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。
2	食品と金属元素	栄養金属元素（K, Na, P, Cl）、毒性金属元素（Hg, As, Cd, pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐一日摂取量）について学ぶ。
3	有機塩素系芳香族化合物	農薬の人体傷害である殺虫剤（DDT, BHC）、除草剤（PCP, 2, 4, 5-T, CNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。
4	食品と有機塩素系芳香族化合物	化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。
5	大量使用による化合物汚染	人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。
6	免疫機構と食物アレルギー	免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。
7	食品への健康影響	食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。
8	水と調理1	上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。
9	水と調理2	水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。
10	サリドマイド1	サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。
11	サリドマイド2	胎盤血管閉塞に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考え
12	内分泌攪乱化学物質	ステロイドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。
13	遺伝子操作作物と狂牛病	遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。
14	生体と化学物質1（毒素）	毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。
15	生体と化学物質2（栄養素）	栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。

平成29年度

<b>科目名</b>	人間環境学実験	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 志保		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間の生命の維持には空気・食品・水の摂取が必須であり、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この実験では生活環境の測定と評価、水の分析、体に付着している微生物、放射線の問題および食品腐敗微生物といった様々なテーマから人間環境を相対的に考えていく。		
<b>達成目標</b>	この実験では私たちと私たちを取り巻く環境を実際に測定し、対象に対する理解を深め、問題点を明らかにし、解決法を考え提案することを目標としている。		
<b>受講資格</b>	なし	<b>成績評価 方法</b>	①レポート20点 ②プレゼンテーション80点
<b>教科書</b>	印刷資料配布		
<b>参考書</b>	①水の分析 日本分析化学会北海道支部編（化学同人） ②環境微生物の測定と評価 山崎省二編（オーム社） ③カラーアトラス環境微生物 山崎省二編（オーム社）		
<b>学生への要望</b>	分析機器類、薬品やガス、環境中の微生物や毒性物質を取り扱うため、白衣を着用し機敏な行動をしてもらいたい。なお、実習にはPCを持参すること。実習室内には実習に使用しない物品などは持ち込まない。実習室での飲食は禁止する。実習終了後は実習室の清掃をお願いしたい。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日 I コマ目から IV コマ目 食品衛生学研究室		
<b>自学自習</b>	授業の前にシラバスに示されている学習内容の予習をしノートを作成すること、授業後は学習内容や実験結果のノートまとめを行うことを自学自習とします。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	人間環境学実験では生活環境である空気・水・土壌、食品と人に注目し、生活環境を汚染している環境汚染物質や食品が人間の健康にどのような問題を起こすのかについて、実際の測定を通して考えていく。ガイダンスでは授業内容の説明、実験方法の説明、機器使用方法の説明、成績評価方法についての説明を行う。

<b>科目名</b>	生活色彩論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 色は生活の中で欠かせない存在である。また、生活そのものを豊かにしてくれる大きな存在である。衣生活はもちろん食生活や、住生活の中で色が大きく関わっている。本授業では、生活の中で色について学び、快適な色彩環境の構築へと結びついて行けるように学修する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 衣生活、食生活、住生活に関わる色彩について、実習やコラージュ、また、討論を通して身につけていく。色彩学の基本を修得し、新たな快適な生活空間の提案へと結びついて行けるようにする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>〔到達目標〕</p> <p>①色彩の意味を理解する。 ②各領域における色彩を理解する。 ③生活空間の中で、色が心と体に与える影響を理解する。</p>		
<b>受講資格</b>	人間生活学科生活総合コース4年生	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業態度）20点 ②途中課題（コラージュなど）20点 ③完成作品 30点 ④課題（レポート、テストなど）30点 ①～④の総合的評価60点以上で合格。
<b>教科書</b>	随時印刷物の配布。		
<b>参考書</b>	「新版生活の色彩学」加藤雪枝・石原久代・中川早苗・橋本令子他、朝倉書店		
<b>学生への要望</b>	①遅刻欠席をせず、常に積極的に授業に取り組むこと。 ②コラージュ制作や、体験授業など主体的に取り組むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月（Ⅲ）、木（Ⅱ、Ⅲ）家政学館4F被服学研究室 不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。		
<b>自学自習</b>	予習：身の回りにある色について、考えをまとめてくる。（授業時間中に提出確認する）（1時間） 復習：本時のまとめをおこなう。毎回ノートの提出確認をする。（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1) 授業内容について 2) 色は何故見えるのか（服飾デザイン論内容の確認）
2	色の活用場面について	1) 色の活用場面についての事例報告 予習で調査した色に関する内容をもとに討論会を実施する。
3	世界の色彩	1) 世界の色彩について 色の捉え方は、国によって様々とされている。国別による色彩感について事例を紹介し理解を深める。
4	色彩の心理	1) 色彩が心と与える影響について（心地よい、暖かみや暗記力、認識力など） 2) 色彩の治癒力とは（沈静色など）
5	色彩の生理・感情	1) 色彩と生理作用について 2) 色彩と感情の関係について
6	衣生活における色彩①	1) 衣服の色が心と与える影響について あなたは何色の色を着ますか（保持していますか）。衣服の所持色から心理状態を探る。
7	衣生活における色彩②	1) 衣服の色と体温の関係について 色が体に及ぼす作用について、実体験をとおして考える。
8	食生活における色彩①	1) 色彩がおよぼす食品へのおいしさについて 彩りのある食事や食卓が、嗜好に影響をあたえることを体験を通して考える。
9	食生活における色彩②	1) 色が食欲に与える影響について 食欲増進、食欲抑制の献立のコラージュから、人間の嗜好と色の関係を探る。
10	住生活における色彩①	1) 照明と色について 2) 上手なインテリアコーディネートの基本として色の存在を考える。室内のコラージュから生活の中の色を考えていく。
11	住生活における色彩②	1) 快適な住環境と色の関係について 前の週の室内コラージュを発表し、住むことと色の関係を考える。
12	福祉におけるの色彩①	1) 色彩福祉検定とは 福祉現場において、色が利用者のみならず介護職員へも影響を与えていると言われている。生活を改善する色を考えていく。
13	福祉におけるの色彩②	1) カラーユニバーサルデザインとは 人間の色の感じ方は一律ではない。一般色覚者との色の見え方の違いを体験から学ぶ。
14	まとめと発表①	1) 今までの授業内容から、1つのテーマを見つけPCによる発表原稿を作成する。
15	まとめと発表②	1) 前の週でまとめた内容を、発表することによって内容の深化を進める。 2) 予習・復習で制作したノートのまとめを提出する。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	通年		
授業概要	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。		
達成目標	研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論文構成や文体を学ぶ。		
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組み姿勢50% ②研究報告・発表50%
教科書	資料を配布する。		
参考書	個々に指導・提示する。		
学生への要望	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)		
自学自習	先行研究を読み、調査をすすめる(毎週3時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を把握することの重要性について述べる。
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。
19	先行研究の調査 4	引き続き、先行研究の調査を進める。
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。
24	研究テーマの決定 2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。
25	研究計画と資料収集 1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。
26	研究計画と資料収集 2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。
27	調査研究と資料収集 3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。
28	調査研究と資料収集 4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。
29	調査研究と資料収集 5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択	
担当教員	小阪 康治			
開講期	通年			
授業概要	自分のテーマを見つけ、論文を書く。			
達成目標	自分のテーマを見つけ、論文を書く。			
受講資格	人間生活学科3・4年生	成績評価 方法	提出物について評価	
教科書	なし			
参考書	その都度指示する			
学生への要望	課題をきちんと提出すること。			
オフィスタイム	火曜日昼休み。研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	論文の書き方説明	
2	書いてきたものを批評す	
3	書いてきたものを批評す	
4	書いてきたものを批評す	
5	テーマに関する文章を読んで分析する。	
6	書いてきたものを批評す	
7	書いてきたものを批評す	
8	書いてきたものを批評す	
9	テーマに関する文章を読んで分析する。	
10	書いてきたものを批評す	
11	書いてきたものを批評す	
12	書いてきたものを批評す	
13	テーマに関する文章を読んで分析する。	
14	書いてきたものを批評す	
15	今学期の反省と来学期の計画	
16	今学期の予定。	
17	書いてきたものを批評す	
18	書いてきたものを批評す	
19	書いてきたものを批評す	
20	テーマに関する文章を読んで分析する。	
21	書いてきたものを批評す	
22	書いてきたものを批評す	
23	テーマに関する文章を読んで分析する。	
24	書いてきたものを批評す	
25	書いてきたものを批評す	
26	書いてきたものを批評す	
27	テーマに関する文章を読んで分析する。	
28	書いてきたものを批評す	
29	卒論提出のための全体の見直し	
30	卒論提出	

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究は、大学での学修のまとめである。 これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。			
達成目標	①これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	レポート60%、プレゼン40%	
教科書	特になし			
参考書	適宜、提示します。			
学生への要望	1. 進捗状況は細かく報告すること 2. 能動的ではなく積極的に行動			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限 (12:50~14:20) 木曜Ⅱ限 (10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：テーマについて多角的に検討すること (1時間) 事後学習：ゼミでの内容を踏まえて、テーマにまとめ (1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 研究とは 2. 今後のスケジュールの検討
2	卒業論文執筆の事始め (1)	1. 論文とレポートの違い 2. 興味・関心のカウンセリング
3	卒業論文執筆の事始め (2)	1. コピペと剽窃 2. 「意見」と「事実」
4	卒業論文執筆の事始め (3)	1. 資料の収集方法
5	卒業論文執筆の事始め (4)	1. 様々な分析方法
6	研究テーマ設定 (1)	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
7	研究テーマ設定 (2)	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
8	研究テーマ設定 (3)	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
9	研究テーマ設定 (4)	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
10	研究テーマ設定 (5)	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
11	訪問調査 (1) □	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
12	訪問調査 (2)	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
13	訪問調査 (3)	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
14	訪問調査 (4)	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告 2. スケジュール確認
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定
17	資料収集・分析 (1)	1. 資料収集 2. 資料分析
18	資料収集・分析 (2)	1. 資料収集 2. 資料分析
19	資料収集・分析 (3)	1. 資料収集 2. 資料分析
20	資料収集・分析 (4)	1. 資料収集 2. 資料分析
21	資料収集・分析 (5)	1. 資料収集 2. 資料分析
22	資料収集・分析 (6)	1. 資料収集 2. 資料分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	資料収集・分析（7）	1. 資料収集 2. 資料分析
24	資料収集・分析（8）	1. 資料収集 2. 資料分析
25	資料収集・分析（9）	1. 資料収集 2. 資料分析
26	卒業論文執筆の事始め（5）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
27	卒業論文執筆の事始め（6）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
28	卒業論文執筆の事始め（7）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
29	中間報告（1）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
30	中間報告（2）	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	難波 めぐみ, 佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探求を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 I. 研究テーマの設定 1. 先行研究論文の収集。2. 先行調査の分析。3. テーマの設定。II. 設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデータ収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。</p>			
達成目標	<p>〔到達目標〕 ①論文調査方法を学び、自分にあった方法を理解する。 ②論文の構成を理解する。</p>			
受講資格	特になし。	成績評価方法	①平常点30%（卒研に取り組む姿勢）、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60点以上で単位認定する。	
教科書	論文課題に対応し提示。			
参考書	随時案内する。			
学生への要望	<p>1. 指定日に必ず出席すること。 次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。 に努力を惜みず積極的に望む。</p> <p>2. 課題を 3. テーマの選定</p>			
オフィスタイム	（前期）木曜日 I、II（9:30～11:30）（後期）月曜日 I、II（9:30～11:30）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、ゼミ終了後確認して下さい。			
自学自習	<p>予習：関連する分野の新聞記事などをノートにまとめる。また、指定した資料を事前に読みまわめておくこと（1時間） 復習：受講内容や学修した内容などをノートにまとめ論文制作をすすめること（1時間）</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1年間の内容と留意事項
2	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
3	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
4	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
5	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
6	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
7	テーマ設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
8	テーマ設定	第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、第10回の討論会準備を行う。
9	テーマ設定	第8回に引き続き、討論会準備を行う。
10	仮テーマにおける討論会	仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。
11	仮論文テーマにおける討論	第10回仮テーマにおける討論会をおこない、論文制作が可能か検討。
12	論文テーマ設定	第11回からテーマ選定。第10回において論文テーマの選定に至らなかった場合は、再度調査発表を行い決定する。
13	論文作成方法を学ぶ	文献調査による調査方法とは。
14	論文作成方法を学ぶ	データ分析による調査方法とは。
15	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。
16	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。
17	資料収集	第16回同様に資料等の収集を行う。
18	資料分析調査	第16回から17回までに収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。
19	資料分析調査	第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。
20	資料分析調査	第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。
21	資料分析調査	第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。
22	調査及び資料収集	調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。
23	調査及び資料収集	アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。
24	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載することを徹底する。
25	調査及び資料収集	第24回同様に、調査及び資料収集に努める。
26	論文制作	第25回目までに、必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。
27	論文制作	第26回同様に、章立て通り分類を行う。
28	論文制作	章立て通りに分類が終了後、論文執筆に取り掛かる。まずは、はじめに（序）を記載し、第29回までに1度提出をすすめる。
29	論文制作	第28回において提示した、はじめに（序）の添削をおこなう。指導教員の指示に従いながら書き方を学んでいく。修正後再度提出することを繰り返す。
30	論文制作	第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	石原 正道			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Iでは主に研究を進めるための基礎的な知識と技術を得ることを目的とします。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶことになります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。			
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。卒業研究Iでは、これらの目標を達成するための基礎的な知識と技術を得るため、(1) 数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(2) 大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を目標とします。			
受講資格	なし	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。 具体的には、統計処理の技術や数的な処理などの研究テーマにより必要とされる知識等の習得上によって判断します。	
教科書	適宜提示する。			
参考書	適宜提示する。			
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。 次のページも研究室選択の材料としてください。 <a href="http://home.koriyama-kgc.ac.jp/~m_isihar/sotsuken.html">http://home.koriyama-kgc.ac.jp/~m_isihar/sotsuken.html</a>			
オフィスタイム	前期 月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 木曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 後期 月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 火曜日 12:50-14:20, No.1 情報処理教育研究室  他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp			
自学自習	事前学習：次回に学修する内容および前回の授業で指摘された点について文献等にあたり、内容を把握しておくこと。(90分) 事後学習：学修した内容の確認・整理を行うこと(60分)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。
2	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。
3	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
4	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
5	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
6	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
7	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
8	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
9	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
10	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
11	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
12	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
13	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
14	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
15	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
16	基礎事項習得状況の確認	卒業研究前半の基礎事項習得状況を確認します。
17	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
18	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
19	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
20	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
21	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
23	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
24	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
25	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
26	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
27	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
28	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
29	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
30	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。			
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。 2. 研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集し、分析を行う。			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で随時紹介			
学生への要望	疑問をどのようにもつのか、そのプロセスを認識して主体的に発表すること。			
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 限 創学館4階 No.1 研究室			
自学自習	予習：テーマに関係した課題について、情報収集からアセスメントまでを毎回実施して発表の準備を行うこと（2時間） 復讐：発表時の質疑を受けて、さらに調査し理論的に整理しておくこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。
2	テーマ設定に向けて (1)	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。
3	テーマ設定に向けて (2)	学生が関心を持っている研究内容についてディスカッション
4	論文の書き方 (1)	卒業論文の書き方について解説する。 ・論文のきまり ・引用文献 ・専門用語の定義のしかた
5	論文の書き方 (2)	文献の必要性 ・文献などの探し方 ・データの収集方法 ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用
6	論文の書き方 (3)	参考文献の活用法 ・参考文献の読み方 ・データのまとめ方
7	研究手法について (1)	量的研究 ・アンケート調査に関する基本的知識について
8	研究手法について (2)	量的研究 ・アンケート調査の方法について
9	研究手法について (3)	質的研究 ・面接調査に関する基本的知識
10	研究手法について (4)	質的研究 ・面接調査の方法について学ぶ
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
14	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
15	研究計画 (1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。
16	研究計画 (2)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。
17	研究計画 (3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。
18	調査内容の検討	調査内容の検討及び調査項目の作成
19	調査内容の検討	調査内容の検討及び調査項目の作成
20	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
21	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
22	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
23	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
24	情報処理	データのとりまとめ
25	情報処理	データのとりまとめ
26	情報処理	データのとりまとめ
27	情報処理	データの分析
28	情報処理	データの分析
29	情報処理	データの分析
30	研究計画の確認	4年次にむけ、研究の進捗状況を確認する

<b>科目名</b>	卒業研究 I		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐藤 典子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>大学での学びの集大成として、意欲的、主体的に研究に挑戦することをとおして、自分の研究したいテーマの方向性を絞り込むことを目的とする。</p> <p>1年目（3年生）は、自分の興味・関心のあることについて、研究計画書を作成し、ゼミを通して研究テーマの絞り込みを行い、研究の基本的な手法（先行研究の整理、論文の収集法、アンケート調査の方法等）を修得する。</p> <p>2年目（4年生）は、絞り込んだテーマに基づいてアンケート調査、インタビュー調査、論文執筆（論文の書き方、執筆要項の順守など）を行う。夏休みには、10月末の卒業研究発表会を踏まえて、効果的なプレゼンテーションを意識したパワーポイントの作成を行うことで、学会等での口頭発表の基礎力を培う。1月末までに論文執筆を終えることを目指す。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>大学での学びの集大成として、意欲的、主体的に研究に挑戦することをとおして、自分の研究したいテーマの方向性を絞り込むことを目的とする。</p> <p>1年目（3年生）は、自分の興味・関心のあることについて、研究計画書を作成し、ゼミを通して研究テーマの絞り込みを行い、研究の基本的な手法（先行研究の整理、論文の収集法、アンケート調査の方法等）を修得する。</p> <p>2年目（4年生）は、絞り込んだテーマに基づいてアンケート調査、インタビュー調査、論文執筆（論文の書き方、執筆要項の順守など）を行う。夏休みには、10月末の卒業研究発表会を踏まえて、効果的なプレゼンテーションを意識したパワーポイントの作成を行うことで、学会等での口頭発表の基礎力を培う。1月末までに論文執筆を終えることを目指す。</p>			
<b>受講資格</b>	主体的に「自分の研究」を切り拓いて進めることができる者	<b>成績評価 方法</b>	研究計画書の作成10点、アンケート調査・インタビュー調査20点、卒業研究発表会20点、論文50点の総合評価とする。	
<b>教科書</b>	研究内容によって、指導の中で紹介する。			
<b>参考書</b>	研究指導の中で、必要に応じて紹介する。			
<b>学生への要望</b>	<p>受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。</p> <p>卒業研究を論文にまとめる際は、章立てをよく考え、説得力のある文章構成を目指し、何度も推敲し完成させて欲しい。</p> <p>事前学修：次の授業までの課題を自己学修し、疑問点を確認しておくこと。（60分）</p> <p>事後学修：授業を踏まえて、課題に取り組み、論文を作成していくこと。（60分）</p>			
<b>オフィスタイム</b>	<p>前期：火（I・IIコマ）、木（I・IIコマ）</p> <p>後期：火（II・IVコマ）</p> <p>場所：教職課程推進室</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 研究とは 2. 研究の進め方 ～今後のスケジュール～
2	卒業研究の進め方 その①	1. レポートと論文のちがいがい 2. 論文の章立てについて
3	卒業研究の進め方 その②	1. 研究計画書の作成のしかた
4	卒業研究の進め方 その③	1. 研究ノートの作成方法について
5	卒業研究の進め方 その④	1. 研究論文や資料の収集方法について
6	卒業研究の進め方 その⑤	1. 研究方法について 2. 研究の分析方法について
7	研究テーマの設定 その①	1. 興味・関心のあることについて検討する
8	研究テーマの設定 その②	1. 興味・関心のあることについて検討する
9	研究テーマの設定 その③	1. 先行研究の検討 2. テーマの検討
10	研究テーマの設定 その④	1. 先行研究の検討 2. テーマの検討
11	訪問調査 その①	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
12	訪問調査 その②	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
13	訪問調査 その③	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
14	訪問調査 その③	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
15	中間まとめ	1. 研究計画書のプレゼンテーション
16	研究計画書の完成	1. 研究テーマの決定 2. 研究のスケジュール確認
17	研究資料の収集と分析 その①	1. 資料の収集 2. 試料の分析
18	研究資料の収集と分析 その②	1. 資料の収集 2. 試料の分析
19	研究資料の収集と分析 その③	1. 資料の収集 2. 試料の分析
20	研究資料の収集と分析 その④	1. 資料の収集 2. 試料の分析
21	研究資料の収集と分析 その⑤	1. 資料の収集 2. 試料の分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	研究資料の収集と分析 その⑥	1. 資料の収集 2. 試料の分析
23	研究資料の収集と分析 その⑦	1. 資料の収集 2. 試料の分析
24	研究資料の収集と分析 その⑧	1. 資料の収集 2. 試料の分析
25	研究資料の収集と分析 その⑨	1. 資料の収集 2. 試料の分析
26	卒業論文執筆に向けて その①	1. 執筆の決まりごと
27	卒業論文執筆に向けて その②	1. 執筆の決まりごと
28	卒業論文執筆に向けて その③	1. 執筆の決まりごと
29	中間報告 その①	1. 論文要旨の作成 2. 文章表現法
30	中間報告 その②	1. 論文要旨の修正 2. 後半に向けてのスケジュール確認

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	熊田 伸子,			
開講期	通年			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている</li> <li>卒業研究 I では、先行研究を調査、分析することで、自身のテーマ・目的を明確にし、テーマに即した研究手法を習得する</li> </ul>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに関する基礎的な知識が理解できている</li> <li>テーマに即した研究手法が習得できている</li> </ul>			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	出席40%、課題30%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特になし			
参考書	地域福祉情報、月刊福祉 その他、随時紹介する			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉に関するテーマについて、日常生活においても常に意識を持っていることが大切です。</li> <li>自主的に取り組んでください</li> </ul>			
オフィスタイム	月曜日及び金曜日の3時限、 創学館4階No.6 研究室			
自学自習	予習：テーマに関する情報の収集等（1時間） 復習：指導内容の確認（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究の意義</li> <li>卒業研究の進め方</li> <li>研究室のこれまでの論文の紹介</li> </ul>
2	卒業研究のテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が問題意識や関心を持っているテーマについてディスカッションを行う</li> </ul>
3	卒業研究のテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉分野の問題や課題について学ぶ</li> </ul>
4	研究手法① 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献などの探し方</li> <li>データの収集場所</li> <li>新聞記事の切り抜きと辞書の活用</li> </ul>
5	研究手法② 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献の活用法</li> <li>参考文献の読み方</li> <li>データのまとめ方</li> </ul>
6	研究手法③ 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献検索の方法について学ぶ</li> </ul>
7	研究方法Ⅳ④ 量的調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査に関する基本的知識について</li> </ul>
8	研究方法⑤ 量的調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の方法について</li> </ul>
9	研究方法⑥ 質的調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接調査に関する基本的知識</li> </ul>
10	研究方法⑦ 質的調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接調査の方法について</li> </ul>
11	テーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における福祉の問題や課題について学ぶ</li> </ul>
12	テーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における福祉の問題や課題の中から関心のあるテーマや問題意識を持っているテーマについてまとめ、発表</li> </ul>
13	先行研究調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマに関する先行研究について調べる</li> </ul>
14	研究計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおよその研究計画を立てる</li> </ul>
15	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> <li>随時、進捗状況を報告する</li> </ul>
16	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
17	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
18	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
19	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
20	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
21	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
22	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
23	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
24	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
25	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
26	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
27	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
28	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
29	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> </ul>
30	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒論執筆のための基礎研究</li> <li>4年次にむけ、研究計画を再検討する</li> </ul>

科目名	卒業研究 I		
担当教員	長田 城治		
開講期	通年		
対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択		
	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定する。 具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を習得し、論文の書き方を習得する。		
達成目標	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定しする。 ②先行研究を調査し、自身のテーマの新規性を把握する。 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。 ③論文の書き方を習得すること。		
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	提出課題80%、作業姿勢や対応20%
教科書	資料を配布する		
参考書	個々に指導する		
学生への要望	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	通年：月曜日 8：50～10：20 木曜日 8：50～10：20 創学館4F No.3研究室		
自学自習	予習・復習：自身の課題を整理し、ゼミで指導を受けた内容を基に研究を進めること。（各1時間）		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1.論文とレポート・報告の違いについて 2.論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1.先行研究の探し方と要点の把握について
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1.文章の書き方について 2.資料の収集方法について
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法について発表する。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表する。
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] このゼミでは、学生にとって身近な問題意識や「知りたい」気持ちを大切にテーマ設定を心がけています。堀の専門は臨床心理学なので、指導可能な内容は、虐待関連問題、施設の相談支援の在り方、女性の生き方や家族の問題、大学生の友人・恋愛・家族関係、電子メディアとメンタルヘルス、各種意識調査など。			
達成目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 3年次は、周辺の問題を俯瞰しながら、漠然としたテーマをどんどん絞り込んでいき、4年次の少し前にはテーマが設定される（仮タイトルができる）ことが目標です。そのための文献探索、資料あつめ、先行研究の把握がこのゼミの主な柱となります。			
受講資格	なし	成績評価 方法	ゼミにおける調査・発表内容（40%）、3年終了時「研究計画」の具体性・独自性・論理性等（40%）、文献・資料探索調査努力（30%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	テーマを絞り込む過程では、迷ったり、壁にぶつかったり、戻ったりしながら、1年をかけて自分の知りたいことをクリアカット（明確化）していきます。3年生の主な学習方法は、文献探索。なるべく多くの資料に触れ、良い文献を見つけ出してください。ゼミは定期的に関講しますので、必ず出席してください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：ゼミで発表する前には、重要キーワードや重要な概念をよく調べ、トピックや人物を紹介する再にはその背景や歴史的意味などについて説明ができるようにすること。 事後学習：ゼミの中で補足された事柄や、修正が必要になった事柄、反論や問題点の指摘を受けた点などについて、必ずあとで調査し、ノートあるいはレポートにまとめておくこと。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究ゼミの進め方、卒業研究の発表時期と方法、テーマ設定のプロセスや、3年次に行くことなどについて。
2	仮テーマ設定（1）	自分にとって興味関心のある分野、知りたいこと、掘り下げたいテーマ等について発表または討論し、文献を探
3	仮テーマ設定（2）	文献にあたり、調べてきたことを報告・発表する。
4	仮テーマ設定（3）	文献探索の中で分かったことを整理し、もっと知りたいことを探究する。
5	仮テーマ設定（4）	さらに文献探索を続け、対象分野その周辺を俯瞰し、キーワードを整理する。
6	仮テーマ設定（5）	文献探索を重ねながら、研究目的を絞り込んで、焦点化する。
7	論文の書き方（1）	論文とは何か。論文のスタイルについて（文章の書き方、主語述語、言葉の定義、構成、要約、謝辞についてのポリシーなど）。
8	論文の書き方（2）	論文とは何か。論文のルールについて（引用方法と盗用、一次資料二次資料、個人情報保護、守秘義務と開示の了承など）。
9	論文の書き方（3）	論文とは何か。いろいろな分野・スタイル・手法の論文を見て、テーマ設定の方法や研究のプロセスを吟味し、論文のイメージを収集していく。
10	資料の探し方（1）	図書館の使い方（文献複写のルール、資料請求、貸し出しルール、貸し禁の資料など）
11	資料の探し方（2）	資料検索エンジン、政府省庁公開資料、自治体公開資料など
12	研究方法（1）	量的分析について（統計資料、アンケート調査、統計処理、初歩的な統計概念など）
13	研究方法（2）	質的分析について（事例研究、構造化・半構造化面接の方法、記述式データの分類・分析方法など）。
14	研究方法（3）	文献レビュー、メタ分析について
15	進捗報告 I	ここまで調べてきた内容をレポートにして報告する。
16	文献探索（1）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
17	文献探索（2）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
18	文献探索（3）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
19	文献探索（4）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
20	文献探索（5）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
21	先行研究の調査（1）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
22	先行研究の調査（2）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
23	先行研究の調査（3）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
24	先行研究の調査（4）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
25	先行研究の調査（5）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
26	研究テーマの決定（1）	研究目的、仮説、研究方法を構成する。
27	研究テーマの決定（2）	データの収集方法（アンケート、インタビュー、新聞記事収集等）、収集内容を決定する。
28	研究テーマの決定（3）	データ収集の具体的な準備（施設見学やインタビューの対象選定、調査依頼、質問紙・面接票・分類表などの作成）と作業計画。
29	研究テーマの決定（4）	タイトル（仮）の決定。データ収集の開始。
30	レポート報告	タイトル（テーマ）、目的、仮説、調査方法などのアウトラインと次年度計画の発表または報告する。

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することが目的である。1年目は、卒業研究テーマの絞り込みと共に、調査研究の手法（市場調査、インターネット調査、統計解析手法など）や研究論文の書き方（シナリオ、著作権、パソコンの使い方、など）を学ぶ。		
達成目標	①調査研究のシナリオ作成や研究の進め方を学ぶために、先輩の卒業論文、関連の学会誌（日本家政学会誌、など）を多数読みこむ。 ②自分の卒業論文テーマを多数ピックアップし、オリジナリティー性や社会貢献度、興味・関心など様々な視点から絞り込みを行う。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	研究態度 : 60点 学術的レベル : 40点
教科書	特になし		
参考書	N02被服学研究室所蔵図書		
学生への要望	自分自身の大学での学修の総まとめであることを意識し、自主的に積極的に進めることを期待する。		
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		
自学自習	講義以外の時間は、卒業研究の時間と考え、自主的に研究を推進すること。卒研ゼミの時間には、進捗状況の報告を実施できるように心がける。卒研ゼミ時間以外でも指導が必要な時は、相談に応じることができる。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	2年間にわたる卒業研究を実施するための心構え、研究室の使用方法、卒業研究のスケジュール管理について説明を行う。
2	卒業研究の進め方、卒業論文作成の基本について（1）	卒業研究の進め方と卒業論文作成の基本について学ぶ。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①研究の基本（論文のオリジナリティー・独創的な研究とコピー） ②テーマの選択と決定
3	卒業研究の進め方、卒業論文作成の基本について（2）	卒業研究の進め方と卒業論文作成の基本について学ぶ。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①調査方法について 情報源（単行本、文献、インターネット等）と調査方法 ②引用方法と著作権の問題
4	卒業論文の書き方	卒業論文の書き方の基本を学び、卒業研究を進める方向づけをする。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①論文構成とそれぞれの書き方 ②引用文献の書き方
5	研究テーマの設定とワードの使い方	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（ワード）を修得する。
6	研究テーマの設定とエクセルの使い方（1）	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（エクセル）を習得する。
7	研究テーマの設定とエクセルの使い方（2）	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（エクセル：表・グラフ作成、など）を習得する。
8	研究テーマ（案）をパワーポイントで説明	設定した研究テーマについてパワーポイントを用い、テーマ設定の理由、目的について発表する。
9	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査（例えば、テーマが「生活者の節水の課題」であれば、地球上の水資源、世界の水事情、生活と水、など）を調査する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら調査を推進する。
10	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら調査を推進する。
11	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら調査を推進する。
12	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら、調査を推進する。
13	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
14	論文のシナリオ作成	周辺調査を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
15	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
16	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
17	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
18	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
19	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
20	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
21	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
22	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
23	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
24	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
25	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みます。
27	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みます。
28	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みる。その結果を、発表する。
29	研究調査の推進	研究方法に従って、調査研究を推進する。
30	研究調査の推進	研究方法に従って、調査研究を推進する。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	山形 敏明		
開講期	通年		
授業概要	これまで以上に学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。		
達成目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。		
受講資格	建築デザインコース3学年	成績評価 方法	毎週のレポート提出並びにプレゼンテーションに対し、評価する。
教科書	適宜、資料配付		
参考書	適宜、紹介する。		
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		
自学自習	予習 研究指導に基づき、ゼミ発表準備(1時間) 復習 指導に基づく研究、調査(2時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。
2	テーマ設定に向けて(1)	研究テーマについての相談。
3	テーマ設定に向けて(2)	研究テーマについての相談。
4	研究テーマ決定	卒研究テーマ(仮)を決定する。
5	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。
6	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。
7	論文の書き方について	梗概集等の論文の書き方について解説する。
8	既往論文の研究(1)	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。
9	既往論文の研究(2)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
10	既往論文の研究(3)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
11	既往論文の研究(4)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
12	研究方法について(1)	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。
13	研究方法について(2)	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。
14	研究方法について(3)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。
15	研究計画(1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。
16	研究計画(2)	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。
17	研究計画(3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究I全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	大泉 由美		
開講期	通年		
授業概要	これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。		
達成目標	①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告及び発表50%
教科書	必要に応じて資料を配付		
参考書	授業内で随時紹介		
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること 2. 途中経過を報告すること		
オフィスタイム	水曜 I 限 木曜 I 限 場所：創学館 4 階No.2 研究室		
自学自習	事前学習：テーマについて文献や調査を基に検討すること（1時間） 事後学習：授業での内容を踏まえて、テーマについてまとめ（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 卒業研究の意義、進め方について 2. 今後のスケジュールの検討
2	卒業論文の書き方（1）	・卒業論文の書き方についての解説
3	卒業論文の書き方（2）	・文献の探し方、データの収集について
4	卒業論文の書き方（3）	・参考文献の活用方法（1）
5	卒業論文の書き方（4）	・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方
6	研究テーマ設定（1）	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
7	研究テーマ設定（2）	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
8	研究テーマ設定（3）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
9	研究テーマ設定（4）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
10	研究テーマ設定（5）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
11	訪問調査（1）口	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
12	訪問調査（2）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
13	訪問調査（3）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
14	訪問調査（4）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告 2. スケジュール確認
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定
17	資料収集・分析（1）	1. 資料収集 2. 資料分析
18	資料収集・分析（2）	1. 資料収集 2. 資料分析
19	資料収集・分析（3）	1. 資料収集 2. 資料分析
20	資料収集・分析（4）	1. 資料収集 2. 資料分析
21	資料収集・分析（5）	1. 資料収集 2. 資料分析
22	資料収集・分析（6）	1. 資料収集 2. 資料分析
23	資料収集・分析（7）	1. 資料収集 2. 資料分析
24	資料収集・分析（8）	1. 資料収集 2. 資料分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	資料収集・分析（9）	1. 資料収集 2. 資料分析
26	卒業論文執筆の事始め（5）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
27	卒業論文執筆の事始め（6）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
28	卒業論文執筆の事始め（7）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
29	中間報告（1）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
30	中間報告（2）	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択	
担当教員	添田 祐司			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究の意義を理解したうえで、研究テーマを明確にする。また、テーマに即した研究手法を習得する。			
達成目標	①研究テーマを設定すること。 ②研究目的に沿った研究計画を立てること。 ③研究計画に沿って資料収集を行うこと。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%。	
教科書	特になし			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館 4F、No.2 研究室			
自学自習	事前学習：示された課題等に取り組んでくること。 事後学習：指摘された点についてノート等にまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の意義、卒業研究の進め方について学ぶ。
2	卒業研究テーマについて	学生が関心をもっている研究内容についてディスカッションを行う。
3	卒業研究テーマについて	学生が関心をもっている研究内容についてディスカッションを行う。
4	研究手法① 文献研究	文献の検索方法、データの収集、参考文献の活用法等について
5	研究手法② 文献研究	文献の検索方法、データの収集、参考文献の活用法等について
6	研究手法③ 文献研究	文献の検索方法、データの収集、参考文献の活用法等について
7	研究方法①	量的研究について
8	研究方法②	量的研究について
9	研究方法③	質的研究について
10	研究方法④	質的研究について
11	テーマの検討①	関心のあるテーマについてまとめる。
12	テーマの検討②	関心のあるテーマについてまとめたことを発表する。
13	先行研究の調査	研究テーマに関する先行研究を調べる。
14	研究計画書の作成①	研究計画書の構想を立てる。
15	研究計画書の作成②	おおよその研究計画書を作成する。
16	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
17	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
18	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
19	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
20	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
21	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
22	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
23	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
24	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
25	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
26	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
27	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
28	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
29	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
30	研究計画の確認	4年次に向け、研究の進捗状況を確認し、必要に応じ研究計画を修正する。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー		
開講期	通年		
授業概要	A. Express succinctly research themes and personal career information. B. Demonstrate comprehension of terminology for career choice. C. Write terminology and career information in contemporary formats.		
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers.		
受講資格	大3年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude 2. Demonstration of Four Skills in Research 3. Documents and Reports
教科書	(none)		
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.		
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines. 2. Conduct and continue research on a daily basis. 3. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!		
オフィスタイム	Regular research hours (Wednesday 8:30 ~ 12:00), Thursday 5th period (16:10 ~ 17:40), and by appointment.		
自学自習	Advisable to partake in research and self-study every day. Each task completed should be thoroughly checked and confirmed by the student and professor.		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Guidance	Preliminary Guidance.
2	Guidance	Second Guidance Session.
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.
4	Preliminary Research	Continued discussion of preliminary research.
5	Defining Objectives	Define the objectives for the first semester of the year.
6	Defining Objectives	Define the objectives for the second semester of the year.
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed.
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed.
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.
10	Career Objectives	Continue to correlate research themes to career objectives.
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and related themes.
15	Career Parameters	Define additional in-depth career parameters and related themes.
16	Report on Parameters	Write and submit the rough draft of report on career parameters.
17	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.
18	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four skills needed for career success.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.
20	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.
21	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.
22	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.
23	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.
24	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.
25	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.
26	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.
27	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.
28	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.
29	Consultation on Final Research Report	Continue consultation with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.
30	Final Research Report	Submit the final, cumulative research report. Report includes a comprehensive summation of research conducted throughout the year and decisive conclusions on the students career choices.

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していく。探究することのおもしろさを知って研究を進める。			
達成目標	各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げていく。			
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位	成績評価方法	研究過程（態度・発表準備等）（60%）、発表（10%）、研究論文等まとめ（30%）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：水曜日と木曜日の午前 後期：月曜日の午後と火曜日・金曜日の午前 創学館N o. 1 研究室			
自学自習	課題を見つけ、調べながら次のステップに進む。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方
5	資料集め	資料を集める
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り
7	必要資料集め	再び不足資料を探す
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。
10	論文構想②	論文構想を模索
11	論文構想③	書ける論文のための骨組みの決定
12	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成①
13	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成②
14	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成③
15	プレゼンテーションのため	プレゼンの練習
16	プレゼンテーションのため	プレゼンの練習
17	論文要旨集	論文要旨集作成
18	論文執筆①	論文の書き方
19	論文執筆②	論文執筆
20	論文執筆③	論文執筆
21	添削	論文添削指導
22	添削	論文添削指導
23	追加資料集め	足りない資料など
24	追加資料集め	足りない資料など
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導
28	論文のまとめ	まとめと確認
29	論文提出用作成	提出原稿と体裁
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	小阪 康治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	本年度は募集しない。			
<b>達成目標</b>	自分でテーマを考え、自分で調べ、自分で考え、自分で書く。これらのことを体験することを目標とする。卒論はできるだけ多くの枚数を書く。それは就職後の組織の中でのレポート等の練習にもなる。			
<b>受講資格</b>	人生の学生であること	<b>成績評価 方法</b>	提出物と授業時の発表、出欠による。	
<b>教科書</b>	なし			
<b>参考書</b>	学生とその都度相談する			
<b>学生への要望</b>	毎回、きちんと課題を提出すること。 このシラバスは一応の方針なので、詳細は受講生と話し合って決める。また、途中で進度を見ながら、修正して進めていく。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日昼休み			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	今年度の方針	方針について話し合う。
2	話し合い	各自のテーマを話し合いによって決める。
3	講義	文章の書き方についての諸注意。実際に良い文章を分析する。
4	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
5	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
6	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
7	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
8	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
9	講義	先生が書いている本についての批評
10	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
11	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
12	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
13	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
14	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
15	まとめ	前期のまとめ、と後期についての宿題
16	話し合い	後期の方針と、各自の計画の点検
17	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
18	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
19	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
20	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
21	小論文	テーマを出されてすぐに書く時の、文章の書き方。入社試験などの対策も含む。
22	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
23	講義	先生の現在の研究の文章を批判的に検討する。
24	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
25	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
26	小論文	テーマを出されてすぐに書く時の、文章の書き方。入社試験などの対策も含む。
27	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
28	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
29	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
30	まとめ	本年度を振り返って

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 卒業研究は、大学での学修の集大成として総合的に学問をみつめ、そこから、新たに創意工夫しようとする自主的な取り組みが出来るようにすることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 3年次の進捗状況から、更に調査分析を進め、中間発表の手法を学ぶ。また、1月の本発表に向けての発表手法や論文の完成を目指す。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>[到達目標] ①論文構成を理解し、論文を完成させる。 ②PCを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。</p>			
<b>受講資格</b>	特になし。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（主体的な取り組み状況）30点 ②中間・本発表状況 30点 ③論文の完成度 40点 ①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
<b>教科書</b>	特になし。論文課題に対応し資料配布。			
<b>参考書</b>	随時紹介。			
<b>学生への要望</b>	論文制作は、主体的な取り組みが重要となる。決められた日程問わず、常に前向きに取り組み、理解が困難な場合などは、次週にまわさず進んで質問できるように努力する。			
<b>オフィスタイム</b>	(前期)火(Ⅱ、Ⅲ)、木(Ⅱ、Ⅲ)、(後期)月(Ⅲ)、木(Ⅱ、Ⅲ) 家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、ゼミ終了後確認して下さい。			
<b>自学自習</b>	予習：関連記事を新聞などで探し、疑問点や課題を抽出する。(1時間) 復習：事前学修や授業で調べた内容を、ノートにまとめ論文作成をすすめること。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	論文制作	3年次の資料収集及び分析調査結果を踏まえ、論文の作成方法を学ぶ。
2	論文制作	論文の章立てを行い、執筆をスタートさせる。
3	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
4	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
5	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
6	論文制作	執筆した内容を提出し添削。執筆指導後、執筆を進める。
7	論文制作	執筆を進める。随時添削。
8	論文制作	途中経過報告会及び討論会
9	論文制作	執筆を進める
10	中間報告の内容を決める	中間報告会での報告内容を決める
11	中間報告の準備	目的、方法、結果(途中経過)の記入方法を学ぶ
12	中間報告の準備	第11回で学んだことを活かして、目的、方法、結果(途中経過)を記入提出
13	中間報告の準備	第12回に提出した発表原稿の指導内容をもとに、修正後提出
14	中間報告の準備	発表ppの制作方法を学ぶ
15	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作方法の提示。発表PPの制作に取り掛かる。
16	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作。生活総合コースは、中間発表までにタイトル及びサブタイトルの提出となるので、最終タイトル及びサブタイトルを決定する。
17	中間発表の準備	タイトル及びサブタイトルの決定。中間報告の原稿及びPP準備。
18	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。原稿の提出及び添削、修正。来週完成を目指す。
19	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。ゼミ生同士で発表の練習を行い、より良い発表方法を学んでいく。
20	発表終了後の反省報告会	中間発表会を終えて、今後の進め方や反省などを学生及び教員間で確認をする。
21	論文制作	中間発表会での指摘や指導やアドバイスを受けて、論文修正などを行っていく。
22	論文制作	12月上旬をめどに、論文の完成を目指す。
23	論文制作	各章ごとに、論文執筆状況を提出し確認を受ける。
24	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。
25	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の制作方法を学び、目的・方法・結果に分けて記入する(提出添削)
26	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の修正。来週完成を目指す。
27	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨集原稿の完成を目指す。
28	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。
29	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。
30	論文制作	論文提出方法を学ぶ。

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築 デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単 位 必修
<b>担当教員</b>	廣野 正子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	研究テーマに関しての疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。			
<b>達成目標</b>	研究テーマに対しての答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表を行う。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科	<b>成績評価 方法</b>	課題80%、発表20%	
<b>教科書</b>	随時、印刷物の配布			
<b>参考書</b>	授業内で適宜紹介する			
<b>学生への要望</b>	諦めないで、研究をやり遂げること。			
<b>オフィスタイム</b>	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研究室			
<b>自学自習</b>	予習：テーマに関係した課題について、情報収集からアセスメントまでを毎回実施して発表の準備を行うこと（2時間） 復習：発表時の質疑を受けて、さらに調査し理論的に整理しておくこと（1時間） □			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	調査内容の検討及び作成	調査内容の検討及び調査項目の作成
2	調査内容の検討及び作成	調査内容の検討及び調査項目の作成
3	調査依頼及び集計	調査依頼
4	調査依頼及び集計	調査結果の集計
5	調査依頼及び集計	調査結果の集計
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
10	卒業研究発表に向けたパ ワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
11	卒業研究発表に向けたパ ワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
12	卒業研究発表に向けたパ ワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
13	卒業論文の作成	卒業論文の作成
14	卒業論文の作成	卒業論文の作成
15	卒業論文の作成	卒業論文の作成

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養う。			
<b>達成目標</b>	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。 ②地域に貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース4年生	<b>成績評価 方法</b>	論文完成度60% 研究への取り組み40%	
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布する			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。			
<b>オフィスタイム</b>	通年：月曜日8：50～10：20 木曜日8：50～10：20 創学館4F No.3研究室			
<b>自学自習</b>	予習・復習：自身の課題を整理し、ゼミで指導を受けた内容を基に研究を進めること。（各1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	堀 琴美			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 卒業研究Ⅰ（3年次）で作成した研究計画に沿って、調査を行い、データを処理し、論文を書いています。このゼミでは、心理学的手法（アンケート調査、統計処理、個人インタビュー、集団討論等）を使って研究する方法も必要に応じて指導します。			
<b>達成目標</b>	[授業終了時の達成課題（到達目標）] ①論理的で分かりやすい文章を丁寧に書き上げること。 ②研究のために必要な良質な文献を見つけ出し、十分に読み込んでいること。 ③調査やデータ処理を適切に行い、誠実な態度で結果の考察を行っていること。 ③引用の約束事を理解し、引用・参考文献の書き方を習得していること。 なお、福祉コースの学生は、他のコース学生よりも3か月早い10月末に本発表が行われますので、この時期までに論文の完成を目指します。			
<b>受講資格</b>	なし	<b>成績評価 方法</b>	論文の完成度（テーマ、構成、調査力、文章力、独自性、発想力、論理性、データ処理、文献資料の質と量など）（80%）、発表会への参加態度（10%）、ゼミの参加態度（10%）	
<b>教科書</b>	テーマ別に提示			
<b>参考書</b>	テーマ別に提示			
<b>学生への要望</b>	4年生は、定期的にゼミに出席して、研究の進捗を報告してください。そして、毎回のゼミで次の目標を設定し、コツコツと作業を積み上げていきましょう。進め方（計画作成）は、国家試験対策や就活とも合わせて、ひとりひとり自分で作ってもらいます。なるべくはやい時期から書き始めるようにしてください。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜 I 限、水曜Ⅳ限 臨床心理学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：ゼミで発表する前には、重要キーワードや重要な概念をよく調べ、トピックや人物を紹介する再にはその背景や歴史的意味などについて説明ができるようにすること。 事後学習：ゼミの中で補足された事柄や、修正が必要になった事柄、反論や問題点の指摘を受けた点などについて、必ずあとで調査し、ノートあるいはレポートにまとめておくこと。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	論文作成タイムスケジュールを作成する。
2	テーマやアウトラインの確認	仮タイトル、研究目的、仮説、研究方法、データ収集の進捗などを確認する。
3	データ処理（1）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
4	データ処理（2）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
5	データ処理（3）	アンケートデータの回収・集計、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
6	データ処理（4）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
7	データ処理（5）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
8	データ処理（6）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
9	データ処理（7）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など
10	データ処理（8）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など
11	考察（1）論文の執筆	データの分析結果から考察を行う。
12	考察（2）	データの分析結果から考察を行う。
13	考察（3）	データの分析結果から考察を行う。
14	考察（4）	データの分析結果から考察を行う。
15	考察（5）	データの分析結果から考察を行う。
16	論文の執筆（1）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
17	論文の執筆（2）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
18	論文の執筆（3）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
19	論文の執筆（4）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
20	論文の執筆（5）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
21	論文の執筆（6）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
22	中間発表（または本発表）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）
23	論文の執筆（7）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。
24	論文の執筆（8）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
25	論文の執筆（9）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
26	論文の執筆（10）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
27	論文の仕上げ（1）	引用文献の記載方法を確定し、そのルールに従って丁寧に文献表記を行う。
28	論文の仕上げ（2）	用語や訳語の統一、表・グラフ等の表記ルールに従った記載、引用文献の表記法、内容のチェックなど。
29	論文の仕上げ（3）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	本提出	完成した論文を最終チェック。特に27回、28回めの時に学んだチェックポイントを再点検し、誤字脱字、全体の統一性、さらに落丁のないことを確認して提出する。

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活 学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単 位 必修
<b>担当教員</b>	武井 玲子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することを目的としている。 1年目（3年生）は、卒業研究テーマの絞り込みを目標としつつ、卒業研究の基本的な進め方や研究手法（文献調査、インターネット調査、市場調査、統計解析手法など）や研究論文の書き方（シナリオ、著作権、パソコンの使い方、など）を修得してきた。 2年目（4年生）は、絞り込んだテーマのシナリオに沿って研究を推進し、10月の中間報告会、1月の最終報告会での発表、仮論文提出、最終的な卒業論文を完成させ冊子として提出するスケジュールで進める。			
<b>達成目標</b>	1年目に修得した研究の基本的な進め方により研究を推進し、10月開催の中間報告会、1月開催の最終報告会での発表と仮論文提出に続き、最終的な卒業論文を完成させ冊子として提出する。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	研究態度 : 30点 学術的レベル : 70点	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	N02被服学研究室所蔵図書			
<b>学生への要望</b>	自分自身の大学での学修の総まとめであることを意識し、自主的に積極的に進めることを期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			
<b>自学自習</b>	講義以外の時間は、卒業研究を推進すること。卒研ゼミ学生同士あるいは同級生との卒研テーマに関する議論を深めることは有用であり、積極的に実施すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究Ⅱの1年間のスケジュールの確認と研究を進めるにあたっての心構え、などの説明を行う。
2	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
3	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
4	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
5	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
6	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
7	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
8	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
9	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
10	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
11	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
12	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
13	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
14	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
15	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
16	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
17	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
18	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
19	中間報告会の予行と発表	パワーポイントを用いて、持ち時間内で発表できるように繰り返し練習をし本番に臨む。 質疑応答対策も合わせて実施する。
20	研究調査の継続と論文作成	中間報告会でいただいた質疑応答やご意見内容は論文に反映させ、論文の完成をめざす。
21	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
22	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
23	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
24	卒業論文発表会の予行と発表、卒業論文仮提出	パワーポイントにて時間内で卒業論文発表を行えるように練習し、本番に臨む。 発表でいただいた質疑応答、ご指導点はメモをしておき、必要に応じて調査研究を実施して最終論文に反映させる。 また、この時点までに作成した論文を指定時間・指定場所に仮提出する。
25	卒業論文仮提出後のチェック	仮提出論文の最終チェックを行い、追加修正する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	卒業論文仮提出後のチェック	仮提出論文の最終チェックを行い、追加修正する。
27	卒業論文製本印刷	製本化に向けて印刷作業を実施する。
28	卒業論文製本印刷	製本化に向けて印刷作業を実施する。
29	卒業論文製本発注納品受理	製本された論文の最終チェックを行う。
30	製本化した卒業論文を提出	指定時間までに論文を提出し、最終審査を受ける。

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	佐久間 邦友			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	卒業研究は、大学での学修のまとめである。 卒業研究Ⅰの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを向上させる。そして論文執筆方法を習得・体得し、卒業論文を完成させる。			
<b>達成目標</b>	①これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決め、卒業論文をまとめることができたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキル、プレゼンに関する技法を身につけることができたか。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	卒業論文70%、プレゼン30%	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	適宜、提示します。			
<b>学生への要望</b>	1. 進捗状況は細かく報告すること 2. 能動的ではなく積極的に行動			
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
<b>自学自習</b>	事前学習：テーマについて多角的に検討すること（1時間） 事後学習：ゼミでの内容を踏まえて、テーマにまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 研究とは 2. 今後のスケジュールの検討
2	中間報告（1）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
3	中間報告（2）	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討
4	資料収集（1）	1. 資料の収集方法
5	資料収集（2）	1. 資料の収集方法
6	執筆作業（1）	1. 執筆 2. 添削
7	執筆作業（2）	1. 執筆 2. 添削
8	執筆作業（3）	1. 執筆 2. 添削
9	執筆作業（4）	1. 執筆 2. 添削
10	執筆作業（5）	1. 執筆 2. 添削
11	執筆作業（6）	1. 執筆 2. 添削
12	執筆作業（7）	1. 執筆 2. 添削
13	執筆作業（8）	1. 執筆 2. 添削
14	執筆作業（9）	1. 執筆 2. 添削
15	執筆作業（10）	1. 執筆 2. 添削
16	執筆作業（11）	1. 執筆 2. 添削
17	執筆作業（12）	1. 執筆 2. 添削
18	プレゼン練習（1）	1. プレゼン練習と質疑への対応
19	プレゼン練習（2）	1. プレゼン練習と質疑への対応
20	中間発表への準備	1. 中間発表への準備
21	中間発表	1. 中間発表にて発表
22	執筆作業（13）	1. 執筆 2. 添削
23	執筆作業（14）	1. 執筆 2. 添削
24	執筆作業（15）	1. 執筆 2. 添削
25	執筆作業（16）	1. 執筆 2. 添削
26	プレゼン練習（3）	1. プレゼン練習と質疑への対応
27	本発表への準備	1. 本発表への準備
28	本発表	1. 本発表にて発表

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	論文再校	1. 本発表での質疑への応答 2. 論文の再校
30	論文提出	1. 論文提出 2. 口頭試問

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	熊田 伸子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている		
<b>達成目標</b>	・卒業研究Ⅱでは、10月末の発表会で報告し、2年間の成果として論文をまとめる		
<b>受講資格</b>	人間生活学科	<b>成績評価 方法</b>	出席30%、報告・発表30%、論文40%
<b>教科書</b>	特になし		
<b>参考書</b>	随時プリントを配布する 適切な論文を適宜紹介する 地域福祉情報、月刊福祉等を参考とする		
<b>学生への要望</b>	・研究計画に沿って、主体性を持って進めてください		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日及び金曜日の3時限 創学館4階 No.6 研究室		
<b>自学自習</b>	予習：テーマに関する文献を読む。調査を行った場合、分析を行う。(2時間) 復習：指導に沿って、まとめる。(1時間～2時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演習	・テーマに即した内容を調べ、発表し、ディスカッションを行う
2	研究計画書の作成	・研究計画書を作成する ・論文の構成を考える
3	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
4	論文の作成	・テーマに関連する研究会等に参加する
5	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
6	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
7	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる
8	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる
9	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
10	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
11	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
12	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
13	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
14	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
15	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
16	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
17	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
18	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
19	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
20	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
21	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
22	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
23	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
24	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
25	発表	・卒業研究発表会で発表する
26	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
27	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
28	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
29	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
30	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる